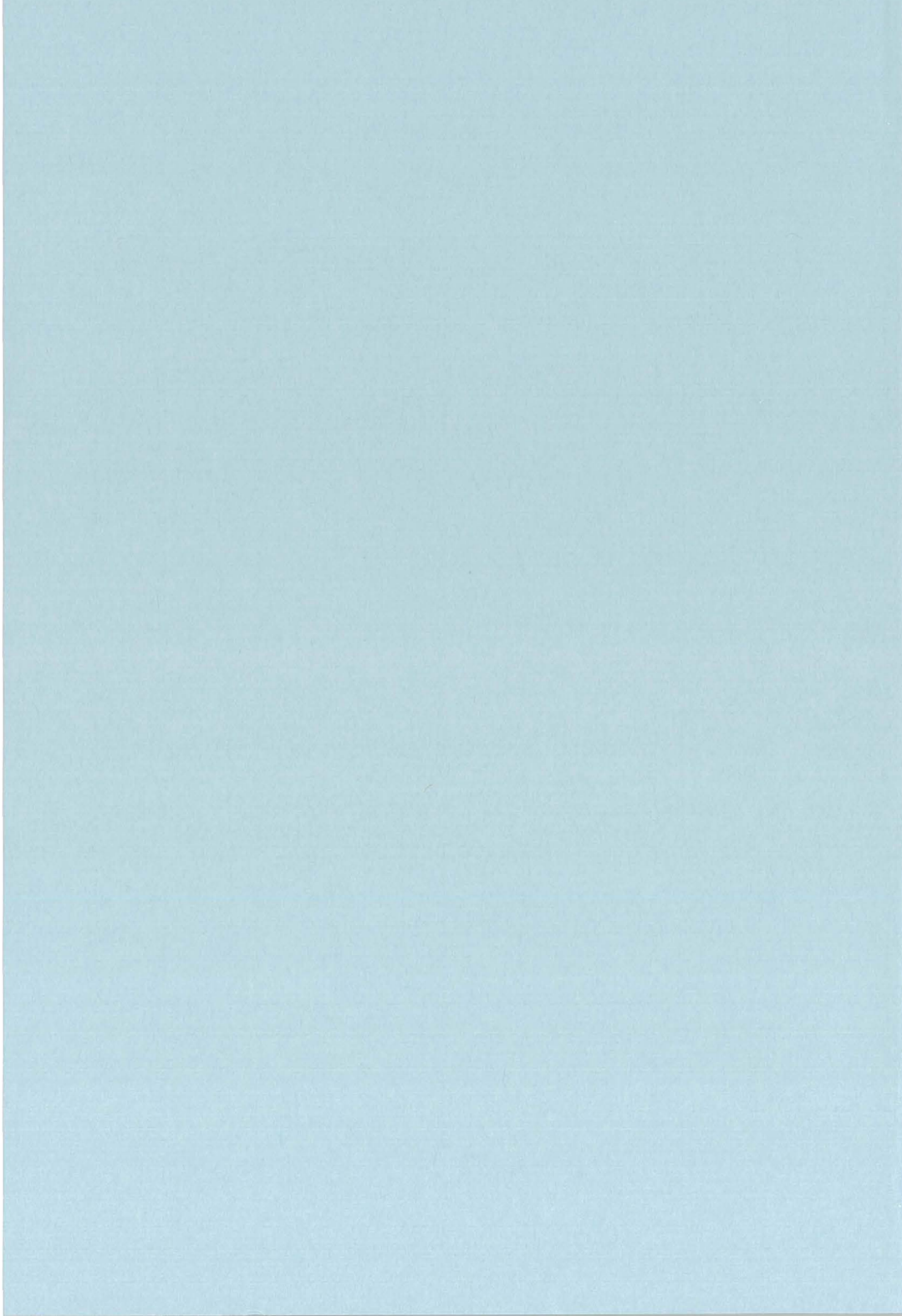


ISSN 1344-476X

公益財団法人  
東洋文庫年報

2012年度

公益財団法人 東洋文庫



## 目次

I	2012年度の東洋文庫	1
II	図書事業	4
1.	資料の収集	4
2.	資料の整理	6
3.	資料の利用と複写サービス	6
4.	書庫資料の見学と研修	9
5.	資料の保存整理と複製	12
6.	書誌情報の公開	12
7.	書庫内資料と書架スペース	14
8.	電子図書館情報システム	14
III	研究事業	19
1.	調査研究	19
A.	超域アジア研究	19
B.	歴史・文化研究	26
C.	資料研究	42
D.	地域研究プログラム	43
E.	受託研究	46
F.	日本学術振興会科学研究費による調査研究	47
G.	東洋文庫研究員・研究課題一覧	58
2.	研究資料出版	65
3.	研究情報普及	66
A.	講演会	66
B.	東洋文庫アカデミア	76
C.	データベース公開	76
D.	研究者の交流および便宜供与のサービス	76
E.	国際交流	80
4.	研究員等の研究業績	80

IV	普及・展示事業	126
1.	展示	126
2.	広報普及	128
V	業務報告	130
1.	総務報告	130
2.	人事報告	132
3.	会計報告	134
VI	役職員名簿	148
1.	役員	148
2.	評議員	149
3.	東洋学連絡委員	149
4.	名誉研究員	150
5.	職員・研究員	151
6.	客員研究員	154

## I 2012年度の東洋文庫

2012年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6月の評議員会にて、任期満了となった理事3名の改選が行われ、理事には、斯波義信、中根千枝、山川尚義の各氏が再任された。職員では、6月に総務部の藤村由美子氏が依願退職し、その後任として、4月に堀井亮氏を参事として採用した。

民法改定により当財団は特例民法法人となっており、2013年11月までに新法に基づく財団に移行する必要がある。昨年度2月の理事会・評議員会にて、①公益財団法人への移行、②新定款、③代表理事・業務執行理事、④諸規定が決定され、更に、最初の評議員選定委員会にて、最初の評議員も選任された。今年度は、これをベースに、具体的な申請手続きを進めた結果、11月に公益財団への移行の内諾を得、本年3月に正式な認可を取得した。本年4月1日に新公益財団への移行登記を行う事となる。

図書部関係では、当文庫のデータベースへの月間アクセス数が月間約25万件のレベルで推移した。本年度の当文庫の図書の増加は、購入4,094冊、受贈7,412冊、合計11,506冊であった。

国立国会図書館からの研修員の受入れは昨年度末で終了したが、今後の国立国会図書館との具体的協力として新たな覚書を4月に締結し、当方の図書保存・修復についての国立国会図書館側の協力と、先方の研究者への当方の便宜供与を進める事とした。又、台湾中央研究院との協力協定については、6年間の期限延長を取り決めた。懸案であった「山本達郎博士寄贈図書目録」を、和文・英文ともに刊行した。

春の東洋学講座は、塚原東吾氏（神戸大学教授）「オランダ語・日蘭関係史料による19世紀の古気候再現」、岩尾一史氏（神戸外国語大学客員研究員）「チベットの文字の文化史」、池田美佐子研究員（名古屋商科大学）「エジプトにおける民主主義の系譜と議会文書」を開催した。

秋の講座は、石橋崇雄研究員（国士舘大学教授）「判ると愉しい“大清帝国”

文献史料」、岡本隆司氏（京都府立大学准教授）「モリソンパンフレットの世界」、田仲一成図書部長「中国の族譜と同族結合の実態」を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物 10 冊の刊行に加え、論叢類 5 冊を発刊した。又、各種研究会・講演会を計 138 回開催し、合計参加人数は 2,185 人であった。受入れ外来研究員 5 名、外国人研究者への便宜供与は、仏国、韓国、ドイツ、中国等より 44 名であった。日本学術振興会特別研究員 PD として 9 名を受け入れた。

本年度よりの新しい試みとして、資料研究講習会を 8 月末より 3 日間開催した他、3 月には「総合アジア圏域研究国際シンポジウム」を 2 日間に渡って開催した。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、来年度より、一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催する事とし、濱下研究部長をリーダーとするタスクフォースを組成し、開講の準備を取り進めた。

ミュージアムでは、

- (1) 「東インド会社とアジアの海賊」(2012 年 3 月 7 日～2012 年 6 月 24 日)
- (2) 「ア！教科書でみたゾ」(2012 年 7 月 4 日～2012 年 11 月 4 日)
- (3) 「もっと北の国からー北方アジア探検史」(2012 年 11 月 14 日～2013 年 3 月 10 日)
- (4) 「マリー・アントワネットと東洋の貴婦人ーキリスト教文化をつうじた東西の出会い」(2013 年 3 月 20 日～2013 年 7 月 28 日)

を開催し、それぞれの図録を「時空をこえる本の旅」シリーズとして発刊した。

又、これらの展示に関連した講演会を合計 11 回開催した。これらの企画作業の一環で、牧野元紀主幹研究員が、ロシア音楽博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所を訪問した。

ミュージアムでは、新たに月刊の web ニュースレターの発刊を開始。又、静嘉堂文庫・永青文庫と共同で、「ふみクラブ（文庫部）」という共同ポイント制度を導入した。又、11 月には、玄関周りの装飾を改善した。

ミュージアム関連で、多数の報道がなされ、NHK 日曜美術館で取り上げ

られた他、榎原稔理事長が、BS ジャパン、BS-TBS 等の番組に登壇した。又、マンスリー三菱にても取り上げられた。

予てより、東京藝術大学と種々協力を進めてきたが、両者間で協力協定を締結の事となり、12月5日に宮田亮平藝大学長、榎原理事長間で調印が行われ、又、オリエントホールにて記念の歌曲・バージナル演奏が行われた。又、1月には展示に合わせ、オリエント・カフェにて「ロシア歌曲の夕べ」を開催した。

ハーバード・エンチン図書館・研究所とは、協力協定の一環として、当文庫は東大・京大と並んで、毎年研究員の派遣応募の資格を得ているが、本年度は当文庫の牧野主幹研究員が合格した。牧野研究員は本年8月より約10か月間、Visiting Scholarとして、ハーバードで研究活動を行う。

ハーバード・エンチン図書館より重複本の交換の提案があり、9月に斯波文庫長、牧野主幹研究員がハーバードを訪問し、詳細を打ち合わせた。又、三菱財団よりは、牧野主幹研究員の「東洋文庫アーカイブ構築」に付、助成金が出された。

本年度も、英国大使、フランス大使、イラン大使、ラトビア大使、スイス大使、フィンランド大使、インドネシア大使、カナダ公使、エール大図書館長、フランス国立図書館長、イラン議会図書館長、ハーバード大マーク・C・エリオット教授、福田康夫元首相、韓国学士院、フランス極東学院院長、等の多数のVIP訪問があった。

規程関係では、招聘旅費規準、公的研究費による臨時職員採用等に関する取扱要領、アカデミア講師取扱要領、を定めた。

本郷消防署より「消防水利設置協力功勞」の表彰を受けた他、駒込警察署と大規模災害時の協定を締結した。

財政面では、本年度は年間収支ほぼ均衡の予算を組んでいたが、ミュージアムの入場者数が予定を下回った事、及び、空調の電気代が予想以上に掛かった事等より、約24百万円の収支赤字となり、運営調整積立資産を取り崩した。

以上

## Ⅱ 図 書 事 業

### 1. 資料の収集

#### A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は 21,324,073 円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (うち非図書)	洋書 (うち非図書)	計
超域・総合アジア圏域研究	62	4	66
超域・現代中国研究	254	34	288
超域・現代イスラーム研究	0	1,123 (13)	1,123 (13)
東アジア研究	361	11	372
内陸アジア研究	93 (20)	64	157 (20)
インド・東南アジア研究	1	25 (19)	26 (19)
西アジア研究	0	473	473
共通 (継続・大型資料)	1,311 (2)	278	1,589 (2)
計	2,082 (22)	2,012 (32)	4,094 (54)

※単位:冊 (非図書資料はマイクロフィルム 1 リール、CD 1 枚を 1 冊に換算)

主な購入図書としては以下のものがある。

民国画報彙編 北京巻 66 冊、上海巻 100 冊	全 166 冊
美国哈仏大学哈仏燕京図書館蔵中文善本彙刊	37 冊
パレスチナ・イスラエルの国内事情・外交事情 1967 年～1969 年	
米国立公文書館所蔵	
米国防務省機密文書セントラル・ファイル (欧文)	13 リール
喪礼備要二巻図一卷 (朝鮮申義慶撰)	1 冊
和漢朗詠集 (加藤 (橘) 千蔭自筆 寛政 12 年写)	4 冊
チベット大蔵経 チョネ版カンギユル 108 巻 DVD	4 枚
East India Company Factory Records, Part 5: Calcutta, 1690-1708	9 リール
本国事記 (越南本漢籍)	1 冊
ドーソン: モンゴル史 (欧文) ポール・ペリオ旧蔵書書入本	4 冊



出島図（モンタヌス「オランダ東インド会社日本遣使録」 ドイツ語版所収 彩色）	1 枚
二十世紀三十年代国情調査報告 1-133 冊	133 冊
新疆維吾爾自治区第三次全国文物普查成果集成	28 冊

また、本年度人間文化研究機構地域研究プログラムによる資料購入費の支出総額は 2,072,810 円で、冊数は和漢書 23 冊（うち非図書 2）、洋書 570 冊である。

### B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈 *			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	3,600	232	3,832	737	465	1,202
定期刊行物	1,782	346	2,128	3,424	2,114	5,538
非図書資料	259	1,193	1,452	0	0	0
計	5,641	1,771	7,412	4,161	2,579	6,740

\* 科学研究費による購入はここに含む

主な受贈資料としては、以下のものがある。

福田アジオ氏寄贈 中国民俗学関係資料	155 冊
故和田博徳博士寄贈資料	和漢書 1,901 冊、洋書 41 冊
開宝遺珍	12 軸
田村晃一氏寄贈資料	85 冊
マルアシー・ナジャフィー図書館寄贈資料	36 冊
ハーバード・エンチン図書館寄贈資料	和漢書 21 冊、洋書 3 冊
伊東紘一氏寄贈 チベット語資料	貝葉文献 23 件、図書 38 件
京都大学人文科学研究所寄贈マイクロフィルム	207 リール

### C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は 999,867 冊で、和漢書 565,381 冊、洋書 404,686 冊、複写資料 29,800 冊である。

## 2. 資料の整理

### A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	4,644 冊
欧米語図書	3,568 冊
アジア諸言語図書	1,288 冊(イスラーム地域研究資料室の 309 冊を含む)

整理した主な図書

(1) 新編中華人民共和国地方志		76 冊
(2) 英国国家図書館蔵敦煌遺書(漢文部分)	第 1-10 冊	10 冊
(3) 法国国家図書館蔵敦煌蔵文文献	第 1-12 冊	12 冊
(4) 天津商会檔案・錢業卷		29 冊
(5) 大明律講解三十卷図一卷目録二卷		3 冊

### B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 9 タイトル、欧文 3 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	466	167	1,782	346
購入	140	79	1,070	156
小計	606	246	2,852	502
計	852		3,354	

### C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 23 種を受入れた。

## 3. 資料の利用と複写サービス

### A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は 117 名で、内訳は教職員 69 名(外国人 17 名)、

研究機関関係者 19 名（外国人 7 名）、大学院生 10 名（外国人 4 名）、大学生 12 名（外国人 2 名）、その他 7 名であった。

閲覧開館日は 273 日、利用者数は 2,759 名（うち新規利用者 788 名）、利用資料数は 29,180 冊で、詳細は後掲の表のとおりであった。2012 年 5 月 7 日より土曜開館を開始した。これにより利用者数が前年比で 742 名増加した。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ 938 名、3,187 冊であった。また 2012 年 10 月末より、研究室等での電子資料（CD-ROM 等）の利用を正式に開始した。

(1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
	(日)	(人)	(人)	(人)
2012 年 4 月	19	175	10	—
5	23	254	12	—
6	25	276	12	71
7	24	253	11	69
8	26	310	12	102
9	22	225	11	44
10	25	211	9	45
11	23	223	10	3
12	20	197	10	20
2013 年 1 月	20	174	9	42
2	22	192	9	△ 72
3	24	269	12	36
計	273	2,759	11	360

(2) 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2012年 4月	77	325	187	1,003	110	210	374	1,538	81	—
5	125	437	260	1,676	107	211	492	2,324	102	—
6	185	667	316	2,595	170	215	671	3,477	140	△ 210
7	193	769	359	2,202	105	286	657	3,257	136	467
8	282	857	349	1,875	156	280	787	3,012	116	△ 383
9	177	555	286	1,748	108	324	571	2,627	120	△ 269
10	163	463	220	1,098	115	207	498	1,768	71	△ 598
11	115	247	259	1,300	130	275	504	1,822	80	△ 1,188
12	209	417	223	1,220	121	201	553	1,838	92	△ 268
2013年 1月	203	689	203	724	102	402	508	1,815	91	15
2	103	728	260	1,291	81	156	444	2,175	99	△ 5,087
3	155	1,166	343	2,003	101	358	599	3,527	147	432
計	1,987	7,320	3,265	18,735	1,406	3,125	6,658	29,180	106	△ 7,089
比率	25.09%		64.20%		10.71%		100.00%			

\* 2011年1月から5月末まで新本館への蔵書移転のため閲覧業務を停止

**B. 複写サービス**

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

(1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
161	3,679	4,967	92

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
1,111	37,705

**C. レファレンス**

受付数は目録室、閲覧室など合わせて794件であった。

## D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は2件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	中国福建博物院展	長崎歴史文化博物館、福建博物院、長崎県、NIB 長崎国際テレビ	2012.10.6～11.30	長崎歴史文化博物館	『東方見聞録』(PB-13) 全1点
2	平成24年度企画展示 行列にみる近世	国立歴史民俗博物館	2012.10.16～12.9	国立歴史民俗博物館	『琉球画誌(新板琉球人行列記)』(三-H-a-ほ-29) 全1点

## 4. 書庫資料の見学と研修

主な見学は次のとおりである(48件430名)。なお、このほかに46件90名の見学があった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
	2012年				
1	4月9日	木暮和代	市川市東山魁夷記念館学芸員	2	書庫及び所蔵資料見学
2	4月11日	鈴木立子	(財)鎌田共済会	5	〃
3	4月19日	彌永信美	フランス極東学院フランシスクス・ヴェレレン院長	1	〃
4	4月20日	楠木賢道	国家清史編纂委員会	4	〃
5	5月2日	林佳世子	東京外国語大学学生	13	〃
6	5月17日	静嘉堂文庫美術館	静嘉堂文庫美術館学芸員	3	〃
7	5月21日	中見立夫	ウランバートル大学教授一行	4	〃
8	5月22日	NGUYEN THI OANH	ハンノム研究所(ベトナム)一行	5	〃

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
9	5月26日	(財)東方学会事務局	中国社会科学院・東方学会一行	19	書庫及び所蔵資料見学
10	6月7日	小名康之	青山学院大学学生	5	〃
11	6月13日	専門図書館協議会事務局	専門図書館協議会	29	〃
12	6月22日	北郷 悟	東京藝術大学北郷悟副学長一行	12	〃
13	7月9日	相原佳之	NIHU 京都大学人文科学研究所現代中国研究センター研究員	2	〃
14	7月19日	長谷部史彦	慶應義塾大学文学部学生	4	〃
15	7月20日	方 廣鋳	上海師範大学方廣鋳教授ほか	4	〃
16	7月20日	マクヴェイ・山田	ハーバード・エンチン図書館マクヴェイ・山田氏、ハーバード・エンチン財団リンダ・グローブ氏	2	〃
17	7月24日	臼井佐知子	東京外国語大学学生	6	〃
18	7月25日	専門図書館協議会事務局	専門図書館協議会	31	〃
19	7月25日	神野裕司	三菱東京 UFJ 銀行総務部一行	7	〃
20	8月2日	孫 誠	本溪市档案局一行	7	〃
21	8月2日	徳原靖浩	卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー受講生	22	〃
22	8月3日	全国歴史教育研究協議会事務局	全国歴史教育研究協議会	21	〃
23	8月29日	大澤 肇	中部大学大澤肇氏ほか	8	〃
24	8月29日	横山侑子	和漢古典籍研究分科会	7	〃
25	9月3日	大木 康	平成24年度漢籍整理長期研修受講生	8	〃
26	9月7日	企業史料協議会事務局	企業史料協議会	38	〃
27	9月14日	片山章雄	中央民族大学李鴻賓教授ほか	3	〃
28	9月14日	東條雄隆	中国国家図書館一行	3	〃
29	9月27日	久保 彰	第7回日韓学士院学術フォーラム参加者	21	〃

II 図書事業

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
30	10月25日	吉水千鶴子	ハーバード大学 Leonard van der Kuijp 教授ほかセミナー受講者	12	書庫及び所蔵資料見学
31	10月27日	伊藤 敬	日仏図書館情報学会	5	〃
32	11月2日	図書館サポートフォーラム事務局	図書館サポートフォーラム参加者	14	〃
33	11月13日	李 楚琳	シンガポール国立博物館李楚琳館長	1	〃
34	11月14日	中村治子	イエール大学バイネキ稀観書・手稿本図書館シュレーダー館長一行	2	〃
35	11月16日	久保田壮活	東京大学「アジア研究図書館」計画担当者	8	〃
36	11月19日	本野英一	早稲田大学学生	7	〃
37	11月19日	粕谷 元	日本大学文理学部学生	6	〃
38	11月28日	フランス大使館文化部	フランス国立図書館ブルーノ・ラシーヌ館長一行	7	〃
39	12月14日	上田裕之	筑波大学学生	7	〃
	2013年				
40	1月16日	荷見守義	弘前大学学生	7	〃
41	1月18日	石塚晴通	宋版仏典調査協力者一行	4	〃
42	1月23日	相原佳之	学習院大学アーカイブズ学専攻「記録史料学研究」受講生	3	〃
43	1月24日	山村義照	学習院大学学生	10	〃
44	2月6日	佐々木忠明	三菱ホームページ委員会	10	〃
45	2月22日	阿部順子	三菱電機株式会社役員	8	〃
46	2月23日	安野博之	麻布高等学校教養総合「くずし字が読めるようになる」課外授業受講生	6	〃
47	2月25日	高三瀧美穂	国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館職員特別研修受講生	15	〃
48	3月1日	後藤敦子	テヘラン大学中央図書館写本室スーサン・アスィーリー室長一行	2	〃

## 5. 資料の保存整理と複製

2006年度末をもって、製本室並びに撮影室が閉鎖され、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化などの作業を行わないことになった。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

雑誌合冊製本（外注）

440冊

## 6. 書誌情報の公開

2012年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の42種である。

このうち2012年度新規公開分は※印で示す。各データベース名の後の（ ）は収録件数。

01	中国語逐次刊行物	(4,957 件)
02	日本語逐次刊行物	(2,480 件)
03	欧文逐次刊行物	(2,638 件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物	(838 件)
05	漢籍資料オンライン検索	(78,012 件)
06	續修四庫全書	(6,230 件)
07	越南本漢籍検索	(439 件)
08	朝鮮本漢籍検索	(3,889 件)
09	岩崎文庫（和書貴重書）	(7,966 件)
※ 10	拓本検索 2012年5月24日 新規公開	(3,103 件)
11	ラテン文字資料	(92,542 件)
※ 12	欧文資料 分類検索 2013年3月19日 新規公開	(76,177 件)
13	辻直四郎文庫	(7,218 件)
14	キリル文字資料	(12,749 件)
15	モリソン文庫資料検索	(15,797 件)
16	モリソン文庫資料分類検索	(15,319 件)
※ 17	モリソンパンフレット検索 2012年5月16日 新規公開	(8,307 件)
18	中国語図書の検索	(58,910 件)
19	中国語図書分類検索	(59,047 件)
20	日本語図書の検索	(64,887 件)



21	研究部近代中国研究班収集日本文図書分類検索 2012年5月9日 リニューアル公開	(18,538件)
22	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145件)
23	藤井尚久文庫オンライン検索	(1,431件)
24	モンゴル語資料 検索	(1,606件)
25	西アジア諸言語図書分類検索	(41,454件)
26	アラビア語図書の検索	(15,352件)
27	ペルシャ語図書の検索	(13,459件)
28	現代トルコ語図書の検索	(11,170件)
29	オスマントルコ語図書の検索	(1,399件)
30	イスラーム地域研究資料室収集資料 (アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語資料)	(4,315件)
31	南アジア諸語(アラビア文字)図書検索	(3,620件)
32	キルギス語図書全リスト(PDF) (約20件)	★2011年度に同じ
33	ウイグル語図書全リスト(PDF) (約1,100件)	★2011年度に同じ
34	カザフ語図書全リスト(PDF) (約240件)	★2011年度に同じ
35	スィンディー語図書	(188件)
36	チベット語文献(河口慧海将来蔵外文献) (約500件)	★2011年度に同じ
37	チベット語文献(米国議会マイクロフィッシュ版) (約4,000件)	★2011年度に同じ
38	ビルマ語図書の検索	(664件)
39	インドネシア語・マレーシア語図書の検索	(311件)
40	タイ語資料検索	(887件)
41	南方史資料	(4,199件)
42	榎文庫	(9,894件)

注1:「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、07 越南本漢籍検索、08 朝鮮本漢籍検索の横断検索用と判断し、リストからは除外。また、2010年度まで公開の「新収蔵漢籍検索」は、05 漢籍資料オンライン検索に併合のため、リストからは除外

注2:「榎文庫 NDC8による分類検索」は、42 榎文庫の検索方法の相違に過ぎないものと判断し、リストからは除外

注3:件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2011年度年報の数字を用いた

## 7. 書庫内資料と書架スペース

### 書庫内資料の排架一覧

階	排架内容		
6	欧文図書 (Old Books・MS), 漢籍稀覯書, 漢籍: 経部・子部・集部・叢書部 (各部線装本), 岩崎文庫, 銅版画, 古地図, 梅原考古資料, 自筆稿本, 檔案 (満洲語檔案など)		
5	欧文図書 (モリソン文庫を除く), アジア諸語図書 (アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか), 個人文庫 (辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソン二世文庫・ベラルデ文庫・山本文庫)		
4	和書, 漢籍: 子部・集部・叢書部 (各部普通本), 漢籍大型本, 中・朝雑誌, 近代中国研究委員会収集資料 (和・中・欧文図書、雑誌)		
3	3階書庫1	3階書庫2	2階・中2階・3階ミュージアム
	漢籍: 経部 (普通本)・史部 (線装本、普通本)	朝鮮本, 越南本, 満洲語, 蒙古 (モンゴル) 語, チベット語, サンスクリット語図書, 拓本資料, 電子資料	モリソン書庫 (大型本を除く)
B1	逐次刊行物 (和・中・朝・欧文新聞、和・欧文雑誌)		マイクロ保管庫
			マイクロ資料

## 8. 電子図書館情報システム

2012年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

このうち2012年度新規公開分は、画像データ: 地図 (日本関係) 26件 365コマ、奈良絵本・挿絵など 14件 1,251コマ、全頁データ: モリソンパンフレット 76件 1,381頁、洋古書 (旅行記) 3件 1,099頁、東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー 205件 22,961頁、動画データ 1種である。(※印)

## A. 画像データ

(1) 地図			
①中国関係	中華帝国図ほか	222 件	(274 コマ)
※②日本関係	江戸内府図ほか	72 件	(787 コマ)
(2) 風景		23 件	(1,066 コマ)
(3) 浮世絵・美人画		30 件	(198 コマ)
※(4) 奈良絵本・挿絵など		105 件	(5,844 コマ)
(5) モリソン文庫 - 香港銅版画・水彩画等		392 件	(416 コマ)
(6) 梅原末治考古資料		15,343 件	

## B. 全頁データ

(1) 岩崎文庫 古籍善本		55 件	(7,618 頁)
(2) 洋古書 (宣教師文書)		16 件	(8,848 頁)
※(3) 洋古書 (旅行記)		5 件	(1,702 頁)
※(4) モリソンパンフレット		529 件	(9,605 頁)
※(5) 東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー (現代中国研究資料室)		351 件	(31,854 頁)

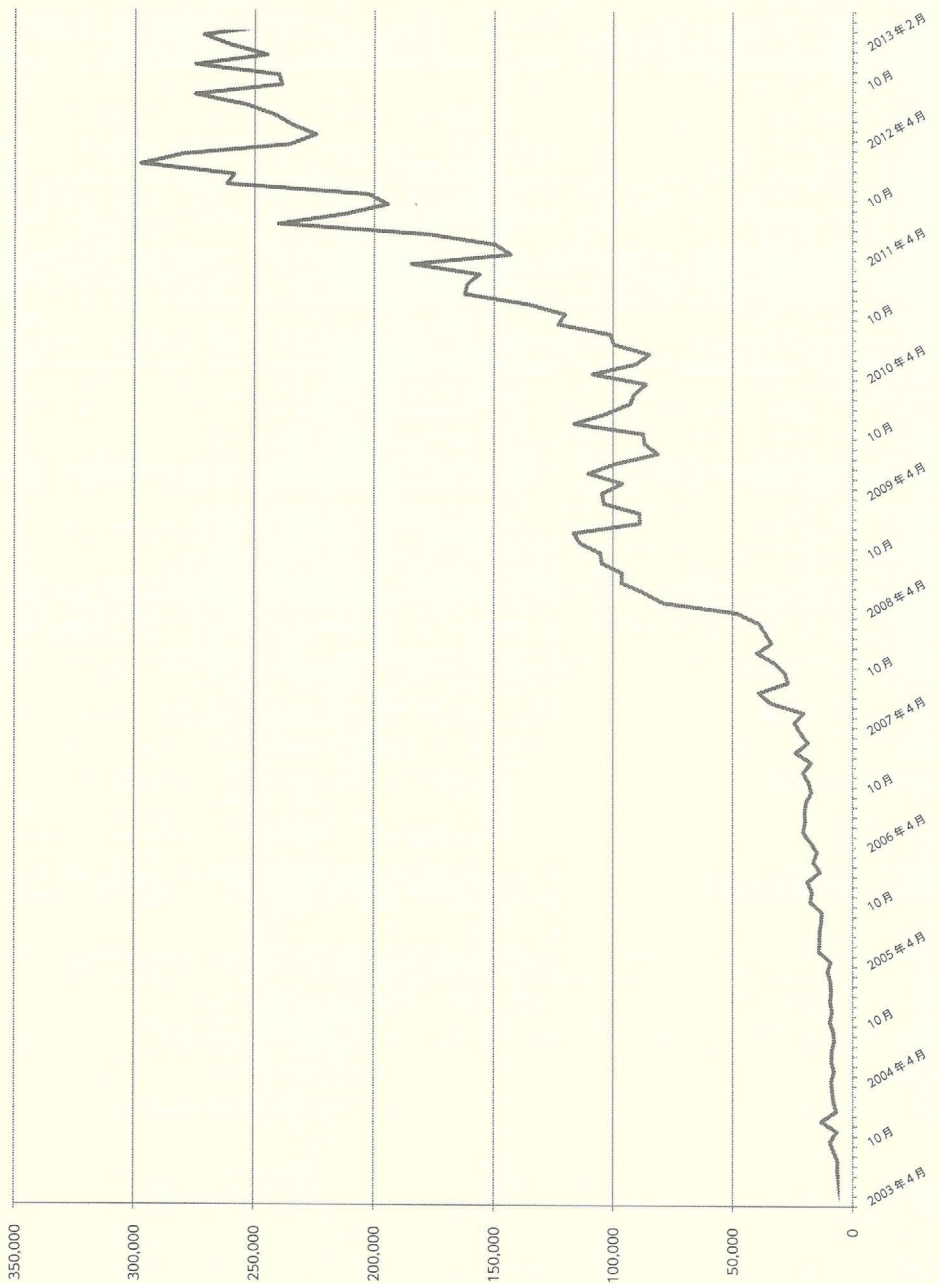
## C. 動画データ

(1) 香港の祭祀と演劇 (概観)		
①広東系		約 50 分
Ⅰ 巡遊		
Ⅱ 儀礼		
Ⅲ-1 六国封相 (武戯)		
Ⅲ-2 粵劇: 双仙拜月亭 (文戯)		
Ⅲ-3 粵劇: 再生紅梅記 (文戯)		
②海陸豊系		約 70 分
Ⅰ 巡遊		
Ⅱ 儀礼		
Ⅲ-1 海陸豊劇: 呂布 (武戯)		
Ⅲ-2 海陸豊劇: 蕭光祖 (文戯)		
Ⅲ-3 海陸豊劇: 正字戯「宛城の戦」(『三国演義』第 16 回)		
※Ⅲ-4 海陸豊劇: 正字戯「李碧蓮搜宮」		

2012 年 7 月 17 日 新規公開 [うち約 30 分]

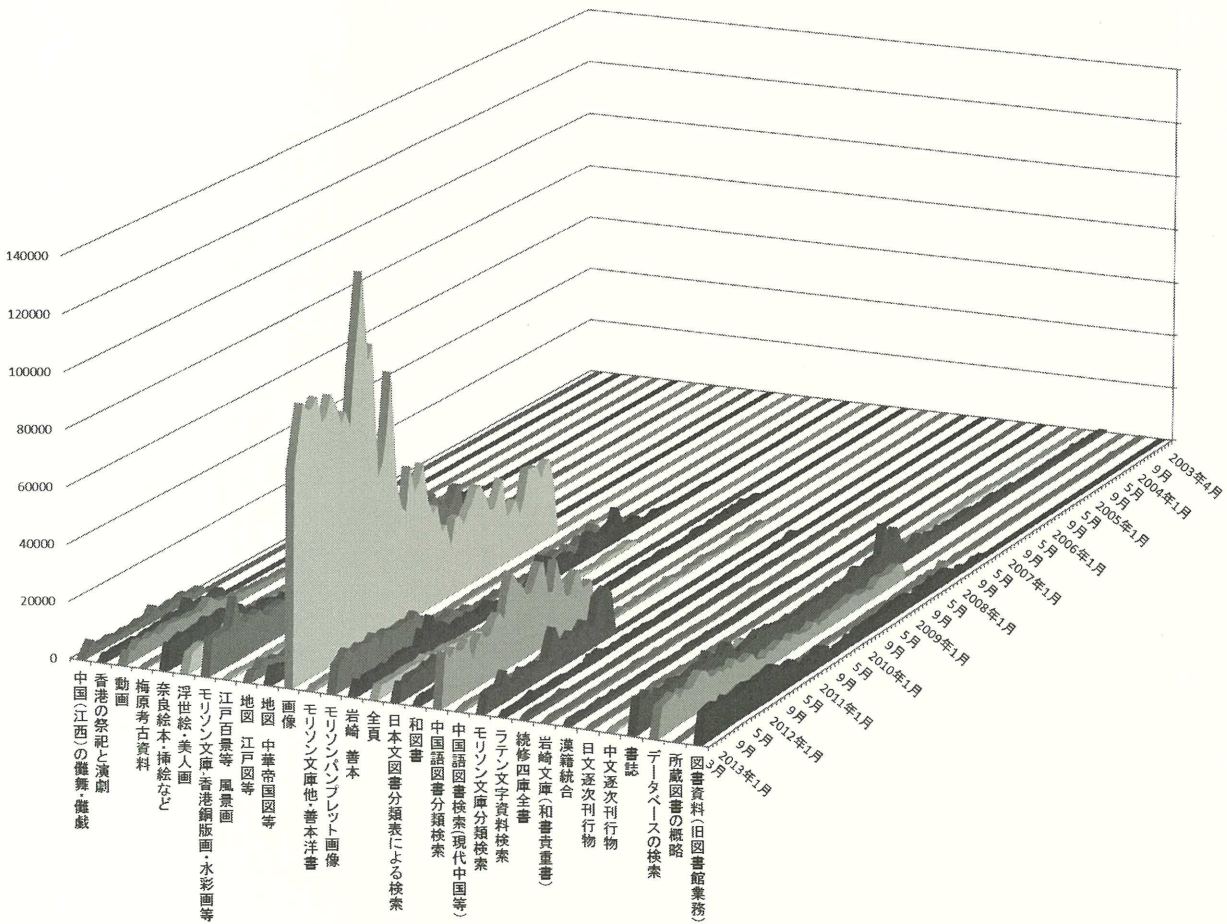
③潮州系	約 80 分
I 巡遊	
II 儀礼	
III-1 楊門女将 (文戯)	
III-2 楊門女将 (武戯)	
III-3 宝蓮燈 (文武戯)	
III-4 守揚州 (文武戯)	
(2) 香港広東正一派道士の儀礼	
①龍躍頭太平清醮儀礼	約 50 分
②粉嶺太平洪朝儀礼	約 50 分
③八門功德	約 6 分
(3) 中国 (江西) の儺舞・儺戯	
①萍郷県の儺舞	約 60 分
②万載県の儺舞	約 40 分
③婺源県の儺舞・儺戯	約 50 分
④南豊県石郵村の儺舞	約 30 分
⑤南豊県水南村の儺舞	約 30 分
(4) 目連戯	
①浙江省紹興前良村調腔目連戯	約 50 分
②祁門県栗木村目連戯	約 50 分
③福建仙遊目連戯	約 50 分
④湖南省湘西目連戯	約 10 分
⑤莆田本身目連戯	約 30 分
(5) 元宵祭祀	
①萍郷県元宵花灯会	約 30 分
(6) 莆仙劇	
①白蛇伝	約 20 分

注 2011年度まで「全頁データ：モリソン文庫 洋書稀覯本」として公開していたデータは、(2) 洋古書（宣教師文書）と (3) 洋古書（旅行記）とに項目を分割して公開



データベースアクセス総数

個別検索ページアクセス数



## Ⅲ 研究事業

東洋文庫は、アジア諸地域の歴史と文化の発展に関する基礎資料を80年余にわたって組織的かつ継続的に収集してきた（斯波義信「財団法人東洋文庫の80年」財団法人東洋文庫編集・発行『東洋文庫80年史Ⅰ－沿革と名品－』平成19年、5-36頁）。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。アジアの全域を対象にして基礎資料を体系的に収集・整理し、それにもとづく総合的な基礎研究の推進は、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫以外にはなしえない。

東洋文庫は、この事業をさらに効果的に推進するために、平成15年度から、(1) アジア研究の組織的な編成と若手研究員の積極的な採用、(2) 現代アジアの重要課題に関する総合的研究への取り組み、(3) 欧文の成果発信を拡充することによる国際的な活動の強化、および(4) 資料・研究情報の公開と共同利用を促進すべく、研究部と図書部を一丸とした電子情報システムの構築に着手した。この改革を機に、研究分野は〈超域アジア研究〉と〈アジア諸地域に関する歴史・文化研究〉（以下、〈歴史・文化研究〉）、〈資料研究〉とから構成され、各分野はそれぞれ、一次資料にもとづく現代アジアの学際的な実証研究、各ディシプリンを生かした歴史・文化的な基礎研究、東洋文庫をはじめとするアジア諸地域の現地研究機関の資料群の探索と研究を主要な課題としている。

### 1. 調査研究

#### A. 超域アジア研究

これまで東洋文庫における調査研究は、超域アジア部門と歴史文化分野に分たれ、そのそれぞれがイスラーム圏域、中国圏域に、またアジア各地域研究部門へと専門化されてきたが、今年度から3年間に亘り、各年度に主要な検討地域に焦点を当て、アジアの地域間交流や地域を跨いだ共通の課題に複数の研究班で取り組む体制と運用を試みた。従来からの個別専門研究の長期

的な蓄積に基づき、現在のアジアの変動に見られるように、変動の原因とその範囲がアジアの内部においてのみならずグローバルに影響し合っているという状況下にあつては、歴史としての現代という視覚からの研究が求められると考える。これらの目的から総合アジア圏域研究への取り組みを強化した。

“アラブの春”といわれるイスラーム圏の変動は、権威主義的政治体制が、一見安定的に見えても、その内実ではグローバル化する社会関係の変動に対応することが出来ていないことを露呈した (F. Gregory Gause III, “Why Middle East Studies Missed the Arab Spring: The Myth of Authoritarian Stability,” *Foreign Affairs*, July/August 2011, pp. 81–90)。また、中国圏においても、これらの“アラブの春”に内在する諸問題に対応する取り組みが急がれており、経済発展の次に来る社会生活の充実が緊急の課題であることを示している。その状況の中で、より歴史的に長期の視点から現在と将来を検討すべきという議論がなされ、グローバルゼーションが進む中で、中国研究は如何にあるべきか、また、アジアの歴史的な流れの中で現在をどのように位置付け、今後の方向を考えるか、という長期視野に関する課題が一気に浮上している (Yan Xuetong, *Ancient Chinese Thought, Modern Chinese Power*, Princeton University Press, 2011)。この動きは、1) 全アジア的視野に立ち、2) 世界的な動きの中でアジアを位置づけつつ、さらに、3) どのように個別地域のうごきと連動させて検討するか、という3層にわたる研究課題を結びつけることが求められる。この新たな研究領域は、アジア社会の長期変動に関する主題であり、これまで長期にわたる資料収集と地域研究に基づいたアジア研究を進めてきた東洋文庫の研究班すべてを連携する総合アジア圏域研究において初めて対応が可能である。

この課題に応えるため、今年度からは、「一つの圏域からアジアのすべての圏域について考える、また、アジアのすべての圏域から一つの圏域について考える」という相互にフィードバックを可能とする研究体制と研究方法を新たに追及し、具体的には、「超域アジア研究部門」のなかに、「総合アジア圏域研究班」を設置し、新たな取り組みを開始した。「総合アジア圏域研究班」の目的と役割は以下のとおりである。1) アジア規模の問題群を設定し、東洋文庫のすべての研究グループを有機的に結び付けて分析検討すること、2) イスラーム圏と中国圏というこれまでの2つの超域研究のテーマを相互に関連させながら、かつまたそれぞれが独自に持つアジア規模の問題への広がりを検討する。さらに、3) 東洋文庫が進めてきたアジア各地域に関する歴史・文化研究ならびに資料研究を多様に組み合わせて、総合アジア圏域研



究の活動に結び付けていく。併せて国際的な研究交流や共同研究を進め、それらの検討成果を継続的にワーキングペーパーや欧文電子ジャーナルなどを活用して広く発信する試みである。

以上の活動を推進するため、書誌学的にも通暁した人材を育成し、アジア資料学の構築を目指す東洋文庫独自の若手人材育成を課題とした。

### ・中国圏とイスラーム圏の現在

1980年代以降のアジア諸地域は、大きな変動を経験するとともに、経済的な急成長をとげたことにより、21世紀の世界情勢の展望にとってアジアの占める位置と役割は著しく高まりつつある。中国は1979年の改革・開放後に急速な変容と発展を遂げ、今や中国情勢は、国内問題にとどまらず、隣接アジアを包摂した課題として総合的・多面的な実証研究を不可避としている。

また、イスラームのグローバル化とその先鋭化も近年の著しい現象であり、いわゆる“アラブの春”という動きは、世界的に大きな影響を与えている。現代世界の理解のためには、中東や中央アジア、中国・東南アジアなどのイスラームの現実を基礎データにもとづいて多面的に解析することが必要である。

以上のような状況をふまえ、現代のアジア圏域ならびに中国圏域およびイスラーム圏域に関するアジア規模の研究を組織し、これを政治学・経済学・宗教学・歴史学などを融合した学際型、内外研究機関横断型の共同研究として実施する。これらの現代研究は、基礎資料の収集と解析にもとづき、長期的な視野の下に息の長い実証研究を行うことが必要であるが、2012年度は中央アジアをめぐるアジア規模のまたグローバル規模の検討をおこなうべく東洋文庫の3研究グループによる連続研究セミナーをおこない、それらを集約する国際シンポジウムを開催した。

## 〈超域アジア研究部門〉

### (1) 総合アジア圏域研究班

#### 「総合アジア圏域研究」

総括	斯波義信 <sup>◎</sup> 濱下武志 <sup>◎</sup> 、田仲一成 <sup>◎</sup> 、平野健一郎 <sup>◎</sup>
現代中国	毛里和子、中兼和津次、平野健一郎 <sup>◎*</sup> 、斯波義信 <sup>◎*</sup>

## 現代イスラーム

	八尾師誠、池田美佐子、粕谷 元、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信 <sup>◎*</sup> 、山本英史、清水信行
近代中国	本庄比佐子
東北アジア	六反田豊、松村 潤、石橋崇雄
日 本	今西裕一郎
中央アジア	梅村 坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	辛島 昇
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹
東アジア資料	斯波義信 <sup>◎*</sup>

(<sup>◎</sup>は専従者、\*は重複を示す。以下同じ)

基本的な研究方法は、年度ごとに重点地域を定め、それをアジア規模の視野から多角的に検討するとともに、周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を検討する。範囲は、基礎資料研究、現地研究、主題研究などに跨り、多分野間にわたる国際的な比較研究を行う。また、資料、検討過程並びに研究成果は、欧文電子情報としてオンラインにより発信する。このような総合的アジア研究は、アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫においてのみ可能であると考えられる。

東洋文庫のすべての研究班の参加によって行われる重点研究としてこの「総合アジア圏域研究」があるが、基本的な検討項目は、各年度において選択した1つの地域のアジアの地域連関における位置と役割、地域間移民ネットワーク、ディアスポラ、トランスナショナル問題を検討する。ワークショップを開催して議論を重ね、現地調査・資料調査によって現代の諸問題を歴史的背景を含め提示する。これらの討論過程を、ワーキングペーパーや電子ジャーナルにおいて発信し、さらに議論を広げていくことを目指す。

### [研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵の貴重書を用いた講習会「アジア資料学研究シリーズ」を開始した。今年度は、石塚晴通研究員、土肥義和研究員を講師とし、「東洋の Codicology “漢字文献”」として3日間のセミナーを開催した。内外

の書誌学研究者、研究資料館からの応募があり、このうち先着で20名の参加を得た。

- b) 中央アジア研究班の3グループがコーディネーターとなり、中央アジア圏域シンポジウム“Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere”を開催した。シンポジウムは2日間行われ、のべ138名の参加者を得て、活発な討論が行われた。
- c) 若手研究者の国際的な研究成果発信を支援するため、国立シンガポール大学出版のポール・クラトスカ氏を招き、セミナー“Scholarly Publishing in English: What Editors Expect”を開催した。東洋文庫に籍を置く若手研究員および日本学術振興会特別研究員が参加し、クラトスカ氏より英文研究論文の作成について指導を受けた。

(2) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究 (2)」

総括	毛里和子*
政治	毛里和子*、天児 慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐 亮、平野 聡
経済	中兼和津次*、加藤弘之、巖 善平、丸川知雄、梶谷 懐、寶劍久俊、唐 成
国際関係・文化	平野健一郎 <sup>◎</sup> *、濱下武志 <sup>◎</sup> *、田中明彦、川島 真、貴志俊彦、黄 東蘭、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、村田雄二郎、土田哲夫
資料	斯波義信 <sup>◎</sup> *、矢吹 晋、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、村上 衛

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制（資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成）を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究

院や中国社会科学院、ハーバード・エンチン研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行に備える。

#### [研究実施概要]

- a) 資料グループは、東洋文庫の英文定期刊行誌 *Modern Asian Studies Review* の第4号において、東洋文庫が所蔵する G.E. Morrison のコレクション、なかんずくパンフレット資料を活用した、18～19世紀、20世紀初頭の中国経済、アジア貿易に関する4本の英文論考を公刊した。またパンフレット資料1点ごとについて、summary and notes を施す作業を進捗させ、順次インターネット上で公開している。
- b) 政治グループは、政治・経済・行政・社会・法律各分野の専門家で陳情（信訪）に関心を持つ中堅・若い研究者をメンバーとする「総合研究－陳情」研究会第一期を隔月一回開催し、その成果を毛里和子・松戸庸子編『陳情 中国社会の底辺から』（東方書店、2013年）として刊行した。引き続き第二期の研究活動に入っており、中国から研究者1名を招請して、ワークショップを開いた。
- c) 経済グループは、「歴史的視野から見た現代中国経済」研究の第2部として、「毛沢東時代の経済制度・政策の再検討」を推し進めてきた。中国から3名、シンガポールから1人の研究者を招聘し、また国内の近現代中国経済研究者を交えてシンポジウムを開催し、多角的視野から毛沢東時代の経済制度ならびに政策の現代的意味を議論した。引き続きこの作業を継続し、来年度には内外の研究者の研究成果を集めて、出版する計画である。
- d) 国際関係・文化グループは、全体的な研究テーマ「戦後中国の国際関係と社会・文化変容」の下、若手の研究報告を中心に年間4回の研究会を開催するとともに、「汪政権駐日大使館文書」の目録作成を進めた。
- e) 政治グループ、経済グループ、国際関係・文化グループとも、図書資料の購入に関しては、東洋文庫の現代中国研究資料センターと提携して、系統的な収書を行った。

## (3) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的基礎研究

－議会主義の展開と立憲体制に関する一次資料の収集と比較分析研究－」

総括	八尾師誠*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、松本 弘、鈴木恵美
イラン	八尾師誠*、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均
トルコ	粕谷 元*、小松久男、設楽國廣、江川ひかり、大河原知樹、秋葉 淳、澤江史子
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦

世界の近現代イスラーム研究において、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラビア語、ペルシア語、トルコ語）を収集・整理・分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討する。2009年度からは、新たに中央アジア諸国を比較の対象に加え、基本資料の収集と整理・分析を行う。これによって中東・中央アジアなどのイスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を一次資料にもとづいて総合的に考察する。他方、イスラーム関係資料の収集と整理、データベース化を推進し、日本における資料センターとしての充実をはかる。

## [研究実施概要]

現代イスラーム研究班の活動は、資料の性格に対応してアラブ、イラン、トルコ、中央アジアの4グループに分かれて実行される。アラブ、イラン、トルコグループの研究は、第1期（2003-2008年度）の実績を踏まえて実施されたが、2012年度における各グループの研究実施概要は以下の通りである。

- a) アラブグループ：2011年度に引き続き *A Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt*（東洋文庫、2007）を利用して、議会文書の解読・分析を進めた。
- b) イラングループ：2005年度に作成した議会文書のインデクス（CD-ROM版）を利用して、議会文書の分析を進めたほか、*The 1946 Republic of*

*Kurdistan: A Research on the Struggle for Independence and Its Historical Significance* をクルド語と英文で出版した。

- c) トルコグループ：2006 年度刊行の論文集『トルコにおける議会制の展開』を基礎に、関係資料の収集と議会文書の解析を進めた。
- d) 中央アジアグループ：研究の4年度目に当たり、引き続き関係資料の収集と整理を行った。

年度末には合同研究会を開いて用語・訳語の検討を行うと共に、4分野間の比較分析を行った。なお、中国・日本の議会制・立憲制の専門家を招いて比較のための報告を頂いた。

## B. 歴史・文化研究

歴史・文化研究は、アジア諸地域の基礎的な資料を収集し、それらを解説・研究・分類編集・出版することによって、アジア諸地域・諸民族・諸文化の歴史・文化に関する理解を深める役割を担う。これらの基礎的な研究は、総合的なアジア圏域研究の推進に資するものであり、東洋文庫における研究蓄積が国際的なアジア研究を支える基礎になっている。総合アジア圏域研究は、アジア規模の視野から、歴史・文化研究を位置づけることを課題としている。

### 〈東アジア研究部門〉

#### (1) 前近代中国研究班

##### ① 「古代地域史研究—『水経注』の分析から— (2)」

総 括            太田幸男\*  
                    松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、初山 明、塩沢裕仁、  
                    多田狷介、窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合 安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。また流域の古代遺跡と『水経注』

記載の内容を合わせて検討することで、歴史的な自然環境・社会的実態を具体的に理解し、流域の地域社会の構造の変化を明らかにしていく。刊行を予定している『水経注疏訳注』洛水・伊水篇訳注もこれらの成果を反映させたい。渭水 downstream 及び洛水・伊水流域は「黄河文明」の中心地である。ここを「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究の新たな展開となる研究を目指している。

#### 〔研究実施概要〕

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社刊）をテキストとし、洛水・伊水篇（巻15）の講読を隔週の研究会において実施した。洛水は陝西省東南部に発して東北流して河南省洛陽を経て、偃師県において河南省内を東北流してきた伊水を合わせた後、同省鞏県東北の洛口において黄河に入る。2012年度は源流から東周洛邑に至る流域までを検討し、すでに公刊された渭水篇訳注上・下巻に続いて、洛水・伊水篇訳注の刊行をめざしている。
- b) 『水経注』洛水・伊水篇訳注を刊行するため、洛水・伊水流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告の収集を実施した。またランドサット衛星地図などの情報を利用し、洛水流域の古代遺跡の状況を歴史地理学的に把握した。
- c) 2013年度に『張家山漢簡論文集』を刊行するため、隔週で研究会を実施し、準備を行った。また2012年12月23日より27日まで、武漢および荊州に出張し、張家山漢簡および関連遺跡の現地調査、荊州博物館での研究交流を行った。

#### ② 「中国社会経済史用語解集成の電子辞典化」

総括 斯波義信<sup>◎\*</sup>

梅原 郁、千葉 隼、渡辺紘良、妹尾達彦、長谷川誠夫

本グループがこれまでに作成・公刊した『宋史食貨志訳注（一）～（六）』（東洋文庫刊、1960年～2006年）、および『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』（東洋文庫刊、2008年）における訳注および用語の収集の成果をベースとして、整理と増補を加え、広範囲かつ多方面の利用者の便宜に適合

するような冊子体および CD-ROM の用語解説集を作成し、研究活動のいっそうの発展に資するプロジェクトである。

[研究実施概要]

- a) 2011 年度に作成出版した『中国社会経済史用語解』について、記載に正誤を施した上で、2013 年 1 月 10 日、第 2 刷を増刷刊行した。
- b) 引き続き増補版の作成に着手し、「法制」の範疇を加えて、関連する用語解のデータを収集した。
- c) 「財政」「経済」「社会」の範疇についても増補の作業に入り、関連する用語解のデータを収集した。
- d) 毎月研究会を催し、史料・関連文献の読解・釈語データの収集を行った。

③「東アジア都城の考古学的調査・研究 (3)」

総括

清水信行\*

田村晃一、早乙女雅博、飯島武次、妹尾達彦\*、井上和人、小嶋芳孝

本研究班では、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行ない、その研究成果として 2004 年度に『東アジアの都城と渤海』(全 394 頁)を、2006 年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。しかしその中心となる渤海上京龍泉府址(東京城)出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、一部の遺物の調査・研究を継続実施する。

[研究実施概要]

中国吉林省琿春市所在の八連城(渤海の東京龍原府に疑定されている)に関する発掘報告書の内容を検討し、百済、新羅の都城に関する最新の情報の収集に努めた。

- a) 『西古城』、『渤海上京城』、『六頂山渤海墓葬』の各報告書の内容を検討した。
- b) 2012 年 8 月 27 日から 9 月 1 日まで、中国東北地方渤海遺跡の踏査を行なった。上京城址、興隆寺、三霊屯墓などを踏査し、現在の中国における調査の状況や遺跡の保存状態を確認した。また、牡丹江師範学院において開催された『渤海研究発表会』において、田村晃一研究員は渤海の蓮華文瓦当について、清水信行研究員はロシア沿海州クラスキノ城跡の発掘



について発表を行ない、中国側研究者と交流を深めた。さらに、北京の国家博物館の見学を行なった。

#### ④「前近代中国民事法令の変遷」

総括	山本英史*
南宋	大澤正昭、青木 敦
元代	鈴木立子
明代	鶴見尚弘
明清代	岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・錢穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近20年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。この5年間の研究をとおして、あらためて法令そのものに視点をあてる必要があることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適しているためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなってゆくと、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると考える。

#### [研究実施概要]

本年度も昨年度に引き続き、宋代以降の戸婚・田土・錢穀などを扱う「民事」法令を分析し、それらがどのように変遷してきたかを明らかにした。

本研究班は過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。そして、この5年間の研究を通して、改めて法令そのものに視点をあてる重要性を再確認した。今年度はこのような過去の研究蓄積を踏まえたうえで、新たな研究成果を論文集として公刊する準備を整えた。

- a) 昨年度に引き続き、宋～清の条例の収集に努めた。
- b) 研究班の各自の研究に資する国内外の史料収集活動を継続的に実施した。
- c) 収集した条例の整理、解説を行うのと並行して定期的に研究会を開き、

メンバー各自が作成した論文の相互検討を行い、2013 年内に研究成果としての論文集を公刊することをめざした。

## (2) 近代中国研究班

### 「20 世紀前半日本の中国調査」

総括	本庄比佐子*
経済	久保亨、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎
政治	内山雅生、松重充浩、田中比呂志
文化・社会	飯島渉、佐藤仁史、浅田進史、瀧下彩子 <sup>◎</sup>

本研究は、1910 年代から 40 年代前半に日本の諸研究調査機関が中国で実施した調査活動に関する資料収集とその分析を行うもので、その重点は華北におくが、地域的特質を検討するために華中南を含め、日本側および中国側の資料の活用について新たな視点から再整理をはかり、20 世紀前半期の中国社会の全体像を考察する。2011 年度に引き続き、「華北」認識の問題を中心テーマとする。

#### 〔研究実施概要〕

- a) 論文集刊行の準備をおこなった。すなわちメンバー者は論文第 1 稿を作成して、それに対して外部の近中班関係者からコメントを聞く原稿検討会を開催し、また班員相互のコメント交換も行って最終稿の準備に入った。
- b) 日本及び中国における資料調査・収集を引き続きおこなった。
- c) 『近代中国研究彙報』第 35 号を刊行した。

## (3) 東北アジア研究班

### ① 「日本所在近世朝鮮文献資料研究 (2)」

総括	六反田豊*
	吉田光男、糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、山内弘一、山内民博

当班では2004年度以来、京都大学附属図書館や天理大学附属天理図書館今西文庫をはじめ、日本国内の各機関・個人が所蔵している近世朝鮮の記録類の調査を進めてきた。本課題はそれをさらに継続し、第2次調査をおこなうことにより、解題目録の完成を期すことをめざす。すでに近世朝鮮の古典籍類（いわゆる「朝鮮本」）については総合的な調査が進められ、その全貌がある程度解明されているが、これに対し地方官庁や民間で作成され、「成冊」などと呼ばれる帳簿類をはじめとする各種の記録類については、これまで全体的な調査がなされることがほとんどなかった。2004年度からの第1次調査では、もはや現地では所在が確認されていない資料を発見し、その内容分析をおこなうなどの成果もあげており、第1次調査と今回の第2次調査によって、日本における当該資料類の悉皆的な調査をほぼ達成できるものと見込まれる。

#### 〔研究実施概要〕

東京大学総合図書館、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所等において、当該機関が所蔵する近世朝鮮の記録類の調査および目録作成作業を実施した。上記調査の結果を整理し、『日本所在近世朝鮮記録類解題Ⅱ』刊行のための準備を進めた。

#### ②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究（2）」

総括 松村 潤\*  
満洲語檔案 加藤直人、中見立夫、楠木賢道、細谷良夫、柳澤 明

清代の第一公用語である満洲語は、清初ばかりでなく、清朝一代にわたって用いられた言語である。18世紀の乾隆帝代より、京師に暮らす旗人たちは、日常語として漢語をもちいるようになっていったが、文章用語としての満洲語は、民国にいたるまで継続して利用された。現在、北京・中国第一歴史檔案館には、約1千万件の文書資料が保存されているが、その半分は、満洲語（または漢語とのいわゆる合璧）によって記されたものである。このことは、清代の文書伝達体系全体において、満洲語の利用が不可欠であったことを示している。とくに入関前（1644年以前）および清初の時期の文書・書籍、ならびに旗人、藩部をはじめとする辺境地方、そして対外関係等の文書において、多くの場合満洲語が用いられている。本研究は、これら満洲語で記され

た、または場合によっては印刷された清代の文献資料について、清初期を中心として総合的に検討を加えようとするものである。

[研究実施計画]

- a) 清初の「内国史院」関係文献と『鑲紅旗滿洲衙門檔案』の研究を実施した。
- b) 『内国史院檔 天聰五年 Ⅱ』を刊行した。
- c) 『鑲紅旗檔』研究編 (TBRL: *The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko*) の編集作業を継続した。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析 (2)」

総括

石橋崇雄\*

岸本美緒\*、C.A. ダニエルス、柳澤 明\*、武内房司

中国ではこの数年にみられる内外政治・経済・民族を中心とする国家事業が急進するなか、長期間に亘って内在していた政治・経済・民族・文化問題が表面化している。チベットやウイグルをめぐる自治区の問題はその端的な事例であり、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んでいる。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題も現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。新たに用いられ始めている「中華民族」の呼称はその顕著な例として捉えうる。本研究班では、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を独自に進展させた清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。刊行予定の英文論文集にこれまでの成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と対外関係を分析する上で不可欠な檔案(公文書)類のうち、保存収蔵状況が未詳な檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、デジタル化し、向後の研究に貢献することを目的とする。

[研究実施概要]

- a) TBRL: *The Historical Structures of Eastern and Northern Asia in the Qing Dynasty Era*. [仮題] の刊行と平行して、TBRL『清代諸領域の歴史的構

造分析』第1巻・清朝初期政治史研究(1)ならびにTBRL『清代諸領域の歴史的構造分析』第2巻・『壇廟祭祀節次』の刊行を準備した。

- b) 前年度に引き続き、清朝政治史、清代中国社会経済史、清代中国近代政治史、清代モンゴル・露清関係史、清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、既成の領域世界・時代区分の枠を越えて海外における図書館・檔案館・研究機関などに所蔵されている檔案文献史料類の史料調査・現地調査を実施し、旧来のマイクロ＝フィルム方式や新たなデジタル化方式による蒐集・整理・分析作業を行うと共に、中国で新たに影印されている大部の檔案文献史料類の蒐集を進めた。
- c) 上記の文献史料類について、目録作成を進めると共に、デジタル化によって幅広い利用ができるようにした。同時にまたこれらの新規蒐集史料と東洋文庫収蔵の文献資料とを活用し、上記の課題に関する研究を推進し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開することを目指した。TBRLとして準備した『清代諸領域の歴史的構造分析』第2巻・『壇廟祭祀節次』はその一環であり、東洋文庫所蔵の『壇廟祭祀節次』(漢文・満洲文)を取り上げ、広く中国の国家祭祀研究への大きな貢献をめざしたものである。

#### (4) 日本研究班

##### 「岩崎文庫貴重書の書誌的研究(2)」

総括	今西祐一郎*
語学	酒井憲二、柳田征司、石塚晴通
文学	深沢眞二、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、栃尾 武、 宮崎修多
思想・文化	齊藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題(I～V)を公刊したことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

[研究実施概要]

東洋文庫所蔵の岩崎文庫の中から、近世の成立ないしは刊行の貴重書の調査、研究基盤の整備、その成果の公開につとめ、2012年度には江戸期刊行・成立の歌書に関する『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』を公刊した。

〈内陸アジア研究部門〉

(1) 中央アジア研究班

①「サンクトペテルブルグ所蔵古文獻の研究—ウイグル文を中心として—」

総括	梅村 坦*
ウイグル	庄垣内正弘
コータン	小田壽典、松井 太、熊本 裕

東洋文庫が入手したサンクトペテルブルグの東洋学研究所のマイクロフィルムのうち、ウイグル語とソグド語については『東洋文庫所蔵 St.Petersburg ウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録 [第1稿]』として、初期の現地での実見データの一部を取り込んだフィルム番号整理一覧を、2002年に刊行した。その後、マイクロフィルムのデータを昨年までのプロジェクトでデジタル整理を続けた。ほぼ完成に至った目録の改訂版を原稿とし、冊子かデジタルデータの形で編集し直して刊行することは、内外研究者の要望に沿うことになる。ただし、東洋文庫と東洋学研究所の初期の契約の制約があるため、その刊行方法については慎重に検討をおこなうものとした。ついては、ウェブ上に未公開のものを含む大英図書館蔵のウイグル文字文獻の一覧表などと合わせて刊行する可能性も検討したい。その中から、文書研究の成果についての論文をこれに付すこととする。

[研究実施概要]

- a) 研究班メンバー各自が、本データベースを利用しながら個別に古文獻研究を進めた。
- b) 『東洋文庫所蔵 St.Petersburg ウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録 [第1稿]』に記載されている古文獻（とくにウイグル語）に関する研究文獻リストを追加作成した。

- c) 漢文文献として整理されていたマイクロフィルムの中に含まれるウイグル語文献について、同班の「漢語文献」グループとの連携のもとで、データ整理をおこなった。
- d) 「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル古文獻目録（増補版）」作成のためのデータ修正を進めた。
- e) 本研究班と関連して、東洋文庫で開催された国際シンポジウム“Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere”(2013年3月2～3日)の第1セッション“The Multi-dimensional Character of Central Asian Cultures as Seen from the Variety of the Scripts and Languages of Excavated Texts”に、研究班メンバーが参加し、中央アジア出土古文獻に関する議論をおこなった。

②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」

総括 小松久男\*  
梅村 坦\*、新免 康、濱田正美、長縄宣博、濱本真実、堀川 徹

ソ連解体（1991年）以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や外国人研究者による現地調査も可能になったことは、決定的な意味をもっている。こうした中で、本研究は次の2点を課題とする。

第一に、8世紀以降の中央アジア史を考えると、その政治と社会、文化においてイスラームが果たした役割を無視することはできないが、ソ連時代は無神論イデオロギーのためにイスラームに関わる諸問題は不当に軽視されてきた。いま新たな中央アジア史を再構成しようとするならば、この点を克服することが不可欠である。

第二に、ペレストロイカ以降、中央ユーラシア地域においてはイスラームの復興が顕著であり、イスラーム国家の樹立を目標とする急進派は、世俗主義を掲げる政権との間に鋭い緊張関係を作り出している。このような現代のイスラーム復興主義は、中央ユーラシア史の文脈においてどのように考えるべきだろうか。それには、近現代史におけるイスラームと政治権力との相互関係を実証的に検討することが不可欠である。

[研究実施概要]

- a) 引き続き海外における史料収集を行った。タシュケント（ウズベキスタン）、カザン、サンクトペテルブルク（ロシア）などの図書館や研究機関のほか、各地の民間に所蔵されている史料の収集を現地の研究者や所蔵者の協力を得て行った。
- b) a) の史料のうち、とくに定期刊行物についてはデジタル化によって幅広い利用ができるようにし、文書史料については目録作成を進めた。
- c) 新規収集史料と東洋文庫の蓄積してきた豊富な文献資料とを活用し、研究会の開催などを通して、上記の課題に関する研究を推進した。
- d) 2012年度は関連する資料の収集のほか、いずれも東洋文庫で開催された講演会・シンポジウムで有益な研究報告に恵まれたことを特記しておきたい。まず、Stephane Dudoignon (CNRS, Paris), “(Re-)Making the History of Soviet Islam: Some Emergency Tasks and Perspectives” (2012年9月28日)は、ソヴィエト期およびポスト・ソヴィエト期のイスラームを理解するには、「公式」および「非公式」のイスラームのような単純な二分法的な分析枠組みを乗り越える必要があること、また各地の宗教界の動態をミクロの視点から、当事者からのインタビュー調査などの手法によって解析する必要性を指摘して今後の研究に大きな示唆を与えた。次に、秋山徹（日本学術振興会特別研究員）「バートゥルたちの「近代」：クルグズ遊牧社会とロシア帝国」（2013年2月19日）は、帝政ロシア統治下の遊牧クルグズ首領層がイスラーム的な価値や権威を積極的に活用することにより政治・社会的な地位の保全をはかったことを実証するものであり、近代のクルグズ社会におけるイスラームの意義を再検討する機会となった。
- e) 東洋文庫で開催された国際シンポジウム“Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere”（2013年3月2～3日）の第2セッション“The Regional Image of Central Asia as Portrayed in 18th-20th Century Historiography: Central Asian, Chinese and Russian Perspectives”、第3セッション“The Revival of Islam in Central Asia: Links with West and South Asia”、には研究班メンバーが参加し、現代中央アジアにおけるイスラーム復興を考える上で南アジアおよびイランとの関係はきわめて重要な意味をもつことが確認された。以上の報告は、今後の研究に指針を与えるにちがいない。



## ③「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」

総括 土肥義和\*  
 梅村 坦\*、片山章雄、妹尾達彦\*、荒川正晴、  
 氣賀澤保規、關尾史郎、池田 温、岡野 誠

2002年に東洋文庫が世界にさきがけて入手した東洋学研究所の内陸アジア出土文書マイクロフィルム（全363リール、約25万齣）には、4、5世紀から15世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、チベット語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、アラビア語、ペルシア語、満州語、モンゴル語の11言語の文書が含まれている。このフィルム資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけでなく、諸外国の研究機関・研究者の希求するところ切なるものがある。

本研究は、上記フィルムの中からとくに漢語文献を抽出してそのフィルム目録のデータ化を図るとともに内陸アジア出土漢語文献の特性を明らかにすることを目的とする。

## 〔研究実施概要〕

- a) 敦煌出土文献 Reels 256～363のうち、漢語文献のある40リール（266～277、279～286、292、334～337、349～363）についてリールに付された各文献整理番号とその齣数とを対照させた仮目録を完成し、各文書に付された文献番号の「索引」作りに着手した。
- b) 前年度に引き続き、『俄蔵敦煌文献』（上海古籍出版社、1993）中の未収録漢語文献約700件について、内容の検討を行った。
- c) 上記サンクトペテルブルク所蔵ウイグル・ソグド文字文献全31リールのうち、21リールに含まれる漢語文献約1,100件余りについて、文献番号とその microfilm 齣数とを対照した「仮目録」を作成した。
- d) 上記サンクトペテルブルク所蔵チベット語文献（全35リール）のうち、6件の漢語文献を明らかにした。
- e) 本研究班における第2次研究成果として2014年度に『敦煌・吐魯番出土漢語文献の様式・特性の研究』（仮）の出版を計画している。そのために、定期的に「内陸アジア出土古文献研究会」を行うとともに、新たに「8—11世紀内陸アジア出土漢語文書輪読会」を開催した。

- f) 本研究班と関連して、東洋文庫で開催された国際シンポジウム“Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere”(2013年3月2～3日)の第1セッション“The Multi-dimensional Character of Central Asian Cultures as Seen from the Variety of the Scripts and Languages of Excavated Texts”に、研究班メンバーが参加し、中央アジア出土古文献に関する議論をおこなった。

## (2) チベット研究班

### 「チベット蔵外文献の書誌的研究 (2)」

総括	吉水千鶴子*
仏教思想	川崎信定
敦煌文献	武内紹人
ボン教	御牧克己
宗義文献	松濤誠達
歴史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言語	星泉

チベット研究班においては、新たに発見された写本を中心とするチベット語資料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかることを目的とする。収集した資料については目録化を行い、データベースを作成すると同時に、敦煌チベット語文献、河口慧海将来文献などとともに東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献として写本校訂と訳注研究を行い、電子データベースあるいはシリーズ刊行物として公開する。以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指すものである。

#### [研究実施概要]

- 資料収集：近年中国で新たに発見された10～13世紀のチベット語写本の影印版を収集した。チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を購入し、コレクションの体系的な充実をはかった。
- a)によって収集した資料の整理を行った。

- c) チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を行なった。
1. 筆記体写本の校訂：古いチベット語写本の多くは手書きの筆記体で書かれており、一般研究者には解読が難しいものがある。それらをチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキストデータベースを作成した。
  2. 1のデータベースをもとに文献の解題を作成した。
- d) *Studies in Tibetan Buddhist Text* vol. 1 (シャン・タンサクパ『中観明句論註釈』第1分冊) を刊行した。

### 〈インド・東南アジア研究部門〉

#### (1) インド研究班

##### 「インド刻文史料の蒐集と研究」

総括	辛島 昇*
	小名康之
ウルドゥー	萩田 博
ドラヴィダ	太田信宏、水野善文、石川 寛
アーリヤ	三田昌彦

インド（南アジア）の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アーリヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究における根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは云えない。

他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ云いうる。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。

そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と云えよう。

〔研究実施概要〕

- a) 東洋文庫に所蔵のない刻文史料や、欠けているものについて、インド独立後の新しい出版物（とくに、出版状況が明らかでない州政府考古学局等のもの）を購入、あるいはコピーの形で収集することにしてはいたが（未出版刻文のトランスクリプトは、許可を得て、マイソールの刻文部でコピーして蒐集する）、2012年度には、班の予算をインド人研究者の招聘に充て、班メンバーが然るべき時期にインドを訪問出来なかったため、刻文関係の資料収集は、*Dictionary of Social, Economic, and Administrative Terms in South Indian Inscriptions*, Ed. by K.V. Ramesh, General Editor R.S. Sharma, Vol. I(A-D), ICHR, New Delhi: Oxford University Press, 2012, その他、ごく少数にとどまった。2013年度には、メンバーがインドを訪れ、その蒐集に努めたい。
- b) 個々の研究者による研究としては、班の各メンバーがこれを活発に行った。なお、2013年度には、東南アジア研究班と共同して、南アジアおよび東南アジアにおける国家および社会統合について、刻文を史料とした研究を班として行う予定である。

(2) 東南アジア研究班

「近現代東南アジアに関する史料研究」

総括

弘末雅士\*

嶋尾 稔、桜井由躬雄、北川香子、坪井祐司、

牧野元紀<sup>◎</sup>

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第二次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な研究の発展をとげた。ただし日本の東南アジア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目を浴び

てこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみならず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な資料となりうる。本研究は、従来力点が置かれた日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果たした日本人の役割の視点からその記述を検討し、日本人をはじめ中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した近代東南アジア社会の特質について研究する。

[研究実施概要]

- a) 近代東南アジアの都市の社会統合に果たす日本人の役割に関する文献資料の収集と整理を行なった。合わせて、第二次世界大戦後に出版された戦前・戦中期の日本の東南アジア関係の文献の目録を作成した。
- b) 東南アジアの主要都市を訪れ、日本人を含む外来系住民の居住空間の歴史的展開を調査した。
- c) 研究会を開催して文献調査や訪問調査の成果をもとに議論を構築した。その成果を、本プロジェクト終了年度に、出版物として刊行する計画を進めた。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究 (2)」

総括	三浦 徹*
トルコ	永田雄三、磯貝健一、林佳世子
契約観念	後藤 明
トルコ・ペルシア	清水宏祐、堀川 徹*、守川知子、矢島洋一
アラブ	佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広 <sup>◎</sup>

ワクフ（宗教的寄進）は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。ワクフに関わる、法学書、年代記、地理書などの叙述史料とワクフ寄進文書や調査台帳などの文書史料を収集し、諸地域における実態と歴史的変容を解明する。

また、第一期からの継続課題であるヴェラム文書（16-18世紀にモロッコで作成された皮紙のアラビア語契約文書、東洋文庫所蔵）について、文書の校訂と研究をすすめ、その成果を英文で出版する。

#### [研究実施概要]

- a) ヴェラム文書について、文書テキストの解読のための研究会を月例で開催し（計12回）、東洋文庫が所蔵する8点の皮紙文書の校訂テキストを作成し、モロッコの現地研究者との閲読を行い、関連資料の収集・調査を行った。
- b) ワクフ文書の総合的研究にむけ、フランス CNRS 国際共同研究プログラム（研究代表者マルセイユ＝エクサンプロヴァンス大学 R・ドゥギイエム教授）と連携し、同プログラムが主催するワークショップに参加した（7月、12月）。イランのワクフ寄進台帳（マシュハドのイマーム・レザー廟、19世紀）の校訂・研究の出版準備作業を進めた。

### C. 資料研究

#### 〈資料研究部門〉

#### 東アジア資料研究班

#### 「東アジア資料の研究」

総括	斯波義信 <sup>◎*</sup>
総括補助者	田仲一成 <sup>◎*</sup>
日本	浅野秀剛、片桐一男、永積洋子、延廣眞治、吉田伸之
中国	丘山 新、小川裕充、佐藤慎一、鈴木博之、戸倉英美、濱下武志 <sup>◎*</sup> 、矢吹 晋 <sup>*</sup> 、平勢隆郎、片山 剛、尾崎文昭
朝鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、

各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

〔研究実施概要〕

- a) 中央研究院歴史語言研究所との間の交流協定により、同所の作成した漢籍文献データベース（収録件数 300,000,000 件）の提供を受ける一方、東洋文庫所蔵もリソソパンフレット、マイクロフィルム 100,000 コマを提供した。
- b) 東アジア郷村祭祀資料の収集とデータベースによる公開  
 中国天津、南開大学文學院副教授呉真氏を招き、日本の郷村祭祀の現地調査を共同して実施した。夏 8 月には、静岡県水窪町の中元節念仏踊り、奈良県法隆寺の盂蘭盆供養、春日大社の萬灯会、冬 1-2 月には、長野県阿南町新野の雪祭り、大分県黒仁田の高千穂神楽、山形県榊引町の黒川能などを調査した。これらの映像資料は、データベースを構築して、文庫ホームページから公開する予定である。なお、1978 年以來の中国の祭祀演劇に関する東洋文庫所蔵動画資料の一部（香港海陸豊劇）もホームページから公開した。同カラー写真資料 15,000 枚もデータベースとして、来年度中に公開する予定である。
- c) 南京図書館との交流  
 南京図書館善本特蔵室の研究員、周艶氏を招き、文庫所蔵の善本の書誌情報につき、共同調査を実施した。

**D. 地域研究プログラム**

(1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

室長            三浦 徹\*  
                  堀川 徹\*、近藤信彰、大河原知樹\*、磯貝健一\*、  
                  秋葉 淳\*、柳谷あゆみ、徳原靖浩

現地語史資料の所蔵・整理・利用環境に関するアンケート調査の結果を踏まえ、現地語史資料の体系的収集を継続し、共同利用を促進する。調査やアラビア文字資料司書連絡会等で得た情報や要望に基づき、現地語史料の整理・

書誌データ作成のための補助ツールや資料の作成と公開、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の編集をはじめとする関連データベースの拡充を進める。また、史料研究について、原典講読会および国内研究機関との連携による研究活動を実施し、研究情報の共有と若手研究者の育成をはかる。これらによって、史料および研究文献の収集と整理（情報化）と利用の3つの局面を連結したサイクルを築き、国際的な共同利用にむけた環境改善をはかる。

#### [研究実施概要]

- a) 現地及び海外のイスラーム地域研究の動向と、東洋文庫等の国内機関の所蔵状況を踏まえ、現地語史料の継続的・体系的な収集と整理を行った。「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」は、2013年3月現在で45,700件の書誌データを収録し、月平均1,000人（閲覧数は3,000回）の利用をえている。学生の情報検索スキルを高め、現地語史料の利用を促進するため、「論文を書く学生のための情報検索リテラシーセミナー」（第2回）を8月に開催した。募集開始直後に参加者が定員に達し、セミナーの需要と認知度の高まりが確認され、参加者の評価も良好であった。3月には「アラビア文字資料司書連絡会」（第7回）を開催し、現地語資料の収集と整理に関わる最新のトピック（NIIの目録規則の切換えなど）について、主要大学図書館、国立情報学研究所など関係機関の担当者らと情報共有・意見交換を行った。
- b) 史料の研究活動や、研究で得られた知見を広く還元する各種セミナーを継続しており、様々な層の参加者が集まることで、従来の大学内のゼミでは見られなかったような相互作用が顕著になってきた。「シャリーアと近代」研究会は、オスマン民法典アラビア語版の講読・翻訳のための研究会を計9回行い、歴史や法学の研究者に加え、弁護士・実務者など幅広いメンバーの精力的な参加によって、全体の約1/3にあたる「賃約の書」537条までの訳稿を作成した。刊行ずみの序篇(1-100条)につづき、「売買の書」(101-403条)のウェブ公開と、語彙集の作成を進め、イスラーム法と近代制定法とを架橋する役割が明らかになりつつある。「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会は、オスマン帝国史の多様な史料を類型ごとに解説するウェブ資料「オスマン帝国史料解題」を更新増補したほか、オスマン帝国における教育・知識社会史に関わる研究会を4回行った。他機関との連携プロジェクトである中央アジア法制度研究会、中央アジ



ア古文書研究セミナー、オスマン文書セミナーは、専門的な史資料を扱うセミナーでありながら、毎年恒例のものとして多くの分野や若手の参加者を得ており、現地語史資料に基づいた地域研究の裾野は着実に広がっている。フランス CNRS のワクフ国際共同研究事業に参画し、国際連携を強化した。

(2) 現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：資料の長期的系統的分析による現代中国変容の解明」

室長 土田哲夫\*  
 高田幸男\*、内田知行、大澤 肇、貴志俊彦\*、  
 久保 亨\*、小浜正子\*、瀧下彩子◎\*、田中 仁、  
 中村元哉、内山雅生\*、相原佳之

第一期の成果をもとに、現代中国関係資料を所蔵する国内外諸機関との連携を強化し、資料の系統的・効率的収集の態勢づくりを行う。既収・新収の現代中国関係資料の分析を通じて、近現代中国の変容について解明を進めるとともに、他拠点・他機関の協力を得つつ資料研究の成果を社会に向けて発信する。NACSIS-CAT への東洋文庫資料の登録を継続し資料利用の促進を目指す。またウェブ公開できる準備が整った資料については電子図書館で公開を進める。

〔研究実施概要〕

- a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携により NACSIS-CAT への書誌登録を継続して行った。本年度中に約 4,500 タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会（現・近代中国研究班）収集資料が登録され、登録タイトル数は 44,000 件あまりとなった。
- b) 電子図書館についても、引き続き拡充に努めた。画像をインターネットで完全公開している資料は 351 タイトルに増加した。また目次から検索できるシステムの整備など、利用環境を向上した。さらに中国の多くの高等教育機関が参加している図書デジタル化プロジェクト（CADAL (China Academic Digital Associative Library. 大学数字図書館国際合作計画)）の担当者を招いたワークショップを開催し、図書デジタル化の最新状況

を聞いた。

- c) 資料研究活動については、編成された5つの研究班のもとで、非常に活発に行った。研究班体制の初年度として、それぞれの組織や今後の運営方針を固めただけでなく、研究協力者の協力のもと、他機関・他大学との共催も含めて計21回の研究会・シンポジウムが開催された（江南地域社会班5回、図画像資料班4回、ジェンダー資料班6回、政治史資料班4回、1950年代資料班3回）。活動の成果として、近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた「王清穆『農隱廬日記』(2)」を『近代中国研究彙報』に公表した。
- d) 東洋文庫ミュージアムとの共催で、同所の企画展示に関連した一般向けの講演会を行い、多くの聴衆を集めた。また東洋文庫研究部との協同で所蔵資料「汪政権駐日大使館文書」の目録作成事業を開始した。

## E. 受託研究

特色ある共同研究拠点の整備の推進事業

「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

室長                    三浦 徹\*  
                             堀川 徹\*、近藤信彰\*、大河原知樹\*、磯貝健一\*、  
                             秋葉 淳\*、徳原靖浩\*、近藤敦子

本委託業務の目的は、ネットワーク型共同研究「イスラーム地域研究」の発展によって、グローバル化した現代のイスラーム理解を深化・向上させ、その成果を学界及び広く社会に還元すべく国際的な広がりを持つ新時代の共同研究拠点を構築することにある。また、共同研究実施にあたり、国内では公募研究を通じて幅広い人材の参加を促進し、国際的には研究者の協力のネットワークの強化を行い、さらに研究支援組織としても管理業務環境を整備・強化した事務体制を構築する。

財団法人東洋文庫では、イスラーム地域研究の史資料センターとしての役割を果たすべく、ひき続き、史資料の収集・利用の促進と、イスラーム史資料学の開拓に関わる研究開発を実施している。

〔研究実施概要〕

- a) 「イスラーム地域研究」の史資料センターである東洋文庫拠点の整備強化
- ・イスラーム地域の史資料の収集・整理・利用に関わる研究活動のさらなる発展と集中的な史資料収集および資料整理・データベース入力事業を強化するため、必要なツール類を購入し、活動環境を整備するとともに、研究活動および管理業務活動の効率化を図った。購入図書リスト（PDF版）をウェブサイトで公開し、利用に供した。
  - ・拠点強化事業：「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」週及入力事業を実施した。
  - ・大学学部生・院生を対象に「論文を書く学生のための情報検索リテラシーセミナー」（第2回、共催：NIHU イスラーム地域研究東洋文庫拠点）を開催した。
- b) 「イスラーム地域研究」の成果の発信の強化充実
- ・公募による共同研究課題「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として」（研究申請者：高松洋一（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授））において、定例研究会の成果である訳註本を出版した。
  - ・拠点強化事業「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」週及入力事業を遂行すべく、当該地域・分野の文献書誌を調査し、データベース化を行い、ウェブサイトで公開した。
- c) 「イスラーム地域研究」の強化と公募による拠点拡大
- ・b)の共同研究課題の活動を実施した。研究資料の収集および調査を進め、定例研究会やセミナー、講演会を開催し、成果発表を行った。また、国内外より研究協力者の参加を促し、研究の深化・拡大を図った。

F. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（データベース等）

① 「東洋学多言語資料のマルチメディア情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である財団法人東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類

50 数種、部数約 500,000 件、冊数約 1,000,000 冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVD など動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは 1994 年度に入力を開始して以来、約 15 年を経て、600,000 件に到達し、完成の目途がついてきた状態に有り、これを踏まえて、2004 年度以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約 6,000 件、1,000,000 コマを超える貴重書フィルム (35mm) を所蔵している。これをスキャナーにより画像に取り込み、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。更に 1970 年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関する Video 資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、2002 年度において毎月 2,000 件であったアクセス数は、2012 年 3 月末の段階で、当初の 150 倍、約 300,000 件に到達した。今後は、書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、この 3 年間に 400 分 (5 時間) を Up したが、一層の充実を目指す。

[研究実施概要]

- a) 動画「李碧蓮搜宮」
- b) 彩色絵画「繪本暴風夢」他 1,335 点
- c) 古地図「増訂伊豆七島全図」及び「無人島八十嶼図」、「相武房縷海岸図」他 281 点
- d) モリソンパンフレット [The Chinese almanac] 等 1,381 点

②「清朝前期のチベット仏教政策」

[日本学術振興会特別研究員：池尻陽子]

本書は、申請者が平成 21 年度に筑波大学大学院人文社会科学研究所に提出した博士 (文学) 学位論文「清朝前期のチベット仏教政策の研究」を基礎

としつつ、その後の研究成果を盛り込んで増補改訂を施したものである。その内容は、清朝前期（本書では主に清朝建国から最盛期とされる乾隆期までとする）に清朝が推し進めたチベット仏教に関する諸政策について、清朝がチベット仏教僧を自らの内に位置づけるべく独自に構築した秩序体系である「扎薩克喇嘛（ジャサク＝ラマ）制度」の成立・展開の様相という側面から分析することによって、清朝がいかにしてチベット仏教的世界観を共有する諸勢力と対峙していったのか、その具体的な手段と達成の度合いを提示するものである。そしてその作業を通して、清朝という多様で巨大な政権について、ひとつの実像を描出する。

本書刊行の目的及び意義は、本書が清朝の扎薩克喇嘛制度を専論する世界初の研究書として刊行される点にある。従来の研究では、17・18世紀の清朝のチベット仏教政策が清・モンゴル・チベット外交史の枠組みにおいて論じられ、政策実行者である清朝の実情については未だ十分に解明されていないのが現状である。清朝にとって扎薩克喇嘛制度は、チベット仏教僧たちを支配構造の中に位置づけコントロールするための唯一の組織であり、且つ、チベット仏教世界を構成する外部勢力に対する介入手段でもあった。この両方の視点から、本書は扎薩克喇嘛制度の成立・展開の歴史と具体的な政策を解明していくものである。

〔研究実施概要〕

『清朝前期のチベット仏教政策』 1冊 汲古書院刊

(2) 基盤研究B

① 「1910～30年代における日本の中国認識—華北地域を中心に」

〔研究代表者：本庄比佐子〕（2009年度採用、5ヶ年間・第4年度）

1910～30年代に日本の各種研究調査機関が中国華北地域で実施した調査活動を網羅的に整理するとともに、その調査内容と同時期の中国側資料や近年の研究成果などを比較検討することを通して、当該時期における華北地域の政治・経済・社会文化、及び日中関係の特質を歴史的・総合的に考察することを目的とする。

- a) 我々がこれまでに行った興亜院や青島守備軍の調査活動に関する研究成果を基礎に、満鉄北支経済調査所・東亜研究所、その他研究機関などに

- よる調査も含め、日本による華北調査の全体像を明らかにする。
- b) 中国側の資料と研究成果などを参照しながら、20世紀前半における華北地域の変化の過程を明らかにする。
  - c) 中国の研究機関・研究者との交流・共同研究を進展させる。

#### [研究実施概要]

昨年度に開催した公開シンポジウム「華北の発見」における報告を基に、論文集として刊行するための準備作業を行った。まず、シンポジウムで各報告に寄せられたコメントと総括的討論を検討したのち、報告者は必要な調査を行って以下のように論文第1稿を作成した。

地域概念に関しては、日本語文献の分析に基づいた「華北地域概念の形成と日本」、いわゆる「外地」の日本人社会における華北認識を解明する「『朝鮮及満洲』における〈華北〉認識の展開」、「新聞記事から見る華北認識」、中国の西北概念の考察を通して華北を考えようとする「〈西北〉概念の変遷」、「戦時期華北に暮らした日本人にみる中国・華北（北支）・山西」、「中国における近代華北地域史研究の現状と展望」、ドイツにおける華北認識を考察した「ドイツ・中国関係史からみた華北」の7編が提出された。地域史研究の分野では、日本人研究者の華北概念を考察した「戦中期の日本の中国農村研究と〈華北〉」、農産物の生産状況から華北の範囲を考える「近現代華北農村経済の特質について」、村落の祠・廟における祭祀をとりあげた「民間信仰からみる近代江南農村と近代華北農村」、戦前期日本人の観光旅行から考えた「旅先としての〈華北〉」、戦中期に日本人が調査した4農村の現在における変化を考察した「追跡調査から見た華北農村の変化」、政治的中心の都市から鉄道網の整備に伴い経済中心都市へ変わる問題を論じた「華北における近代交通システムの形成と都市の変動」、農村集団化時期を取り上げた「村檔案から問い直す現代華北農村」の7編が提出された。

以上の第1稿について、外部の関係者からコメントを聴く会及びメンバー相互のコメント交換を行い、最終稿への準備を整えることができた。

#### ②「イスラーム法の近代的変容に関する基礎研究：

オスマン民法典の総合的研究」

〔研究代表者：大河原知樹〕（2011年度採用、3ヶ年間・第2年度）

本研究の目的は、19世紀半ばにオスマン帝国によって編纂されたメジュッ

レ (Mecelle-i Ahkam-i 'Adliye : 以下 M 法典と略) の内容、性質および位置づけの再考を通じた、中東における近代の法制度改革と現代の法制度への影響の批判的検証である。

本研究は、M 法典の総合的研究であり、そのためにまず法典全 1851 条の訳文を確定することを最大の目標とする。そのためには、年間 10 回程度の研究会を開催し、条文ごとに訳語を確定する。最終的に公開できる段階まで達した各条文には詳細な訳注を付して、刊行その他の手段によって公開する。これは近代法、イスラーム法およびイスラーム地域研究に関心をもつ研究者が簡便に利用できるようにする。M 法典に関する基本文献、研究文献、研究資料は日本ではごくわずかしが収集されていないため、これを期間内に積極的に収集し、広く研究者たちの利用に供する。

#### [研究実施概要]

M 法典の講読と、翻訳作成を目標に、計 9 回の研究会を行った。アラビア語テキスト第 396 条から 537 条までの検討を行った。第 1 回を除く、すべての研究会で「第 2 篇賃約の書」を検討し、まず、賃約とは「一定の対価と引き換えに一定の用益を売却すること」という大原則を確認した。実際の契約において、賃約と売買がどのように異同があるのかを確認することが要点となった。たとえば、「売買の書」が定める各種の選択権は、賃約にも準用されることが各所で明記されるが、これは両契約の同質性の最たるものである。

今年度は、さらに多彩な分野からの参加者も増え、各種翻訳の対照作業が可能になったため、より詳細に条文を検討することが可能となったが、反面、一回あたりの検討条文が減った。基本用語として用いられる語(たとえば、「拘束」「適正」「不適正」など)は、日本民法との違いを改めて確認しつつ訳語の検討を進めた。

アラビア語、オスマン・トルコ語、英語、フランス語を駆使して判明した内容の相違は重大なものから些細なものまで多岐にわたるが、あくまで翻訳の底本がアラビア語版であるため、そのニュアンスを活かしつつ、正文や各種訳の意図を可能な限り盛り込む難しさが浮き彫りとなった。ただし、このような相違はアラビア語版のオスマン民法典がオスマン帝国崩壊後のアラブ諸国やイスラエルにどのように継受されていったかを研究する上で必要欠くべからざる作業であると考えられる。

なお、第 6 回研究会において、近藤信彰氏(東京外国語大学アジア・ア

リカ言語文化研究所准教授)による報告「19世紀アフガニスタンにおける法廷制度をめぐる—『カーディー達の基礎』の位置—」を開催した。

### ③ 「モノ」の世界から見た中世イスラームの女性

～ガラス器と陶器を中心に～

[研究代表者：真道洋子] (2011年度採用、4ヶ年間・第2年度)

考古学、美術史、建築史、文献史学の観点から「モノ」を対象として、物質文化史から垣間見られる中世イスラームの女性の生活についてアプローチすることを目的としている。物質資料から女性そのものを明らかにすることはなかなか困難な作業であるが、この研究では、当時の女性論やジェンダー論を論じるのではなく、女性の周囲に存在していたと想定される生活用品などから多角的に文化をとらえ、生活文化の復元を目指している。既定の学問領域の枠を超え、女性を中心にその時代に生きた生の人間像を意識して、中世イスラーム時代の生活文化の諸相を解明しようとする新たな試みを提示したい。

#### [研究実施概要]

本年度は、研究代表の真道がカタールとバーレンにおいてイスラーム関連美術品の収蔵品調査を実施し、深見奈緒子がチュニジアにおけるイスラーム建築調査、小林一枝がフランスで写本調査などの海外調査を実施した。さらに、法門寺や陝西省歴史博物館に収蔵のイスラーム文物やモンゴル関連資料の調査のために、真道と研究協力者の四日市康博、竹田多麻子、王博とで西安調査を行った。このほかに、国内においても名古屋や岡山において資料調査を実施した。研究報告及び発表に関しては、研究代表者真道がスロヴェニアの国際ガラス史学会においてナツメヤシ文ガラスに関する研究発表を行った。国内でも、東洋文庫において8回の研究会を実施し、このうちの1回はエジプト大使館との共催でユネスコの Prof. Gihane Zaki と真道が女性の化粧関係の発表を行う公開講演会の形で実施した。このほかにも研究代表者および連携研究者、研究協力者がおのおの関連学会や研究会で成果発表を行った。

また、今年度も引き続き、イスラーム美術品および考古遺物関連資料の画像取り込みとデータベース化を実施した。



## (3) 基盤研究C

## ① 「近代トルコの地方名士—マニサ地方を中心に—」

[研究代表者：永田雄三] (2010 年度採用、3 ヶ年間・最終年度)

本研究は、申請者が長年研究を続けてきたトルコの地方名士（アーヤーン）に関する研究の一部である。地方名士に関する研究は、トルコに限らず、オスマン帝国（1299-1922）の支配下に置かれていた中東およびバルカン地域の18世紀から19世紀にかけての政治・社会・経済・文化の全般におよぶ最も重要なテーマであり、当該地域に対する歴史的理解の前提である。申請者はこれまで主として前近代トルコの地方名士研究を行い、その成果を和文・トルコ文・英文による論文・著書として公表してきた。本研究は、その結果をふまえて、新たに近代における地方名士層の国家および在地社会との関係の変容過程を明らかにしようとするものである。申請者は、日本人としての視点から、明治維新変革の担い手の一角を占めた豪農層、中国の郷紳層、イギリスのジェントリ層など、同時期の世界史上にあらわれた「名望家」層との比較研究を射程に入れている。

## [研究実施概要]

本研究は、トルコの地方名士（アーヤーン）に関する研究の一部である。地方名士に関する研究は、トルコに限らず、オスマン帝国支配下に置かれていた中東およびバルカン地域の18世紀から19世紀における政治・社会・経済・文化の全般におよぶ最も重要なテーマであり、当該地域に関する地域研究の歴史的な前提である。アーヤーンに関する従来の研究は、かれらの富と権力の基盤は、地方官職と不可欠な関係にある徴税請負制による利潤と農産物の市場化過程の掌握にあるとされてきた。これにたいして筆者は、これに加えてチフトリキと呼ばれる大農経営とワクフと呼ばれるイスラムに固有な寄進制度にもとづく、地域で獲得された富の地域社会への還元行為の重要性を指摘してきた。

本研究は以上のような問題提起をさらに確実にするべく、1845年に実施された「資産台帳」のうち、マニサ県マニサ郡にかかわる合計66冊の「資産台帳」に記載された約3万人分のデータを分析した。その結果、タンズィマート改革（1839-76）による中央集権支配の地方社会への浸透と、1838年の英土通商条約を契機とした国際貿易の拡大とによってもたらされた急速な社会変容にもかかわらず、本研究が直接の対象とするマニサ地方随一のアーヤーン家系（カラ

オスマンオウル家)の当該社会における影響力は、チフトリキ大土地所有をもっとも有力な基盤としてなお存続し続けていたことを確認することができた。だが、一方では、たばこ、綿花、アカネ(トルコ赤染料の材料)などの商品作物の栽培と商品化を基盤とした新たな社会層の台頭もみられ、アーヤーン層の地域社会におけるプレゼンスが次第に相対化されつつある実態も観察された。本研究の成果の一部は東洋文庫の欧文紀要(70号)で国際的に報告された。

②「内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究」  
[研究代表者：土肥義和](2010年度採用、3ヶ年間・最終年度)

本研究は「内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究」と題して3年間の計画で遂行するものである。旧来、中国の正史に代表される編纂史料を中心に進められてきた内陸アジア諸地域(敦煌やトルファン、ホータン、チベットなど)の諸民族の歴史に対して、本研究は、現地で各時代に作成された漢語文献・胡語文献(非漢語諸民族文献)を用いて、とくに内陸アジア諸民族の文化や社会の諸相について新考察を加えることを目的とするものである。

具体的には、研究期間中、まず(1)東洋文庫が近時、ロシア科学アカデミーから入手した内陸アジア出土文書のmicrofilm(約25万齣)に含まれている4～12世紀に書かれた漢語・胡語文献の「文献番号・齣数対照目録」を作成し、かつ(2)そこで抽出された文書資料を、関連する漢語・胡語文献の資料群の調査結果とも比較して分析することによって、胡漢諸民族の文化や社会の諸問題を究明する。

[研究実施概要]

研究代表者土肥義和と研究分担者岡野誠・片山章雄の3名は、研究実施計画にもとづき、以下の整理作業と調査研究を行なった。

- a) 東洋文庫がロシア科学アカデミーから入手した内陸アジア出土文書マイクロフィルム363リール中の、古ウイグル・ソグド語文書マイクロフィルム30リールに含まれる胡語・漢語文書を抽出し、「文書番号・齣数対照目録」のデータベース化の方針を決めて作業を行い、胡語文献の裏面に書写された漢語文献の内容目録の草稿を作成した。なお、そのうちの非仏教関係文書については、録文集を作成するとともに、それぞれの史料を評価する段階に入った。

- b) 関連する漢語・胡語資料の所蔵機関の調査については、旅順博物館における現地調査を継続した。分担者片山は、研究協力者とともに、旅順博物館と龍谷大学とに分蔵される文書断片の綴合案を提示し、発見当初の靈芝雲の外貌を復元した。そして、その成果をふまえて、代表者の土肥が、靈芝雲型官府文書について考察した結果を公表した。また、分担者岡野は洛陽においてソグド系の「安善夫妻」の墓と墓誌を調査し、その成果を公表した。
- c) 代表者土肥は、敦煌仏教文化との比較や供養人題記を分析するため、同行の分担者・補助者、日中の協力者らとともに、河南省における宋代寺院石刻資料を収集してきたが、開封市の繁塔に見える北宋初期の仏教石刻資料調査については一定の区切りに到達した。また、参考資料として鄭州開元寺の石棺銘を調査した。それらは、報告書年度分冊に、主編者として関係者名も示し資料集補遺のかたちで提示した。

以上のうち特に調査研究については、資料所蔵先の事情もあるのでインターネット上での成果公表は控え、報告書冊子を作成してその中で成果を共有することとした。

#### (4) 若手研究B

「ジャウイ史料の利用によるマレー民族の形成過程の研究」

〔研究代表者：坪井祐司〕（2012年度採用、4ヶ年間・初年度）

『カラム』を中心としたジャウイ（アラビア文字表記のマレー語）の定期刊行物の分析を通じて、脱植民地化期の島嶼部東南アジアにおけるマレー人という民族集団の形成過程を再検討する。1950、60年代のシンガポールにおいてアラブ系の編集者により発行された月刊誌『カラム』（京都大学所蔵）の分析に加えて、海外におけるジャウイ定期刊行物の収集、分析により、マレー民族の形成に外来者が果たした役割を再検討する。これにより、マレーシア（マラヤ）のナショナル・ヒストリーの枠内で単線的にとらえられてきた従来のマレー民族概念を相対化し、その形成過程を島嶼部東南アジアの脱植民地化における多様な勢力の競合の結果として動的に描くことを目指す。

〔研究実施概要〕

京都大学地域研究統合情報センターにおいて『カラム』に関する共同研究

「島嶼部東南アジアにおける国民国家形成とマレー・ムスリムのネットワーク」(2012年度)を組織し、論文集『カラムの時代Ⅳ：マレー・ムスリムによる言論空間の形成(CIAS Discussion Paper No. 32)』を2013年3月に編集、出版した。本書では、『カラム』が他の媒体を積極的に引用し、論争を行ったことに焦点をあて、マレー人の言論空間の多様性を明らかにした。本書において、「マラヤの独立とシンガポールのマレー・ムスリム」という論文を執筆し、『カラム』が現在進行中の独立とは異なる国家像を提示したことを示した。

2013年1月にマラヤ大学にて開催された国際セミナー「イスラームと多元文化主義」において、共同研究を核にセッションを企画した。そこでは、1950年代前半の『カラム』のマラヤ政治に関する論説を分析し、イスラームの制度化を志向する同誌の戦略について報告した。

それとともに、ジャウイの教育活動にも携わった。2012年12月1、2日に「ジャウイ文献と社会」研究会が主催するジャウイ文献講読講習会に講師として参加した。そのための教科書として『ジャウイを学ぶ：ジャウイ文献購読テキスト(CIAS Discussion Paper No. 27)』を編集、出版した。2012年9月のマレーシア出張の際には、政府系機関の言語出版局(DBP)で行われたジャウイのローマ字翻字に関するセミナーに参加してDBPの担当者やマレーシア人研究者と会合し、マレーシアにおけるジャウイの教材作成に関して協力することを確認した。

また、マレーシア(マレーシア国立公文書館)、シンガポール(シンガポール国立図書館、国立シンガポール大学図書館)、イギリス(大英図書館、イギリス国立公文書館)において各機関所蔵のジャウイ定期刊行物の調査を行った。

## (5) 研究活動スタート支援

「隋唐洛陽城の水環境からみた穀倉と漕運の発展について」

[研究代表者：宇都宮美生] (2012年度採用、2ヶ年間・初年度)

本研究の目的は隋唐洛陽城における漕運と穀倉の発展を、文献学、考古学、歴史地理学、環境学的、数学的見地からさまざまな考察と分析を行い、従来の経済史あるいは交通史からの研究では解明できなかった課題を、都城史における水環境から研究することにある。古代の漕運はすでに中国全体の水運

ルートが漠然と捉えられ、輸送の理論が確立されているが、本研究では具体的に揚州から開封を経山して洛陽へ向かう旧運河をすべて復元し、洛陽城内での構造、穀倉へのルートと形態、機能および役割を時系列で解明する。運搬された食糧を保管する穀倉については洛陽城内の含嘉倉の構造と運営のみが研究されているが、本研究では未解明の他の3倉もあわせ、洛陽城の穀倉の役割分担と相互関係について明らかにし、それを踏まえて漕運の具体的な水路と利用、洛陽城を支えた経済的要因を解明する。

#### [研究実施概要]

2年間の研究課題の初年度では穀倉というテーマで、都城における穀倉の役割と地形的な自然条件との関係を明らかにするために、現地調査とそれを考察、分析および発表するための技術的な方法の習得に努めた。まず、先行研究として、新たな論文および発掘調査報告書を入手した。情報収集としては中国水利史研究会に参加し、研究者との交流および水利史研究の情報を得た。東アジア都城史研究会の国際会議に通訳として参加し、中国人研究者2名の講演の通訳と報告の翻訳を通じて、都城の構造と水利との関係について専門的かつ新しい見識を深め、日本史、中国史および朝鮮史における都城史の研究者との交流及び情報収集をすることができた。(http://www.toa-tojo.com/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=22)。同研究会の主催で、京都、奈良、大阪の都城、発掘現場および歴史博物館の訪問と見学ツアーに参加し、考古学を中心とした専門家の意見や助言を得るだけでなく、日本の古代都城の構造と位置を地形的に考察し、日本と中国の都城の比較をすることができた。次に、実地調査については洛陽のフィールドワークを2回行い、四倉の所在地に出向き踏査した。位置と地形、周辺の河道あるいは水道の有無と距離、遺構の確認を行い、収集した発掘調査報告書などと照合した。現地情報を得るだけでなく、河道と穀倉の位置の関係およびその地形的立地を考察した。技術面では、実地調査を考察し分析する方法として、都城や歴史GISの応用に関する書籍、古代の地図、CORONA衛星写真等を入手し、さらにArcGISのソフトの基礎と応用については授業や講習会などに多く参加し、その操作方法を習得し、今後の成果報告に役立てる準備が整った。研究の成果を図表で表現した。

## G. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 渉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
市古 宙三	太平天国及び中国共産党の研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
宇都宮美生	古代中国都城史・古代中国水利史
梅田 博之	現代朝鮮語の記述的研究
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究

**研究員名**

梅村 坦  
 宇山 智彦  
 江川ひかり  
 遠藤 光暁  
 大江 孝男  
 大河原知樹  
 大澤 肇  
 大澤 正昭  
 太田 啓子  
 太田 信宏  
 太田 幸男  
 大谷 俊太  
 岡崎 礼奈  
 岡田 英弘  
 尾形 洋一  
 岡野 誠  
 丘山 新  
 小川 裕充  
 奥村 哲  
 尾崎 文昭  
 小田 壽典  
 小名 康之  
 梶谷 懐  
 粕谷 元  
 糟谷 憲一  
 片桐 一男  
 片山 章雄  
 片山 剛  
 加藤 直人  
 加藤 弘之  
 金子 修一  
 金丸 裕一  
 辛島 昇

**研究課題**

ウイグル民族誌、内陸アジア史  
 中央アジア近代史・現代政治  
 トルコ社会経済史  
 中国語音韻史・方言学  
 現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究  
 19-20世紀シリアの社会史・政治史  
 近現代中国における学校教育史  
 唐宋時代社会史  
 アラビア半島・紅海文化圏の歴史  
 南インド近世史  
 秦墓竹簡の研究  
 室町・江戸時代文学の研究  
 日本近代美術史  
 アジア史  
 近現代中国政治外交史  
 前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献  
 中国仏教資料研究  
 中国絵画資料研究  
 中国近現代史  
 20-21世紀中国の文学  
 古トルコ語仏教文献の研究  
 インド・ムガル時代史  
 中国の財政金融改革  
 トルコ現代史  
 18-19世紀朝鮮政治史  
 日蘭文化交渉史の研究  
 中央アジア古代史  
 広東農村社会史研究  
 清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究  
 地域開発の現状と政策に関する実証研究  
 中国古代史  
 中国政治経済史・日中関係史  
 南アジア史

## 研究員名

川井 伸一  
川合 安  
川崎 信定  
川島 真  
貴志 俊彦  
岸本 美緒  
北川 香子  
北村 文夫  
北本 朝展  
金 鳳珍  
草野 靖  
楠木 賢道  
久保 亨  
窪添 慶文  
久保田 淳  
熊本 裕  
黒田 卓  
氣賀澤保規  
巖 善平  
黄 東蘭  
高野 太輔  
興柁 一郎  
小嶋 芳孝  
小杉 泰  
後藤 明  
小浜 正子  
小松 久男  
小南 一郎  
近藤 信彰  
齋藤真麻理  
早乙女雅博  
櫻井 徹  
佐藤健太郎

## 研究課題

中国企業研究  
六朝貴族制の研究  
チベット仏教の研究  
近代中国外交史  
東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究  
明清時代地方社会史  
カンボジア史  
現代中東問題の研究  
デジタル・アーカイブ  
東アジアの歴史・思想・国際関係  
中国王朝国家の発展と社会経済  
清初の「民族」関係  
中国近現代史  
魏晉南北朝時代史  
日本中世文学、和歌文学  
イラン語史の研究  
近現代イラン史  
中国隋唐政治社会史  
中国の三農問題  
近代日中関係史  
初期イスラーム史  
現代中国論・中国現代史  
渤海文化の考古学的研究  
現代イスラム政治の研究  
イスラム社会と政治の研究  
中国ジェンダー史  
中央アジア近代史  
中国藝能史研究  
イラン史・ペルシア語文化圏史  
中世日本文学の研究  
東アジア考古学の研究  
在留外国人のコミュニケーション誌の現況について  
マグリブ・アンダルス史



研究員名

佐藤 慎一  
 佐藤 宏  
 佐藤 仁史  
 澤江 史子  
 塩沢 裕仁  
 設樂 國廣  
 部 勇造  
 篠崎 陽子  
 斯波 義信  
 嶋尾 稔  
 清水 宏祐  
 清水 信行  
 志茂 碩敏  
 庄垣内正弘  
 城山 智子  
 真道 洋子  
 新免 康  
 末成 道男  
 須川 英徳  
 杉山 清彦  
 鈴木 恵美  
 鈴木 均  
 鈴木 博之  
 鈴木 立子  
 砂山 幸雄  
 妹尾 達彦  
 關尾 史郎  
 関本 照夫  
 曾田 三郎  
 高田 幸男  
 高遠 拓児  
 瀧下 彩子  
 武内 紹人

研究課題

中国近代政治資料研究  
 農村経済社会の長期変動  
 近現代江南農村社会史研究  
 現代トルコ政治  
 中国古代歴史地理研究  
 オスマン帝国末期政治史  
 南アラビア古代史  
 前近代中国文化史  
 中国社会経済史  
 ベトナム史  
 セルジューク朝時代イランの研究  
 古代の日本・大陸交流史  
 13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究  
 チュルク語の研究  
 近現代中国の通貨・金融システム  
 イスラーム・ガラス文化史  
 中央アジア史  
 東アジア社会人類学  
 高麗・朝鮮時代の商業  
 清朝政治社会史  
 現代エジプト政治史  
 イランおよびアフガニスタンの地域研究  
 徽州民間祭祀の研究  
 元朝社会経済史  
 現代中国思想・文化・政治体制  
 中国古代・中世都市史  
 敦煌・トルファン文書研究  
 東南アジア伝統工芸業の研究  
 中国近代政治・社会史  
 長江下流域の地域社会・エリート・教育団体  
 清代における刑罰制度の研究  
 近現代中国社会文化史  
 古代チベット語の歴史言語学的研究

## 研究員名

武内 房司

武田 幸男

田島 俊雄

多田 狷介

立川 武蔵

田中 明彦

田仲 一成

田中 時彦

田中 仁

田中比呂志

C. A. ダニエルズ

田村 晃一

竺沙 雅章

千葉 熈

辻本 裕成

土田 哲夫

坪井 祐司

鶴見 尚弘

寺田 浩明

唐 成

唐 亮

徳原 靖浩

戸倉 英美

朽尾 武

土肥 義和

富澤 芳亜

鳥海 靖

中兼和津次

長沢 栄治

永田 雄三

中谷 英明

長縄 宣博

## 研究課題

18~19世紀を中心とする西南中国の歴史における社会・民間宗教研究

朝鮮古代・近世史

中国農業・農家の経済計算と所得分配

漢魏晋史

チベット密教教理の研究

現代東アジア国際政治の研究

中国演劇史

日本の政治的近代化の研究

中国近代政治史・初期中国共産党史

近現代中国の社会統合の研究

清代社会経済史、中国技術史

東北アジアの考古学研究

中国仏教文化史

宋代宮廷史

中古・中世日本文学の研究

中国近現代史、国際関係史

マレーシア近代史

明・清時代社会経済史

中国明清法制史

現代中国金融の研究

現代中国政治史の研究

ペルシア文学、イラン思想史

中国古典文学資料研究

和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究

西域出土漢文文書の研究

中国近代経済史

日本近現代史

現代中国経済・移行経済の研究

近代エジプト社会経済史

オスマン帝国社会経済史

インド仏教学

帝政ロシアのムスリム社会と国家

**研究員名**

中見 立夫  
 中村 元哉  
 新村 容子  
 西 英昭  
 西尾 寛治  
 延廣 眞治  
 萩田 博  
 八尾師 誠  
 濱下 武志  
 濱島 敦俊  
 濱田 正美  
 濱本 眞実  
 林 佳世子  
 林 俊雄  
 原 實  
 原山 隆広  
 平勢 隆郎  
 平野健一郎  
 平野 聡  
 弘末 雅士  
 廣瀬 紳一  
 深沢 眞二  
 藤井 昇三  
 藤田 忠  
 藤本 幸夫  
 古田 和子  
 古屋 昭弘  
 弁納 才一  
 寶劔 久俊  
 星 泉  
 細谷 良夫  
 堀川 徹  
 本庄比佐子

**研究課題**

清代モンゴル史・清代文書の史料的研究  
 中国近代政治史・憲政史・メディア史  
 近代中国におけるアヘン問題  
 中国・台湾の近現代法制史  
 マレーシア・インドネシア近世史  
 江戸・明治の文芸  
 ウルドゥー語学・文学の研究  
 20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究  
 中国近現代史  
 中国近世社会経済史  
 中央アジアにおけるイスラーム研究  
 ロシア・ムスリム史  
 オスマン朝期中東社会史  
 中央ユーラシア史・草原考古学の研究  
 インド古代文学の研究  
 アッバース朝末期政治史  
 中国考古資料研究  
 近代東アジア国際関係論  
 中国党支配（国民党・共産党）の史的研究  
 インドネシア宗教社会史  
 漢字文化圏電子情報学の研究  
 連歌・俳諧の研究  
 中国近現代史  
 中国古代政治・社会史  
 朝鮮本研究  
 情報・流通ネットワークの歴史的分析  
 中国語史  
 近現代中国農村経済史  
 現代中国の農村社会経済変動の研究  
 現代チベット語研究  
 清朝政治史  
 中央アジア文書研究  
 近現代日中関係史

## 研究員名

牧野 元紀  
松井 太  
松重 充浩  
松永 泰行  
松濤 誠達  
松丸 道雄  
松村 潤  
松本 弘  
丸川 知雄  
三浦 徹  
水野 善文  
三田 昌彦  
御牧 克己  
宮崎 修多  
宮脇 淳子  
村井 章介  
村上 衛  
村田雄二郎  
毛里 和子  
本野 英一  
初山 明  
守川 知子  
森平 雅彦  
森安 孝夫  
矢島 洋一  
柳澤 明  
柳田 征司  
柳谷あゆみ  
矢吹 晋  
山内 弘一  
山内 民博  
山口 瑞鳳  
山村 義照

## 研究課題

ベトナムのキリスト教  
中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究  
近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史  
現代イランの政治・宗教及びシーア派研究  
インド古代神話学の研究  
殷周金文の研究  
東北アジア民族史  
イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治  
中国の産業集積および日中経済関係  
イスラム都市社会史  
古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学  
北インド中世史  
チベット宗義書の研究  
近世近代漢詩文の研究  
北アジア・中央アジア史  
日本中世を中心とする東アジア文化交流史  
清末沿海経済史の研究  
中国近代史・中国地域研究  
現代中国政治・外交及び東アジア国際関係  
清末民初における対外経済関係  
中国古代法制史・辺境論・資料論  
イラン・イスラーム史  
朝鮮中世・近世史  
古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史  
中央アジア史  
清代外交史・民族関係史  
日本語の歴史的研究  
中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究  
近現代中国経済  
李朝史、朝鮮儒教研究  
朝鮮後期郷村社会史研究  
チベット学、仏教哲学  
日本近現代史

研究員名	研究課題
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 毅雄	東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近現代史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 240 人)

## 2. 研究資料出版

総合アジア圏域研究との連携の下に、超域アジア研究と歴史・文化研究、資料研究に関する一次資料の解析と研究を実施し、その成果は、継続してきた和文および欧文の紀要・雑誌・叢書として刊行し、順次オンライン公開を進める。さらに今回、総合アジア圏域研究に伴う成果を新たにアジア研究に関する欧文の電子ジャーナルとして編集発行する。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

### A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第94巻第1～4号 A5判 4冊  
(刊行済)
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No. 70 B5判 1冊 (刊行済)
- (3) 『近代中国研究彙報』第35号 A5判 1冊 (刊行済)
- (4) 『東洋文庫書報』第44号 A5判 1冊 (刊行済)

- (5) 『新たなアジア研究に向けて (超域アジア研究報告)』 第9号  
A4判 1冊 (刊行済)
- (6) *Asian Research Trends New Series* No. 7  
A5判 1冊 (刊行済)
- (7) *Modern Asian Studies Review* Vol. 5  
A5判 1冊 (刊行済)

## B. 論叢等出版

- (1) *Studies in Tibetan Buddhist Texts* Vol. 1  
(シャン・タンサクパ『中観明句論註釈』1) B5判 1冊 (刊行済)
- (2) *The 1946 Republic of Kurdistan: A Research on the Struggle for Independence And Its Historical Significance* (英語/クルド語)  
B5判 1冊 (刊行済)
- (3) 『岩崎貴重書書誌解題Ⅶ』  
B5判 1冊 (刊行済)
- (4) 『修訂版 敦煌・吐魯蕃出土漢文文書の新研究』  
(汲古書院と共同出版) B5判 1冊 (刊行済)
- (5) 『内国史院檔 天聰5年Ⅱ』  
B5判 1冊 (刊行済)

## C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。  
[http://www.toyo-bunko.or.jp/newresearch/publication\\_new.php](http://www.toyo-bunko.or.jp/newresearch/publication_new.php)

## 3. 研究情報普及

### A. 講演会

#### (1) 東洋学講座

(春期) 共通テーマ「東洋文庫ミュージアムオープン記念講演会  
〈東洋文庫と本の世界〉」

第 529 回 2012 年 6 月 11 日 (月)

「オランダ語・日蘭関係史料による 19 世紀の古気候再現  
—東洋文庫に収蔵されるシーボルト史料を発端として—」  
神戸大学大学院教授 塚原 東吾 氏

第 530 回 2012 年 6 月 20 日 (水)

「チベットの文字の文化史」  
神戸市外国語大学客員研究員  
岩尾 一史 氏

第 531 回 2012 年 6 月 29 日 (金)

「エジプトにおける民主主義の系譜と議会文書」  
東洋文庫研究員  
名古屋商科大学教授 池田美佐子 氏

(秋期) 共通テーマ「東洋文庫と本の世界Ⅱ」

第 532 回 2012 年 11 月 19 日 (月)

「判ると楽しい“大清帝国”文献史料」  
東洋文庫研究員  
国士舘大学教授 石橋 崇雄 氏

第 533 回 2012 年 11 月 30 日 (金)

「モリソンパンフレットの世界」  
京都府立大学准教授 岡本 隆司 氏

第 534 回 2012 年 12 月 3 日 (月)

「中国の族譜と同族結合の実態」  
東洋文庫図書部長 田仲 一成 氏

(2) 特別講演会

2012 年 6 月 16 日 (土)

「エジプトにおけるクフルとその容器」  
東洋文庫研究員 真道 洋子 氏

“Beauty and Cosmetics in Ancient Egypt”〔英語・通訳なし〕

ヘルワン大学教授 Gihane ZAKI 氏

2012年7月10日(火)

“Women’s Sufi Community in a Country in Turpan, Xinjiang”

〔英語・通訳なし〕

新疆大学教授 ラヒラ・ダウト 氏

2012年7月20日(金)

「国図敦煌特蔵中の《大般若經》: 中国国家図書館・敦煌特蔵中の《大般若經》」

〔中国語・通訳あり〕

上海師範大学教授 方 広錮 氏

2012年9月28日(金)

“(Re-)Making the History of Soviet Islam:

Some Emergency Tasks and Perspectives”〔英語・通訳なし〕

フランス国立科学研究センター CNRS 研究員

Stéphane DUDOIGNON 氏

2012年11月10日(土)

“Myth and Ritual: The Case of Islamized Shamanism in Xinjiang”

〔英語・通訳なし〕

フランス国立科学研究センター・上席研究員(研究ディレクター)

Thierry ZARCON 氏

2012年11月20日(火)

「フェルガナ盆地に保存されるカーディー文書の研究史について」

〔ロシア語・通訳あり〕

ウズベキスタン共和国フェルガナ州立郷土博物館長

バハードウル・J・ハシモフ 氏

「ザキ・ヴァリディ・トガン: 亡命期前半の生活と著作(1923～1948年)」

〔ロシア語・通訳あり〕

ロシア科学アカデミー・ウファ学術センター歴史言語文学研究所

バシコルトスタン歴史・文化史部主任

マルスイリ・N・ファルフシャートフ 氏



2012年12月10日（月）

“Imperial Thinking” and the New Qing History”〔英語・通訳なし〕

Professor, Department of East Asian Languages and Civilizations,  
Harvard University

Mark C. ELLIOTT 氏

2013年3月23日（土）

「中国陳情の研究—社会深層からの視点」〔英語・通訳あり〕

於：早稲田大学現代中国研究所  
中国外交学院教授 李 紅勃 氏

2013年3月27日（水）

“Scholarly Publishing in English: What Editors Expect”〔英語・通訳なし〕

Publishing Director, National University of Singapore Press  
Paul KRATOSKA 氏

(3) 東洋文庫談話会

2013年2月19日（火）

「バートゥルたちの「近代」—クルグズ遊牧社会とロシア帝国—」

日本学術振興会特別研究員（PD）

秋山 徹 氏

2013年3月7日（木）

「20世紀初頭におけるチベットの領域問題の形成」

日本学術振興会特別研究員（PD）

小林 亮介 氏

2013年3月25日（月）

「日中戦争期の上海経済と企業経営」

日本学術振興会特別研究員（PD）

今井 就稔 氏

(4) 公開講座

2012年4月14日(土)

《「東インド会社とアジアの海賊」展記念シンポジウム》 於：日仏会館  
「アジアの人々と東インド会社という海賊」

東京大学東洋文化研究所教授 羽田 正 氏

「カワーシム海賊とは誰か?—現実と想像力との混交—」

日本学術振興会特別研究員 鈴木 英明 氏

「貿易、戦争、移民：18世紀マレー海域と東インド会社」

広島大学大学院文学研究科准教授 太田 淳 氏

「東南アジアの海域秩序と海賊」

東洋文庫研究員 弘末 雅士 氏

「海賊から商人へ—倭寇とオランダ東インド会社—」

東京大学史料編纂所准教授 松方 冬子 氏

「“中国海賊(チャイニーズ・パイレーツ)”イメージの形成」

日本学術振興会特別研究員 豊岡 康史 氏

「清朝に“雇われた”イギリス海軍」

東洋文庫研究員 村上 衛 氏

「中国沿海の商業と海賊行為 1620～1640」

フランス国立極東学院研究員 Paola Calanca 氏

2012年5月19日(日)

「屏風に描かれたオランダ東インド会社の活動」

長崎歴史文化博物館研究員 深瀬公一郎 氏

2012年8月18日(日)

《「ア！教科書で見たゾ」展記念シンポジウム》

「世界史は、ファンタジーワールドの物語か?!」

文京学院大学女子高等学校教諭 小川 宏明 氏

「世界史教科書、図表のキャプションまで読み込め！」

東京都立国分寺高等学校主任教諭 風間 睦子 氏

「エ！これ見てないゾ?! 世界史教科書の悩ましい図版選び」

東洋文庫研究員 岸本 美緒 氏

「東南アジアと日本を「つなぐ」「くらべる」～新しい世界史の威力と魅力～」  
大阪大学教授 桃木 至朗 氏

2012年8月26日（月）

「東洋史の中の「東洋」―日中両国の東洋史教科書を通して―」  
東洋文庫研究員 黄 東蘭 氏

2012年8月29日（金）・30日（土）・31日（日）

＜東洋文庫アジア資料学研究シリーズ＞

「東洋の Codicology  
―文理融合型東洋写本・版本学（講習会）―“漢字文献”」  
東洋文庫研究員 石塚 晴通 氏  
東洋文庫研究員 土肥 義和 氏

2013年1月26日（土）

＜「もっと北の国から」展記念講演＞

“幕末日露関係史の最前線：もっと北の国から日本への熱き視線”

「19世紀初頭の日本・ロシア・カラフト：

ロシア所在日本関係史料の調査と研究」

東京大学史料編纂所副所長 保谷 徹 氏

「ロシア人の観た幕末日本：

プチャーチンの来航とゴンチャロフ『日本渡航記』

埼玉大学教養学部教授 澤田 和彦 氏

2013年1月27日（日）

＜「もっと北の国から」展記念講演＞

“もっと知ろう、もっと北の国Ⅰ：帝政ロシアの実像”

「北海道大学スラブ研究センター、人間文化研究機構プログラム

イスラーム地域研究・現代中国地域研究 東洋文庫拠点共催、  
学習院大学史料館後援」

「ナポレオンのモスクワ遠征とロシア・イメージの変容」

北海道大学スラブ研究センター助教 越野 剛 氏

「総督制を通じたロシア帝国の統合：

西における民族操作、東における空間操作」  
北海道大学スラブ研究センター教授 松里 公孝 氏

2013年2月10日（日）

＜「もっと北の国から」展記念講演＞

“もっと北の国の音楽：魅惑のバラライカ” [東京藝術大学共催]

「バラライカはロシアの伝統楽器か？」

宮城教育大学名誉教授 森田 稔 氏

「ロシアの民族音楽とバラライカの魅力」（レクチャーと演奏）

東京藝術大学音楽研究センター教育研究助手

マキシム・クリコフ 氏

2013年2月16日（土）

＜「もっと北の国から」展記念講演＞

“もっと知ろう、もっと北の国Ⅱ：中央アジアからのまなざし”

[北海道大学スラブ研究センター、人間文化研究機構プログラム

イスラーム地域研究・現代中国地域研究 東洋文庫拠点共催、  
学習院大学史料館後援]

「中央アジアと東西の帝国：ロシアからの視線と中国からの視線」

早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員

野田 仁 氏

「中央アジアから「北の国」へのまなざし：

近代知識人のロシア観を手がかりに」  
北海道大学スラブ研究センター教授 宇山 智彦 氏

2013年2月17日（日）

＜「もっと北の国から」展記念講演＞

“もっと知ろう、もっと北の国Ⅲ：北海道とサハリン”

[北海道大学スラブ研究センター、人間文化研究機構プログラム

イスラーム地域研究・現代中国地域研究 東洋文庫拠点共催、  
学習院大学史料館後援]

「19世紀のアイヌ社会と蝦夷地・北海道」

北海道大学大学院文学研究科・文学部准教授

谷本 晃久 氏

「19世紀のサハリン」

北海道大学スラブ研究センター准教授

兔内勇津流 氏

2013年2月23日（土）

◁「もっと北の国から」展記念講演＞

“ロシアの正教、正教のロシア：

頭でロシアはわからない、心で親しむ歴史と文化”

「正教会における祈り：チェルノブイリとイコン」

清泉女子大学文学部専任講師

井上まどか 氏

「古儀式派とロシア政治：日露戦争からソ連崩壊まで」

法政大学法学部教授

下斗米伸夫 氏

「ロシア文学における正教と異端派」

東京外国語大学学長

亀山 郁夫 氏

2013年2月24日（日）

◁「もっと北の国から」展記念講演＞

“もっと知ろう、もっと北の国Ⅳ：せめぎ合う二つの大国”

[北海道大学スラブ研究センター、人間文化研究機構プログラム

イスラーム地域研究・現代中国地域研究 東洋文庫拠点共催、  
学習院大学史料館後援]

「北京からサンクト・ペテルブルクへ：清朝の遣ロシア使節をめぐって」

早稲田大学文学学術院教授

柳澤 明 氏

「ロシアと中国：境界問題の歴史と現在」

北海道大学スラブ研究センター教授

岩下 明裕 氏

2013年3月2日（土）・3日（日）

◁総合アジア圏域研究国際シンポジウム＞（使用言語：英語）

[イスラーム地域研究東京大学拠点共催]

Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks:

Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere

SESSION 1:

The Multi-dimensional Character of Central Asian Cultures as Seen from the Variety of the Scripts and Languages of Excavated Texts

Coordinator: UMEMURA Hiroshi

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Chuo University)

Speakers, Titles:

DOHI Yoshikazu (Research Fellow, Toyo Bunko)

“The Dynamism Inherent in Han Chinese Personal Names as Shown in *Index of Chinese Surnames Appearing in the Dunhuang Chinese Documents Dating from the Late 8th to the Early 11th Century*”

Peter ZIEME

(Professor, Institute of Turcology, Free University, Berlin)

“Personal Names of Central Asian Christians: Focusing on Old Uighur Manuscripts”

TAKEUCHI Tsuguhito

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Kobe City University of Foreign Studies)

“Various Ethnic Groups with Tibetan Personal Names in the 9th-12th c. Texts and Inscriptions”

Nicholas SIMS-WILLIAMS (Professor, SOAS, London University)

“Personal Names in Bactrian Sources and Their Varied Ethnic Origins”

Commentators:

YOSHIDA Yutaka

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Kyoto University)

MATSUI Dai

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Hirosaki University)

SESSION 2:

The Regional Image of Central Asia as Portrayed in 18th-20th Century Historiography: Central Asian, Chinese and Russian Perspectives

Coordinator: SHINMEN Yasushi

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Chuo University)

Speakers, Titles:

ONUMA Takahiro (Associate Professor, Tohoku Gakuin University)

“The Qing Dynasty and Its Central Asian Neighbors”

OBIYA Chika

(Associate Professor, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University)

“Imperial Russia's Eyes on Central Asia: *Turkestanskii Sbornik* as a Set of Colonial Knowledge”

Ablet KAMALOV

(Chief Research Associate, Institute of Oriental Studies named after R.B. Suleimenov under the Ministry of Education and Science of Republic of Kazakhstan, Almaty)

“Xinjiang in the Focus of Uyghur Studies in Soviet Central Asia”

Commentator:

NAKAMI Tatsuo

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies)

SESSION 3:

The Revival of Islam in Central Asia: Links with West and South Asia

Coordinator: KOMATSU Hisao

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Tokyo University of Foreign Studies)

Speakers, Titles:

Stephane DUDOIGNON

(Senior Research Fellow, Centre National de la Recherche Scientifique, Paris)

“Interactions between the Near and Middle East, Central and Inner Asia in the Muslim Religious Field”

Bayram BALCI

(Visiting Scholar at Carnegie Endowment for International Peace, Washington DC)

“The Jama'at al Tabligh in Kirghizstan and Kazakhstan and Its Contribution to the Recreation of Islamic Relations between Central Asia and Indian Subcontinent”

YAMANE So (Professor, Osaka University)

“Think Umma, Use the Modern-Networks of Modern Muslim Intellectuals

in South Asia, 1900-1930”

Commentator:

UYAMA Tomohiko

(Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Slavic Research Center,  
Hokkaido University)

(5) 各種研究会・講演会開催

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	7	13	18	14	11	14	13	15	13	3	6	11	138
参加人数	60	147	295	175	141	192	272	323	189	23	114	254	2,185

**B. 東洋文庫アカデミア**

2013年1月17日付で、「東洋文庫アカデミア」タスクフォースが発足した。  
2013年度からの開講にむけて、毎月準備会を催し、検討した。

**C. データベース公開**

2012年4月1日～2013年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、II 図書事業のグラフ（p.17、p.18）に示すとおりである。

**D. 研究者の交流および便宜供与のサービス**

〈長期受入〉

(1) 外来研究員の受入

彌永 信美（フランス国立極東学院 東京支部長）

「日本仏教」 (2012年9月1日～2013年8月31日、極東学院)

Frédéric GIRARD（フランス国立極東学院教授）

「日本仏教」 (2012年9月21日～2013年9月20日、極東学院)



宋 好 彬（高麗大学校民族文化研究院研究員）

「朝鮮本古典籍の調査」

（2012年9月1日～2013年8月31日、高麗大学校）

[受入担当：藤本幸夫]

Peter ZIEME（元ベルリン トルファン研究所所長）

「古ウイグル文献学」

（2012年9月1日～2013年3月31日、私費）

[受入担当：梅村 坦]

呉 真（南開大学副教授）

「日中祭祀演劇の比較について」

（2013年1月12日～2月6日、私費）

[受入担当：田仲一成]

(2) 2012年度日本学術振興会特別研究員 PD の受入

小林 亮介（筑波大学大学院 PD）

「20世紀前半における「チベットの領域」問題の形成

—東チベットを中心に—

（2010年度採用、11・12年度・3ヵ年間）

[受入指導者・新免 康]

池尻 陽子（筑波大学大学院 PD）

「チベット仏教僧の思想とネットワークが清代内陸アジア史に与えた影響に関する研究」

（2010年度採用、11・12年度・3ヵ年間）

[受入指導者・吉水千鶴子]

秋山 徹（北海道大学大学院 PD）

「近代中央アジアにおける地域秩序の再編過程：

—クルグズ部族首領層の動向を中心に—

（2010年度採用、11・12年度・3ヵ年間）

[受入指導者・小松久男]

村上 正和（東京大学大学院 PD）

「清代中国社会と演劇文化」

（2011 年度採用、12・13 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・山本英史]

亀谷 学（北海道大学大学院 PD）

「パピルス文書による初期イスラーム時代統治システムの研究」

（2011 年度採用、12・13 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・後藤 明]

小林 隆道（早稲田大学大学院 PD）

「10-13 世紀中国における統治と「文書」

—官文書分析による史料批判学の再構築—」

（2011 年度採用、12・13 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・岸本美緒]

今井 就稔（一橋大学大学院 PD）

「日中戦争期中国資本家の研究—経済構造の変容と対日関係の模索—」

（2011 年度採用、12・13 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・久保 亨]

熊倉 和歌子（お茶の水女子大学大学院 PD）

「14-16 世紀エジプトにおける徴税と村落社会：土地台帳をてがかりに」

（2012 年度採用、13・14 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・林佳世子]

小林 晃（北海道大学大学院 PD）

「12～15 世紀中国における華北・江南の政治的統合過程」

（2012 年度採用、13・14 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・山本英史]

〈外国人研究者への便宜供与〉

China

張永江 [中国人民大学教授] (ほか 29 名)

France

Stephane DUDOIGNON [Centre National de la Recherche Scientifique]

Germany

Peter ZIEME

Iran

Reza NAZARAHARI [ambassador] (ほか 2 名)

Kazakhstan

Ablet KAMALOV [Institute of Oriental Studies]

Korea

金賢貞

Mongol

Dashdayaa [Ider University, Ulaanbaatar] (ほか 6 名)

Nederland

Leo M. DOUW [Universiteit van Amsterdam]

Russia

マルスイリ・N・ファルフシャートフ [ロシア科学アカデミー]

Singapore

黄基明 [Institute of Southeast Asian Studies] (ほか 3 名)

Turkey

Rifat BALI [Libra Kitap]

UK

Nicholas SIMS-WILLIAMS [London University]

USA

Virgina SHIN [University of California] (ほか1名)

Uzbekistan

バハードゥル・J・ハシモフ [フェルガナ州立郷土博物館長]

## E. 国際交流

フランス国立極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレクサンドリア図書館、イラン議会図書館との協力協定を継続した。European Consortium for Asian Field Studyの改組にともない、発起メンバーとなることで協力関係を強化した。また、ハーバード・エンチン研究所の派遣研究員に牧野研究員が合格し、本年8月より約10ヶ月間、Visiting Scholarとして研究活動を行う。ハーバード・エンチン図書館を斯波文庫長が訪問し、資料交換について詳細を打ち合わせた。

## 4. 研究員等の研究業績

期間：2012年4月1日～2013年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

會谷 佳光

①「漢籍善本紹介 東洋文庫(1)」(『新しい漢字漢文教育』, 第54号, 5～8, 87～89頁, 全国漢文教育学会, 2012年5月)。

①「漢籍善本紹介 東洋文庫(2)」(『新しい漢字漢文教育』, 第55号, 5～8, 116～118頁, 全国漢文教育学会, 2012年11月)。

①「中村菊之進氏寄贈和漢仏教古典籍目録」(『東洋文庫書報』, 第44号, 1～47頁, (財)東洋文庫, 2013年3月)。

②『旧三縁山増上寺山内寺院・報恩蔵 西蓮社志稿』(西蓮社, 2012年, 112頁)。

②『和刻本仏典邦人序跋集成 成田山仏教図書館之部』（二松学舎大学日本漢文教育研究推進室，2013年，105頁）。

相原 佳之

①「近現代資料の宝庫 アジア歴史資料センターの使い方」（『歴史と地理 世界史の研究』，第659号，24～31頁，山川出版社，2012年11月）。

①「2011年歴史学界の回顧と展望（中国—明・清）」（『史学雑誌』，第121編第5号，225～233頁，史学会，2012年5月）。

青木 敦

①「宋代抵当法の推移—景德『農田敕』から南宋判語に至る非占有質関連規定をめぐって」（古田和子編『中国の市場秩序—17世紀から20世紀前半を中心に』，19～47頁，慶應義塾大学出版会，2013年2月，[第1章]）。

③「『江南』宗族と女子分法問題」（戸隠の会，2012年8月10日）。

③「考課、監司与監察」（中国宋史研究会第十五届年会，2012年8月22日）。

③「江西有珥筆之民—試論中国近世裁判習慣的誕生」（第四届国際漢学会議，2012年6月22日）。

秋葉 淳

③「タンズイマート改革以前のオスマン朝イスタンブルにおける女子学校と女性教師」（日本オリエント学会第54回大会，於：東海大学湘南キャンパス，2012年11月25日）。

③「『百倍の混乱』：18世紀オスマン朝カーディー制度の徴税請負制的構造」（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「近世イスラーム国家と多元的社会」2012年度第1回研究会，於：東京外国語大学，2012年7月22日）。

③“Ertuğrul Fırkateyni ve Japonya'da Neşr-i İslamiyet”（NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点主催オスマン史研究会，於：（財）東洋文庫，2012年7月7日）。

浅田 進史

①「植民地権力と越境のポリテクス—膠州湾租借地におけるドイツ統治を再考する」（『境界研究』，No. 3，117～134頁，北海道大学スラブ研究センター，2012年11月）。

①書評「大里浩秋・貴志俊彦・孫安石編著『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』」（『歴史と経済』, 54-4, 50～52頁, 政治経済学・経済史学会, 2012年7月）.

③「1930年代末の青島経済—日本占領の経済的衝撃」（政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル「1930年代日本帝国勢力圏内諸都市の経済変容」, 於：慶應義塾大学三田キャンパス第1校舎, 2012年11月10日）.

③「東アジアにおけるドイツ植民地統治と防疫への社会動員—1910-1911年青島での肺ペスト対策を中心に」（「歴史と人間」研究会シンポジウム「ドイツ帝国医療は『特有』だったか—その中国ペストとアフリカ眠り病対策を中心に」, 於：一橋大学西キャンパス職員集会所, 2012年12月16日）.

#### 浅野 秀剛

①「浮世風俗美女競 一双玉手千人枕」「美人東海道の版下絵」ほか（『浮世絵師 溪斎英泉』図録, 計22頁, 千葉市美術館, 2012年5月, [コラム・解説]）.

①「艶本忠臣蔵」「野光の玉」「吾妻婦理」（『別冊太陽 国芳の春画』, 計28頁, 平凡社, 2012年11月, [解説・翻刻]）.

①「粹の美術 浮世絵の名作を観る」（『聚美』, Vol. 4, 30～53頁, 青月社, 2012年7月, [紹介]）.

①「役者見立絵—その発生から定着まで」（『江戸の表現』展目録, 7～15頁, 国文学研究資料館, 2012年10月, [解説]）.

②『フリーア美術館 ゲルハルト・プルヴェラー日本絵本コレクション目録稿』（共編）, 国文学研究資料館, 2013年, 206頁）.

#### 荒川 正晴

①“Chinese Research on Sources Excavated from Turfan Archeological Sites”, *Asian Research Trends New Series*, No. 7, pp. 19-40, The Toyo Bunko, 2012.

①「英国図書館蔵和田出土木簡の再研究—以木簡内容及其性質为中心」（『西域文史』, 第6輯, 33～46頁, 中国：科学出版社, 2012年）.

③「シルクロードと日本—来世観の伝播を中心に」（大阪大学桜花会講演会, 於：大阪大学理工学図書館, 2012年11月10日）.

③「前近代中央アジアの国家と交易」（内陸アジア史学会大会, 於：北海道大学, 2012年11月4日）.

③「史料紹介：敦煌文書に見る妻の離婚、娘の財産相続」（第2回中国前近

代ジェンダー史ワークショップ, 於: 日本大学文理学部, 2013年1月27日).

飯島 武次

- ①「渭河流域の先周文化土器と青銅器からみた西周の成立」(『中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査』, 1～46頁, 駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻, 2013年3月).
- ②『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』(同成社, 2013年, 230頁).
- ③「黄河中流域における夏文化の銅系遺物」(第6回アジア考古学四学会合同講演会『アジアの青銅器』, 日本考古学協会, 2013年1月27日).

飯島 渉

- ①「資料翻刻 大鶴正満訪中日誌(1957年)(1)」(〈本村育恵, 井上弘樹, 久保田明子, 藤野真帆, 星加美沙子, 森田英太郎, 『青山史学』, 31号, 93～130頁, 青山学院大学, 2013年3月).
- ③“A Hidden Hygienic Connection between Japan and China: Japanese Scientists Visiting China in 1957”, in Japan at Chicago Conference, Chicago University, USA, 11-12 May 2012.
- ③“A Hidden Commonality in “World History” between South Korea, China, and Japan”, in Korean Association for International Studies Conference, Seoul, Korea, 20-21 Aug. 2012.
- ③“Who Have Responsibility to Manage Disease: Historical Experience of the Twentieth Century in East Asia and Contemporary”, in The Fourth International Conference on Sinology, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, 20-22 June 2012.

池田 美佐子

- ①「エジプトにおける反軍事同盟運動(1946年)」(歴史学研究会編『世界史史料』, 第11巻(20世紀の世界Ⅱ 第二次世界大戦 冷戦と開発), 37～39頁, 岩波書店, 2012年12月).
- ①「受験競争の過熱と教育格差の現実」(鈴木恵美編著『現代エジプトを知るための60章』, 212～217頁, 明石書店, 2012年8月).
- ③「立憲王制期の政治的社会的変容と自由将校団」(NIHUプログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点(KIAS), 東京大学拠点(TIAS), 科学研究費基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究」(代表:長沢栄治)合同シンポジウム「エジプト7月革命(1952年)をめぐっ

て：新たな変革期における『革命』再論，於：京都大学，2012年12月8日）.  
③「エジプトにおける民主主義の系譜と議会文書」（（財）東洋文庫2012年度春期東洋学講座—東洋文庫と本の世界，於：（財）東洋文庫，2012年6月29日，[[『東洋学報』，第94巻第2号，104～105頁，（財）東洋文庫，2012年9月]]）.

池田 雄一

③「秦漢時代的吏人和地域控制」（於：武漢大学簡帛研究中心，2013年3月15日，[[『武漢大学簡帛研究中心簡帛網』，2013年3月17日]]）.

石川 寛

①「前期チャールキヤ朝史の再検討—3代王・4代王の治世を中心に」（『東洋学研究』，50号，237～251頁，東洋大学東洋学研究所，2013年3月）.

①“Commentary on D. R. Nagaraja, “Critical Tensions in the History of Kannada Literary Culture” in Sheldon Pollock ed., *Literary Cultures in History: Reconstructions from South Asia*, University of California Press, 2003”, *International Journal of South Asian Studies*, Vol. 5, pp. 50-51, New Delhi: Manohar Publishers & Distributors, 2013.

③「ヴァーカータカ朝研究の新動向」（日本南アジア学会第25回全国大会，於：東京外国語大学府中キャンパス，2012年10月7日，[[『日本南アジア学会第25回全国大会報告要旨集』，76～77頁，日本南アジア学会全国大会実行委員会，2012年10月]]）.

石塚 晴通

①「東洋のコディコロジー「漢字文献」」（〈土肥義和〉，『新たなアジア研究に向けて』，第9号，14～109頁，（財）東洋文庫，2013年3月）.

①「文献の作成と受容（訓読）」（『訓点語と訓点資料』，129輯（築島裕博士追悼記念号），2012年9月）.

①「漢字字体規範データベース（HNG）—敦煌写本の位置」（『敦煌・吐魯番出土漢文書の新研究』（修正版），1～10頁，（財）東洋文庫，2013年3月）.

② *Elements of Codicology of the Hanzi Script, Japan*, 2013, 38p.

②『漢字字体史研究』（勉誠出版，2012年，407頁）.



石橋 崇雄

③「判ると愉しい『大清帝国』文献史料一壇・廟の祭祀で行われた『舞生』の舞が東洋文庫に蘇る!!」(財)東洋文庫 2012 年度秋期東洋学講座—東洋文庫と本の世界Ⅱ, 於:(財)東洋文庫, 2012 年 11 月 19 日, [『東洋学報』, 第 94 卷第 4 号, 65～66 頁, 2013 年 3 月]).

③「一味(ひとあじ)ちがう『アジアの歴史』って?—まずは『もの』と『文字(もじ)』に触(ふ)れてみませんか」(平成 24 年度「青少年を育てる霞ヶ関北地区会議講演会」, 於:川越市伊勢原公民館多目的ホール, 2013 年 2 月 24 日).

井上 和枝

②『植民地朝鮮の新女性 「民族的賢母良妻」と「自己」のはざままで』(明石書店, 2013 年, 232 頁).

③「朝鮮中期における家門発展戦略と伝説の創作」(鹿児島民俗学会, 於:黎明館, 2012 年 6 月 24 日).

③「朝鮮『新女性』における『近代』・『ジェンダー』・『民族』・『親日』」(朝鮮史研究会第 49 回大会, 於:早稲田大学, 2012 年 10 月 20 日).

今西 祐一郎

②『アメリカへ渡った物語絵』(〈国文学研究資料館〉, ぺりかん社, 2013 年, 258 頁 [分担執筆]).

③「中世文学における死生観」(於:国際交流基金パリ日本文化会館, 2013 年 1 月 26 日).

③「日本古典籍の大規模画像データベース構想とその意義」(韓国日本学会, 於:高麗大学校, 2013 年 2 月 1 日).

③「版本『九相詩』前夜」(写本・版本国際集会, 於:慶應義塾大学, 2013 年 3 月 18 日).

上野 英二

①「源氏物語と長恨歌 其一」(『成城国文学論集』, 第 35 輯, 39～57 頁, 成城大学大学院文学研究科, 2013 年 3 月).

内山 雅生

①「現代中国農村における公共的關係」(柳澤悠・栗田禎子著『アジア・中東:

共同体・環境・現代の貧困』, 37～57頁, 勁草書房, 2012年7月).

①『「伝統」から「革新」を読み解く』(『宇都宮大学国際学部多文化公共圏センター年報』, 5号, 5～8頁, 宇都宮大学国際学部多文化公共圏センター, 2013年3月).

①「中国内陸農村訪問調査報告(3)」(〈祁建民〉, 『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』, 13号, 263～270頁, 長崎県立大学国際情報学部, 2013年1月).

③「三谷孝教授と華北農村調査研究」(20世紀華北農村調査と研究学術論壇, 於: 南開大学歴史学院, 2012年8月28日).

#### 梅田 博之

①「廣池千九郎博士の「吏道」研究」(『言語と文明』, 11, 1～22頁, 麗澤大学大学院言語教育研究科, 2013年3月).

①「西田龍雄先生のご逝去を悼む」(『言語研究』, 143号, 117～120頁, 日本言語学会, 2013年).

②『標準韓国語文法辞典』(〈李允希監修, 韓国・国立国語院著〉, 株式会社アルク, 2012年, 1055頁, [共同監修]).

#### 梅村 坦

①「中央アジア交流圏が示すユーラシア像」(姫田光義編『北・東北アジア地域交流史』, 191～212頁, 有斐閣, 2012年7月, [第7章]).

①「張承志—回族作家、その人道主義とムスリム意識」 「カシュガルの職人街—オアシス都市とその住民」 「新疆の遊牧民—カザフ、クルグズ、モンゴルの定住化をめぐる」(〈中国ムスリム研究会〉, 『中国のムスリムを知るための60章』, 81～85頁, 127～131頁, 137～141頁, 明石書店, 2012年, [第11章, 第19章, 第21章]).

#### 宇山 智彦

①「タジキスタン内戦と和平」(帯谷知可・北川誠一・相馬秀廣編『朝倉世界地理講座5 中央アジア』, 285～296頁, 朝倉書店, 2012年9月).

①「セミパラチンスク州知事トロイニツキーとカザフ知識人弾圧: 帝国統治における属人的要素」(中嶋毅編『新史料で読むロシア史』, 74～91頁, 山川出版社, 2013年3月).

①「ロシア帝国論」(ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』, 165～179頁,

彩流社, 2012年10月).

②『ユーラシア世界1〈東〉と〈西〉』(〈塩川伸明, 小松久男, 沼野充義〉, 東京大学出版会, 2012年, 265頁).

② *Empire and After: Essays in Comparative Imperial and Decolonization Studies*, Sapporo: Slavic Research Center, 2012, 133p.

江川 ひかり

① “Residents and Society of the Düzce Region in the First Half of the 19th Century”, 〈İlhan Şahin〉, *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies*, 6, pp. 65-76, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, Mar. 2013.

① 「20th Symposium of the International Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIÉPO)に参加して」(『西南アジア研究』, 第77号, 86～93頁, 西南アジア研究会, 2012年).

① “The Importance of Interdisciplinary Research Connecting Historical, Anthropological, Information, and Engineering Sciences of Based on the Case Study of Spatial-Temporal GIS (DiMSIS-EX) Application”, *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies*, 6, pp. 59-64, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, Mar. 2013.

② *Göçebeliğin Dünyası: Türk Göçebelerinden Çoşlu Yörüklerinin Etnografyası*, 〈Masatake Matsubara 著, Kiyotaka Sugihara 訳, İlhan Şahin 監修〉, Ankara: Atatürk Kültür Merkezi, 2012, [監修, 原書は松原正毅著『遊牧の世界—トルコ系遊牧民ユルックの民族誌から』].

③ “Residents and Society of the Düzce Region in the First Half of the 19th Century”, 〈İlhan Şahin〉, in 20th Symposium of the International Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIÉPO), Rethymno, Greece, 27 June 2012.

大河原 知樹

①『『アラビア語入門』—「井筒言語学」の曙光』(坂本勉・松原秀一編『井筒俊彦とイスラーム』, 297～309頁, 慶應義塾大学出版会, 2012年10月).

③ “Migration Movements and British Ottoman Diplomatic Relations”, in International Committee of Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIEPO, Comité International d'Études Pré-Ottomanes et Ottomanes), 20th Symposium, New Trends in Ottoman Studies, University of Crete, Rethymno, Greece, 27 June 2012.

大澤 肇

- ③「中華人民共和国建国初期上海及其近郊農村公辦教育的重建」(“1949年以來的上海”國際學術討論會, 於:上海社會科學院, 2012年12月18日).
- ③「近年日本歷史學界口述歷史資料情況—以日本當代史與日中關係史為中心」(中國研究的口述知識史工作坊—東南亞與日本, 於:台灣大學, 2012年7月27日).
- ③「東洋文庫所藏中國近代史與人物資料的概況」(〈吉田豐子〉, 現狀與未來:檔案典藏機構與近代人物研討會, 於:復旦大學, 2012年11月30日).

大澤 正昭

- ①「福建北部歷史調查報告:『清明集』的世界の地理的環境と文化的背景(建寧府篇)」(〈佐々木愛, 小川快之, 戸田裕司, 小島浩之〉, 『上智史學』, 57号, 2012年11月).
- ③「從唐末到宋初的基層社會和有力者」(唐宋變革研究會, 於:國立政治大學(台灣), 2012年12月22-23日).

太田 幸男

- ①「リレー討論 歴研創立80年を迎えて 第2回 歴研の綱領と『世界史的立場』」(『歴史學研究』, 901号, 56~59頁, 青木書店, 2013年1月).

岡田 英弘

- ①“Parallel Texts in Saghang’s Erdeni-yin Tobci and Blo bzang bstan ’dzin’s Altan Tobci”, *Man and Nature in the Altaic World, Proceedings of the 49th Permanent International Altaistic Conference, Berlin, July 30-August 4, 2006*, pp. 249-254, Berlin: Klaus Schwarzverlag, 2012.
- ①「名著探訪『ヨハネの黙示録』」「名著探訪:司馬遷著『史記』」「名著探訪『日本書紀』」(『環』, 50, 426~427頁; 51, 372~373頁; 52, 382~383頁, 藤原書店, 2012年7月; 2012年10月; 2013年1月).
- ①「『日本書紀』はどのように創られたか ①女性天皇の執念が万世一系を生んだ」, 「②神武天皇と天照大神は七世紀に出現した」, 「③ヤマトタケルは天武天皇」, 「④初代の倭国大王・仁徳天皇」(『新潮45』, 1月号, 132~139頁; 2月号, 182~189頁; 3月号, 188~195頁; 4月号, 228~235頁, 新潮社, 2012年12月; 2013年1月; 2013年2月; 2013年3月).
- ② *Mongolyn Ezent Gürnii Mandal Buuraal*, Ulaanbaatar, 2012, 206p., 『モンゴ

ル帝国の興亡』モンゴル語版〕。

②『康熙帝の手紙（清朝史叢書）』（藤原書店，2013年，461頁）。

岡野 誠

①書評「佐立治人著『あぶくの告発—前夫を殺した後夫を妻が訴えた話』（『関西大学法学論集』第六一卷第二号）」（『法制史研究』，62号，257～258頁，法制史学会，2013年3月）。

①「唐の「安菩夫妻墓誌」と安金蔵」（土肥義和代表『内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究』平成23・24年度科研報告書分冊別冊，3～28頁，（財）東洋文庫，2013年3月）。

①書評「石岡浩・川村康・七野敏光・中村正人著『史料からみる中国法史』（法律文化社，2012年7月）」（『法史学研究会会報』，17号，175～179頁，法史学研究会，2013年3月）。

③「敦煌文献と法史学—李盛鐸旧蔵敦煌文献を中心に」（法制史学会，於：金沢大学，2012年6月16日）。

奥村 哲

②『変革期の基層社会—総力戦と中国・日本』（創土社，2013年，302頁）。

②『ワークショップ 中国基層社会史研究における比較史的視座』（〈中国基層社会史研究会〉，汲古書院，2012年，121頁）。

③「中国近現代史研究の現状・課題・方法をめぐって」（中国基層社会史研究会主催「ワークショップ 中国基層社会史研究における比較史的視座」，於：東京大学東洋文化研究所，2012年7月28日，[中国基層社会史研究会編『ワークショップ 中国基層社会史研究における比較史的視座』，汲古書院，2012年12月，79～90頁]）。

尾崎 文昭

①「近代中国における文学出版の環境」（宮下志朗編『文学のエコロジー』，212～228頁，放送大学教育振興会，2013年3月，[第12回]）。

③「魯迅思想批判的根源」（北京大学人文学部王瑶学術講座・中国人民大学文学院学術講座，於：北京大学英傑交流中心，2013年3月29日）。

③「日本学者眼中的《故事新編》」（中国人民大学文学院学術講座，於：中国人民大学人文楼，2013年3月27日）。

③「日本学者眼中的《故事新編》（魯迅）」（北京大学人文学部王瑶学術講座，

於：北京大学五院，2013年3月28日）。

#### 小名 康之

- ①「ムガル時代の文書行政について」（小名康之編『近世・近代における文書行政—その比較史的研究』，5～41頁，有志舎，2012年3月）。
- ②『近世・近代における文書行政—その比較史的研究』（有志舎，2012年）。

#### 梶谷 懐

- ①『『過剰資本蓄積』の罣と和諧社会』（『中国経済研究』，第9巻第2号，31～44頁，中国経済学会，2012年9月）。
- ①「中国の近代化と多系的発展論—「停滞論」から「独自の発展モデル」へ」（『現代中国』，第86号，41～55頁，日本現代中国学会，2012年10月）。
- ①「中国経済の動学的非効率性に関する実証分析—AMSZ基準を用いた検討」（『国民経済雑誌』，第206巻第5号，65～84頁，神戸大学経済経営学会，2012年11月）。
- ③「農地転用と地方政府による『制度間競争』（日本現代中国学会2012年全国大会，於：一橋大学，2012年10月20日）。
- ③“Over Accumulation of Capital and Dynamic Inefficiency in Chinese Economy”，in Asia Economic Community Forum 2012, Hyatt Regency Incheon, Korea, 7 Nov. 2012.

#### 粕谷 元

- ①「トルコの政教分離論再考—シャリーア・ワクフ省の廃止ならびに宗務局およびワクフ総務局の新設に関する法律（1924年）の検討から」（粕谷元・多和田裕司編著『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』，3～22頁，上智大学イスラーム地域研究機構，2013年3月）。
- ③「二つの政教分離—1924年3月にトルコ大国民議会在が制定した「世俗化」3法の再検討」（上智大学イスラーム地域研究機構公募研究「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」研究会，於：上智大学，2012年11月18日）。

#### 糟谷 憲一

- ③「世界史教科書のなかの朝鮮史叙述」（日本歴史学協会歴史教育シンポジウム「現代への視点と世界史像の再構築」，於：学習院大学文学部，2012年10月20日）。

③「20世紀初頭の朝鮮における権力構造に関する考察—1899～1910」（第15回日韓歴史共同研究シンポジウム，於：鹿児島市中原別荘，2012年8月20日）。

片桐 一男

- ①「分け与えられた勝海舟と咸臨丸資料 中」（『日本古書通信』，993号，15～17頁，2012年4月）。
- ①「分け与えられた勝海舟と咸臨丸資料 下」（『日本古書通信』，994号，22～24頁，2012年5月）。
- ①「勝海舟の『蚊鳴餘言』（『洋学史研究』，29号，1～33頁，2012年4月）。
- ③「堀内文書解読から一わかったこと、わかって欲しいこと」（市立米沢図書館・米沢市上杉博物館主催，於：米沢市医師会館，2012年5月20日）。
- ③「杉田玄白と長崎屋」（杏雨書屋第29回研究講演会，於：武田薬品工業（KK）研修所2階大ホール，2012年4月21日）。

片山 剛

- ①「歴史学の醍醐味をどう伝えるか」（『史学雑誌』，第122編第3号，35～37頁，史学会，2013年3月）。
- ②『現代中国に関する13の問い—中国地域研究講義』（〈大阪大学中国文化フォーラム〉，大阪大学中国文化フォーラム，2013年，306頁，[3～25頁]）。
- ③「珠江三角洲地区漢族齊民社会的誕生及其特質」（於：南京大学歴史系（南京），2012年12月21日）。
- ③「開荒、環境保護、地主和農民：以二十世紀的前半期南京市江心洲為例」（第六屆現代中国社会變動与東亞新格局國際學術討論會，於：東華大学（台湾，花蓮），2012年8月22日）。

加藤 弘之

- ①“Globalization: Will China Change the World?”, *The Journal of Contemporary China Studies*, Vol. 1, No. 1, pp. 5-22, 2012.
- ①「経済全球化：中国が世界を変える？」（毛里和子・園田茂人編『中国問題：キーワードで読み解く』，237～262頁，東京大学出版会，2012年9月）。
- ①「中国資本主義の現段階：国進民退は起きているか？」（『国民経済雑誌』，第206巻第2号，15～32頁，神戸高等商業学校商業研究所，2012年8月）。
- ②『21世紀の中国 経済編：国家資本主義の光と影』（〈渡邊真理子，大

橋英夫), 朝日新聞出版, 2013年, 259頁).

金丸 裕一

①書評「王艾明著・松谷曄介編訳『王道—21世紀中国の教会と市民社会のための神学』(新教出版社、2012年)」(『福音と世界』, 68巻3号, 新教出版社, 2013年3月).

①「歴史学方法論与通往和解之路」(『立命館経済学』, 61巻5号, 立命館大学経済学会, 2013年1月).

①翻訳「張連紅著, 宋安寧・星野多佳子・金丸裕一訳「學術対話: 日中歴史共同研究における南京大虐殺」(宋安寧, 星野多佳子), 『立命館経済学』, 61-3, 376 ~ 390頁, 立命館大学経済学会, 2012年9月).

辛島 昇

① “The Reddis in the Tamil Country: The Process of Their Migration and Settlement”, *Journal of Karnataka Studies*, 5-2, pp. 125-134, May-October 2008 (actual publication in Jan. 2013).

① “The Past as Known from Tamil Inscriptions: Village Community and Challenge to the Caste System”, plenary address delivered at the Seventh Annual Tamil Studies Conference held at Toronto University in Canada, 11 May 2012.

③ 「現代インド政治と学問の自由—国際タミル学会 (IATR) の回顧を中心に」(龍谷大学現代インド研究センター (RINDAS) 2012年度第1回全体講演会「現代インド政治と学問の自由」, 於: 龍谷大学, 2012年6月26日).

川合 安

① 「南朝史からみた隋唐帝国の形成」(『唐代史研究』, 第15号, 3 ~ 21頁, 唐代史研究会, 2012年8月).

川崎 信定

① 「中村先生のチベット語授業・『般若心経』の読解と格闘 (特集「中村元生誕100年・人と思想」第45回)」(『山陰中央新報』, 18頁, 2013年2月16日).

① 「中村元と比較思想」(『東方』, 27号, 57 ~ 76頁, (公財)中村元東方研究所, 2013年3月).

③ 「中村元博士の比較思想研究」((公財)中村元東方研究所・インド大使



館共催, 中村元博士生誕 100 年記念講演会「中村元の世界へようこそ」, 於:  
在日インド大使館, 2012 年 10 月 15 日).

川島 真

- ①「長崎から見た辛亥革命」(辛亥革命百周年記念論集編集委員会編『総合研究 辛亥革命』, 257 ~ 276 頁, 岩波書店, 2012 年).
- ①“Chapter 19, China”, Bardo Fassbender & Anne Peters eds., *The Oxford Handbook of The History of International Law*, pp. 451-474, Oxford University Press, 2012.
- ②『중국근현대사 . 2: 근대국가의 모색 (1894-1925)』(삼천리 출판, 2012 年, 308 頁, [『近代国家への模索』韓国語訳]).
- ②『中国近代外交の形成』(〈田建国訳, 田建華校〉, 北京大学出版社, 2012 年, 574 頁, [『中国近代外交の形成』, 名古屋大学出版会, 2004 年の中国語訳]).
- ③「日中 150 年史のダイナミズム—憧憬・敵対・友好・競存」(日中国交正常化 40 周年記念シンポジウム『グローバル化の中の社会変容—新しい東アジア像を形成するために』, 日本学術振興会・中国社会科学院主催, 於:  
中国社会科学院, 2012 年 8 月 31 日).

貴志 俊彦

- ①「国旗・国徽・国歌—『中国』をめぐるシンボルとアイデンティティ」(浅野亮・川井悟編著『概説近現代中国政治史』, 247 ~ 271 頁, ミネルヴァ書房, 2012 年 7 月).
- ①「『朝日新聞富士倉庫資料』与中日戦争照片審査問題」(呉偉明編『在日本尋找中国—現代性及身份認同的中日互同』, 223 ~ 244 頁, 香港中文大学出版社, 2013 年 1 月).
- ②『美国在亞洲的文化冷戰』(〈土屋由香, 林鴻亦〉, 台北: 稻鄉出版社, 2012 年, 291 頁).
- ②『문화냉전과 아시아: 냉전 연구를 탈중심화하기 (文化冷戰とアジア—脱中心化する冷戰研究)』(〈쓰치야 유카 (土屋由香)〉, 서울: 소명출판, 2012 年, 336 頁).
- ②『二〇世紀滿洲歴史事典』(〈松重充浩, 松村史紀〉, 吉川弘文館, 2012 年, 840 頁).

岸本 美緒

- ①「清末における「奴隸」論の構図」（『お茶の水史学』, 56号, 179～214頁, お茶の水女子大学, 2013年3月）.
- ①「明末清初の市場構造—モデルと実態」（古田和子編著『中国の市場秩序—17世紀から20世紀前半を中心に』, 49～83頁, 慶應義塾大学出版会, 2013年2月）.
- ①「清代上海地方人士的國家観—以『歴年記』為例」（中国社会科学院歴史研究所他編『中日学者中国古代史論壇文集』, 407～425頁, 中国社会科学出版社, 2012年5月）.
- ②『風俗と時代観 明清史論集1』（研文出版, 2012年, 310頁）.
- ②『地域社会論再考 明清史論集2』（研文出版, 2013年, 248頁）.

北川 香子

- ①「チャンルン寺（カエト・スレイ・サントー）の住職任命騒動—プノム・ベン国立公文書館所蔵文書 No. 10133 の分析」（『南方文化』, 第39輯, 天理東南アジア研究会, 2012年12月）.

久保 亨

- ①「内外における辛亥革命百周年記念活動」（〈深町英夫, 村田雄二郎〉, 『新たなアジア研究に向けて』, 第9号, 2～13頁, (財)東洋文庫, 2013年3月）.
- ①「学会会議の歴史基礎案—世界史未履修問題への対応をめぐって」（『歴史評論』, No. 749, 19～33頁, 校倉書房, 2012年9月）.
- ①書評「村田雄二郎ほか編『新編 原典 中国近代思想史』全7巻」（〈味岡徹, 嵯峨隆〉, 『近代中国研究彙報』, 第35号, 179～210頁, (財)東洋文庫, 2013年3月）.
- ①「地域〔I〕中国」（社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望—社会経済史学会創立80周年記念』, 238～248頁, 有斐閣, 2012年6月）.
- ②『中国経済史入門』（東京大学出版会, 2012年, 324頁）.

窪添 慶文

- ①「遷都後の北魏墓誌に関する補考」（『東アジア石刻研究』, 第5号, 1～24頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所, 2013年3月）.
- ③「北魏における弘農楊氏—楊播一族を中心に」（魏晋南北朝研究会, 於: 日本女子大学, 2012年9月, [『第12回魏晋南北朝史研究会大会報告』, 2

～4頁, 2012年)].

久保田 淳

- ①「定家が百歌仙・百名歌を選ぶまで」(『ユリイカ』, 44-16, 16～27頁, 青土社, 2012年12月).
- ①「平安文学における女性の文芸活動」(『文学、社会、歴史の中の女性たち〈Ⅱ〉学際的視点から』, 1～10頁, 白百合女子大学「21世紀の女子大学におけるジェンダー教育・研究確立への試み」研究会, 2013年2月).
- ②『無名抄 現代語訳付き』(角川学芸出版, 2013年, 312頁).
- ②『名歌名句大事典 歳事・人・自然』(〈長島弘明〉, 明治書院, 2012年, 863頁).

熊本 裕

- ① “The Khotanese in Dunhuang”, Valerie Hansen ed., *The Silk Road: Key Papers*, Vol. 2, pp. 604-620, Leiden: Brill, 2012, [reprint of “The Khotanese in Dunhuang”, Alfredo Cadonna ed., *Cina e Iran*, Firenze: Leo S. Olschki Editore, 1996, pp. 79-101, July 1996].

黒田 卓

- ①「18世紀後半インド在住イラン家系出自ムスリムの訪欧旅行記」(『国際文化研究科論集』, 第20号, 95～113頁, 東北大学大学院国際文化研究科, 2012年12月).
- ①「バハーイー教」(井上順孝他編『世界宗教百科事典』, 194～195頁, 丸善出版, 2012年12月).
- ③「18世紀インドからイギリスへの旅行者をめぐって—ミールザー・エエテサーモッディーンとディーン・モハンマド」(東北大学大学院国際文化研究科「中東」表象研究会, 於: 東北大学, 2012年7月4日).

氣賀澤 保規

- ①「日本人僧円仁の入唐求法「巡礼」の旅と9世紀の唐代河北社会(中文: 日本僧人円仁入唐求法「巡礼」之旅和9世紀唐代的河北社会)」(『明治大学・中国社会科学院第2次學術研究会報告集』, 97～108頁(日文版), 109～117頁(中文版), 明治大学文学部文学研究科, 2013年3月).
- ①「東アジアの遣隋使—遣隋使がみた隋の風景」の刊行に寄せて」(『月

- 刊日本古書通信], 995 (6月号), 18～19頁, 日本古書通信, 2012年6月)。
- ②『中国中世仏教石刻の研究』(〈頼非, 手島一真, クラウディア・ヴェンツェル, 八木春生, 長岡龍作, ウォーリー朗子, 徳泉さち, 肥田路美, 梶山智史, 羅翠恂〉, 勉誠出版, 2013年, 340頁, [編者・氣賀澤保規])。
- ③「『大般若経』刻経から見た房山石経事業の展開」(科学研究費補助金成果報告シンポジウム「六朝隋唐時代をめぐる仏教社会の基層構造」, 於: 明治大学, 2013年1月13日)。
- ③「『衲軍墓誌』と“日本”—新発見百済人衲氏墓誌の紹介」(第5回中国石刻合同研究会, 於: 明治大学, 2012年7月28日, [『東アジア石刻研究』, 5号, 165～170頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所, 2013年3月])。

巖 善平

- ①「農民工一定住か、それとも帰郷か?」(毛利和子・園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』, 61～87頁, 東京大学出版会, 2012年9月, [第3章])。
- ①「中国における少子高齢化とその社会経済への影響—人口センサスに基づく実証分析」(『JRI レビュー』, No. 4, 21～41頁, 日本総研, 2013年3月)。
- ①「中国の三農問題と都市農村格差」(横田伸子他編『東アジアの格差社会』, 115～129頁, 御茶の水書房, 2012年9月, [第7章])。
- ①「最新の上海市人口統計からみる二重社会構造」(『東亜』, No. 540, 90～100頁, 霞山会, 2012年6月)。
- ①「労働需給と賃金上昇—現状と展望」(渡辺利夫監修・大橋英夫編『変貌する中国経済と日系企業の役割』, 3～25頁, 勁草書房, 2012年7月, [第1章])。

黄 東蘭

- ①「歴史学」(『中国年鑑 2012』, 226～228頁, 社団法人中国研究所発行, 毎日新聞社, 2012年, [年鑑項目])。
- ①翻訳「森林の消失と近代「満州」の形成—關於近代空間建構的社会生態史学考察」(夏明方編『歴史的生態学解釈(『新史学』第六巻)』, 69～90頁, 中華書局, 2012年)。
- ①「『東洋史』から『中国史』へ—桑原隲蔵『中等東洋史』と陳慶年『中国歴史教科書』の比較から」(古垣光一編『アジア教育史学の開拓』, 575～597頁, アジア教育史学会, 2012年)。

③「東洋史のなかの「東洋」—日中両国の東洋史教科書を通して」(東洋文庫ミュージアム企画展示記念講演, 於:(財)東洋文庫, 2012年8月26日).

小杉 泰

①「現代中東・イスラーム世界の生存基盤—石油依存の帰結と属人性原理の復興」(『歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて』, 439～470頁, 京都大学学術出版会, 2012年).

①「南アジアとイスラーム: 知的ネットワークと民衆運動—イスラーム世界論から見た研究の射程と課題」(『南アジアとイスラーム: 知的ネットワークと民衆運動』, 1～17頁, NIHU プログラム「イスラーム地域研究」「現代インド地域研究」, 2013年).

①「現代イスラーム文化と日本社会」(『東洋学術研究』, 51号, 121～171頁, 2012年).

③“What is the Significance of “Islamic” in Islamic Economics? The Technology of Social Management and its Re-institution”, in 6th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance, Durham University, England, 17 July 2012.

③“Technology of Social Management and Its Knowledge Basis: An Inquiry into Islamic Civilization”, in SOASCIS 2nd International Conference: Transmitting Spiritual and Moral Values Across Generations in the 21st Century, 於: ダールツサラーム大学・イスラーム研究センター (ブルネイ), 5 Nov. 2012.

小浜 正子

①「中国計画生育的開端: 1950-1960年代の上海」(祝平一編『健康与社会: 華人衛生新史』, 329～351頁, 台北: 聯経, 2013年1月).

①「中国史の歴史認識とジェンダー」(『歴史評論』, No. 748, 33～41頁, 歴史科学協議会, 2012年8月).

③「生育の医療化・国家化と家族の絆—「一人っ子政策」と母系家族の顕現」(第62回現代中国学会全国学術大会, 於: 一橋大学, 2012年10月21日).

小松 久男

①「汎イスラーム主義再考」(塩川伸明・小松久男・沼野充義共編『記憶とユートピア (ユーラシア世界3)』, 19～50頁, 東京大学出版会, 2012年).

①“Japonlar Açısından Âlem-i İslâm”, *Türk-Japon İlişkilerinin Dönüm*

*Noktasında Abdürreşid İbrahim*, pp. 81-95, Konya: Konya Japon Kültür Merkezi, 2012.

②『〈東〉と〈西〉(ユーラシア世界1)』(〈塩川伸明, 沼野充義, 宇山智彦〉, 東京大学出版会, 2012年, 250頁).

②『ディアスポラ論(ユーラシア世界2)』(〈塩川伸明, 沼野充義〉, 東京大学出版会, 2012, 265頁).

②『記憶とユートピア(ユーラシア世界3)』(〈塩川伸明, 沼野充義〉, 東京大学出版会, 2012年, 259頁).

#### 小南 一郎

①「解説：白川静『甲骨金文学論叢』」(白川静『甲骨金文学論叢』, 1331～1338頁, 平凡社, 2012年6月).

②『詩経一歌の原始』(岩波書店, 2012年, 278頁).

③「学問のかたち」(国際東方学者会議(東方学会主催)シンポジウム, 於: 日本教育会館, 2012年5月23日).

#### 早乙女 雅博

①「考古学からみた新羅の国家形成」(『メトロポリタン史学』, 第8号, 59～77頁, メトロポリタン史学会(首都大学東京), 2012年12月).

②『高句麗壁画古墳報道写真展』(共同通信社, 2012年, 83頁, [監修]).

③「2011年高句麗壁画古墳の調査—ピョンヤン高山洞1号墳」(第24回東アジア古代史・考古学研究会, 於: 京都, 2013年1月12日, [『予稿集』, 45-49頁]).

#### 佐藤 健太郎

①“Yannayr and al-'Anşara: Seasonal Festivals in the Medieval Muslim West”, *The Journal of Sophia Asian Studies*, 30, pp. 1-14, Institute of Asian Cultures, Sophia University, Dec. 2012.

①「イブン・ハルドゥーン著「イブン・ハルドゥーン自伝5」」(〈茂木明石, 中村妙子, 柳谷あゆみ, 阿久津正幸〉, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, 5, 77～102頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2013年3月, [註]).

③「東洋文庫所蔵フェスの契約文書」(第12回拡大地中海史研究会, 於: 学習院大学, 2013年3月22日).

佐藤 仁史

- ①「中国東北地方文献調査記」(〈林志宏, 湯川真樹江, 菅野智博, 森巧〉, 『国史研究通説』, 第2期, 181～186頁, 台北: 国史館, 2012年6月)。
- ①「民国時期江南的廟会組織与村落社会—以吳江市的口述調查为中心」(『中国社会歴史評論』, 13号, 128～142頁, 天津古籍出版社, 2012年7月)。
- ①「隣国の歴史を学ぶということ (特集 歴史学をどう学ぶか)」(『歴史評論』, No. 745, 63～66頁, 民主主義科学者協会, 2012年5月)。
- ①「近現代中国研究に訪れた本格的なデジタル化の時代—『申報数拠庫』の紹介」(『東方』, 379号, 16～19頁, 2012年9月)。
- ②『近代中国の郷土意識—清末民初江南の在地指導層と地域社会』(研文出版, 2013年, 445頁)。

塩沢 裕仁

- ①「漢魏洛陽城穀水水文考」(『東洋史研究』, 71-2, 60～91頁, 東洋史研究会, 2012年9月)。
- ①「関野貞の「支那歴代帝陵の研究」を支えた人々—竹島卓一・荒木清三・岩田秀則」(〈共著〉, 『法政史学』, 79号, 8～29頁, 法政史学会, 2013年3月)。
- ②『関野貞大陸調査と現在』(〈共著〉, 東京大学東洋文化研究所, 2012年, 201頁)。

篠崎 陽子

- ①「東洋文庫所蔵 満・漢・蒙文三体合璧『満洲実録(まんしゅうじつろく)』—清朝建国史料(ウチの図書館お宝紹介! 第118回(財)東洋文庫)」(『図書館雑誌』, 106-5, 316～317頁, 日本図書館協会, 2012年5月)。

斯波 義信

- ①“On the Emergence and Intensification of the Pattern of Rural-urban Continuum in Late Imperial Jiangnan Society”, Billy Kee-long So ed., *The Economy of Lower Yangzi Delta in Late Imperial China: Connecting Money, Markets, and Institutions*, pp. 149-207, Routledge, 2013.
- ②『中国社会経済史用語解(第2刷)』((財)東洋文庫/東方書店, 2013年, 556頁)。
- ③「前近代中国社会経済的若干術語」(北京大学中国古代史研究中心招待

講演，於：北京大学中国古代史研究中心，2012年11月1日）。

嶋尾 稔

①「『天南四字経』に関する覚書」（『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，44，301～308頁，2013年）。

庄垣内 正弘

① “Two Fragments of Chinese Mañjuśrīnāmasaṃgīti Transcribed into Uighur Script: Dx12082 and Dx12114 Preserved in St. Petersburg”, *Тангуты в Центральной Азии: Сборник статей в честь 80: лемия профессора Е.И.Кычанова*, pp. 375-382, Москва, 2012.

① “How Deeply Inherited Uighur Pronunciation of Chinese (IUPC) Rooted in Uighur?: Two Forms of the Chinese Phonological System in Old Uighur”, *Proceedings of the First International Colloquium on Ancient Manuscripts and Literatures of the Minorities in China*, pp. 344-355, Beijing, 2012.

真道 洋子

①「天理参考館所蔵ピンサー装飾樹木坏をめぐって：ピンサー装飾ガラスの文様」（『第19回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』，25～22頁，ヘレニズム～イスラーム考古学研究会，2012年）。

①「イスラーム時代のピンサー装飾ガラスに関する考察：エジプト・ラーヤ遺跡出土品と天理参考館所蔵樹木坏の比較から」（『天理参考館報』，第25号，79～93頁，天理大学付属天理参考館，2012年）。

③ “Islamic Glass with Impressed Decoration: The Problems of Dating and Production”, in 19<sup>e</sup> congrès de l’association internationale pour l’histoire du verre, l’association internationale pour l’histoire du verre, 18 Sept. 2012.

③「中世エジプトのクフルとその容器」（東洋文庫特別講演会，（財）東洋文庫，2012年6月16日）。

③「地中海とインド洋を結ぶイスラーム・ガラス：チュニジア、エジプト、中国などの事例から」（特色ある共同研究拠点の整備の推進事業早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業『「モノ」から見た知の技術と生活文化の変容と交流』2012年度公開研究会，於：早稲田大学イスラーム地域研究機構，2012年12月25日）。



杉山 清彦

- ①書評「野田仁著『露清帝国とカザフ＝ハン国』」(『中国研究月報』, 66-12, 36～38頁, 中国研究所, 2012年12月).
- ①書評「楠木賢道著『清初対モンゴル政策史の研究』」(『満族史研究』, 11, 満族史研究会, 2012年12月).
- ②『東アジア海域に漕ぎだす1 海から見た歴史』(〈羽田正編・小島毅監修〉, 東京大学出版会, 2013年, iii + 289 + 2頁).
- ③「ユーラシアの中の大清帝国—「帝国」の支配構造」(北海道大学スラブ研究センター・新学術領域研究「ユーラシア地域大国比較研究」第4班ワークショップ「ユーラシア地域帝国としての清朝研究」, 於: 東京大学駒場キャンパス, 2012年12月16日).
- ③“A Chinese Dynasty or a Manchu Khanate?: The Qing (Ch'ing) Empire and Its Military Forces”, in International Conference, University of Potsdam, Germany, 14 Mar. 2013.

鈴木 恵美

- ①「エジプト社会の二極化にみる移行プロセスの考察—憲法宣言を中心に」(『アラブの春』の将来』, 27～40頁, 財団法人日本国際問題研究所, 2013年3月).
- ①「体制移行期における宗教政党の躍進—2011-12年人民議会選挙の考察」(伊能武次・土屋一樹編『エジプト動乱—1.25革命の背景 (JETRO アジ研選書 32)』, 87～110頁, アジア経済研究所, 2012年12月).
- ①「エジプト権威主義体制の再考—ムバーラク政権崩壊の要因」(酒井啓子編『中東政治学』, 21～34頁, 有斐閣, 2012年10月).
- ②『現代エジプトを知るための60章』(明石書店, 2012年, 385頁).
- ③「混乱を招いたエジプトの移行プロセス」(平成24年度外務省国際問題調査研究・提言事業「『アラブの春』の将来」, 於: 財団法人日本国際問題研究所, 2013年2月19日).

鈴木 均

- ①「アフガニスタン」(『アジア動向年報 2011』, 573～598頁, アジア経済研究所, 2012年5月).
- ①“Introduction: Post-Arab Spring Political Changes in the Middle East and Japan's Response: Searching for a New Axis of the System”, *The Middle East*

*Turmoil and Japanese Response: For a Sustainable Regional Peacekeeping System*, xi-xvi, pp. 36-53, IDE-JETRO, Mar. 2013.

① “Introduction”, Soleyman Soltanian, *The 1946 Republic of Kurdistan: A Research on the Struggle for Independence And Its Historical Significance*, pp. 1-9, The Toyo Bunko, 2013.

② 『世界地名大事典 第3巻「中東・アフリカ」』（加藤博・島田周平編），朝倉書店，2012年，1188頁，[「アフワーズ」「イラン・イスラーム共和国」「エスファハーン州」「カーシャーン」「ガズヴィーン」「テヘラン州」「バンダールアッバース」「プーシェフル」「プーシェフル州」「ホラーサーネラザヴィー州」「ヤズド」「ヤズド州」他約100項目]）。

③ 「ソレイマン・ソルトニヤン氏著『クルディスタン共和国』の出版をめぐって」（東洋文庫現代イスラーム研究班合同研究会，於：（財）東洋文庫，2013年3月10日）。

#### 妹尾 達彦

① 「漢長安故城与隋唐長安城」（北京大学中国古代史研究中心編『輿地、考古与史学新説—李孝聰教授榮休紀念論文集』，272～286頁，北京：中華書局，2012年）。

① 「東アジアの都城時代と交通網の形成」（国立歴史民俗博物館・玉井哲雄編『アジアからみる日本都市史』，45～78頁，山川出版社，2013年2月）。

① 「唐代長安の印刷文化—主にS.P.12とS.P.6を手がかりに」（土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究（修訂版）』，427～446頁＋図版4頁，（財）東洋文庫，2013年3月）。

① 「隋唐長安城と郊外社会の誕生」（中国社会科学院歴史研究所編『第3届中日学者中国古代史論集』，235～263頁，北京：社会科学出版社，2012年）。

② 『長安的都市計画』（西安：三秦出版社，2013年，266頁，[訳：高兵兵]）。

#### 關尾 史郎

① 「河西出土磚画・壁画に描かれた非漢族」（『西北出土文献研究』，10，5～22頁，西北出土文献研究会，2012年12月）。

① 書評「俄軍・鄭炳林・高國祥（主編）『甘肅出土魏晋唐墓壁画』（全三冊）」（『東洋学報』，第94巻第2号，91～97頁，（財）東洋文庫，2012年9月）。

① 「長沙出土郷名不詳賦税納入簡に関する一試論—『長沙走馬楼三国呉簡竹簡』[肆]所収簡を中心として」（『資料学研究』，10，25～39頁，新潟

大学大学院現代社会文化研究科, 2013年3月).

- ②『高台魏晋墓与河西歴史文化研究』(甘肅教育出版社, 2012年, 632頁).
- ③「從河西出土磚画・壁画看魏晋時期的漢族与非漢族」(澳門大学社会科学与人文学院・中国魏晋南北朝史学会共催「中国中古北方民族・宗教・芸術高層国際學術論壇」, 於:澳門大学国際會議厅, 2012年11月6日, [[「中国中古北方民族・宗教・芸術高層国際學術論壇」予稿集], 71～80頁, 2012年11月]).

曾田 三郎

- ①「中国近代史の描き方—近年の二つの著作を中心として」(『史学研究』, 278, 71～80頁, 広島史学研究会, 2013年1月).

高田 幸男

- ①「清末民初期地方教育会の会員像—江蘇教育会の事例」(古垣光一編『アジア教育史学の開拓』, 105～129頁, アジア教育史学会, 2012年).
- ①「近代中国地域社会と教育団体—江蘇教育会の会員構成分析」(『明治大学人文科学研究所紀要』, 73冊, 125～138頁, 明治大学人文科学研究所, 2013年3月).
- ①「江蘇省教育会之“復活”, 1947年—对于江蘇省檔案館所蔵有関“江蘇省教育会”檔案的紹介与考察」(連曉鳴・龐学銓主編『漢学研究与中国社会科学的推進—国際學術研討会論文集』, 284～290頁, 中国社会科学出版社, 2012年4月).
- ①「中華民國教育部(1912年-1949年)の人員構成」(『駁台史学』, 148号, 1～16頁, 駁台史学会, 2013年3月).
- ③「明治大学与中国留日学生」(明治大学・中国社会科学院 第2次學術研究会, 於:明治大学文学部文学研究科, 2012年7月27日, [[明治大学・中国社会科学院 第2次學術研究会報告集』, 77～190頁, 明治大学文学部文学研究科, 2013年3月]).

高遠 拓児

- ①「荻生北溪と清朝の則例集」(『東洋法制史研究会通信』, 21, 1～5頁, 東洋法制史研究会, 2012年8月).
- ①「学界回顧 2012:東洋法制史」(〈柳橋博之〉, 『法律時報』, 2012年12月号, 323～326頁, 日本評論社, 2012年12月).

高橋 英海

- ① “Edition of the Syriac Philosophical Works of Barhebraeus: With a Preliminary Report on the Edition of the Book of the Heaven and the World and the Book of Generation and Corruption of the Cream of Wisdom”, A.M.I. van Oppenraay ed., *Letter before the Spirit: The Importance of Text Editions for the Study of the Reception of Aristotle (Aristoteles Semitico-Latinus 22)*, pp. 109-130, Leiden: Brill, 2012.
- ① “On Some Transcriptions of Syriac Names in Chinese-Language Jingjiao Documents”, Li Tang & Dietmar W. Winkler eds., *From the Oxus River to the Chinese Shore: Studies on East Syriac Christianity in China and Central Asia (orientalia-patristica-oecumenica 5)*, pp. 13-24, Wien/Berlin: LIT Verlag, 2013.
- ③ “Syriac and Arabic Transmission of On the Cosmos”, in SAPERE Colloquium “On the Cosmos”, Akademie der Wissenschaften zu Göttingen, 10 Nov. 2012.
- ③ “Armenian Garshuni (Armenian in Syriac Script) and Its Users”, in I. International Syriac Studies Conference “Syriac in Its Multi-Cultural Context”, Mardin Artuklu Üniversitesi, 20 Apr. 2012.
- ③ “Barhebraeus on Psychology: An Overview of His Writings on the Soul”, in XIum Symposium Syriacum, L-Università ta’ Malta, Valetta, 16 July 2012.

瀧下 彩子

- ① 「戦前期満洲の三大温泉—旅行案内に見る旅館施設等の変遷」(『近代中国研究彙報』, 35号, 115～178頁, (財)東洋文庫, 2013年).
- ② 『二〇世紀満洲歴史事典』(〈貴志俊彦・松重充浩・松村史紀編〉, 吉川弘文館, 2012年, [項目執筆]).
- ③ 「戦前期日本の中国観光“長崎から船にのって…”」(第3回れきぶん長崎学講座(長崎と中国), 於:長崎歴史文化博物館, 2012年6月16日).

武内 紹人

- ① “Formation and Reformation of Old Tibetan”, T. Takeuchi and N. Hayashi eds., *Historical Development of the Tibetan Languages: Journal of Research Institute*, Vol. 49, pp. 3-17, Kobe City University of Foreign Studies, 2012.
- ① “Old Tibetan Rock Inscriptions near Alchi”, T. Takeuchi and N. Hayashi eds., *Historical Development of the Tibetan Languages: Journal of Research Institute*, Vol. 49, pp. 29-69, Kobe City University of Foreign Studies, 2012.

- ① “Old Tibetan Buddhist Texts from Post-Tibetan Empire Period: Mid 9th to Late 10th Centuries”, Cristina Sherrer-Schaub ed., *Old Tibetan Studies: Proceedings of the 10th Seminar of the International Association for Tibetan Studies*, pp. 205-215, Brill, 2012.
- ③ “Various Merkmals for Dating Old Tibetan Texts-from Extratextual to Textual”, in the Symposium Merkmals and Mirages: Dating (Old) Tibetan Writing, Munich, Jun 2012.
- ③ “Various Ethnic Groups with Tibetan Personal Names in the 9th-12th c. Texts and Inscription”, in the Symposium Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere, Tokyo: Toyo Bunko, 2 March 2013.

武田 幸男

- ① 「広開土王碑研究の諸問題」(『広開土王碑の再照明』, 29～47頁, 東北アジア財団, 2012年10月)。
- ① 「広開土王碑「原石拓本」欠損部分の研究」(『朝鮮学報』, 225, 1～46頁, 朝鮮学会, 2012年10月)。
- ③ 「広開土王碑の真意を求めて」(第14回国際日本学シンポジウム, 於: お茶の水女子大学, 2012年7月7日, [『発見! お茶の水女子大学の広開土王碑拓本』, 1～8頁, お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター, 2012年7月])。

田島 俊雄

- ① 「対米ソ冷戦下の中国経済」(『中国研究月報』, 第66巻第9号, 29～31頁, 中国研究所, 2012年9月)。
- ① “Tracking China’s Industrial Reorganization: The Work of the Economy Subgroup”, *Social Science Japan*, 48, pp. 3-5, The University of Tokyo, Institute of Social Science, Mar. 2013.
- ① 「中国の農業経済学とどうつきあうか」(泉田洋一編著『ポリヴァレント化する農業・農村経済学とその総合化』, 73～90頁, 農林統計出版, 2013年3月)。
- ② 『中国雑豆研究報告: 全国・東北篇 (東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点研究シリーズ No. 12)』(張馨元, 東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点, 2013年, 145頁)。

③「1930年代中国内陸地区的工業化發展—以水泥業為例」（“並木頼寿教授文庫”開幕式暨《東亞論壇：明清以来的中国》學術研討會，於：上海，2012年5月19日，〔『論文集』，70～76頁，復旦大學歷史學系，2012年5月〕）。

多田 狷介

①「西安を訪れた日本人」（『史艸』，53号，38～56頁，日本女子大學史學研究會，2012年11月）。

立川 武蔵

② *Essays in Buddhist Theology*, Motilal Banarsidass, 2012, 174p.

②『アジアの仏教と神々』（法蔵館，2012年，325頁）。

②『ブッダからほとけへ』（岩波書店，2013年，240頁）。

③“The Buddhas of the Kathmandu Valley”, in 2012 Numata Lecture, Center for Buddhist Studies, University of California, Berkeley, 20 Sept. 2012.

田中 明彦

①「『仕切り直し』で東アジア安定を」（『読売クォーターリー』，冬号，50～55頁，読売新聞社，2013年）。

①「世界の中の日本 日本の目指す国際協力」（『J2TOP』，2月号，27～29頁，一般社団法人内外情勢調査会，2013年）。

①「21世紀の世界システムと日本のODA」（『国際問題』，第616号，1～5頁，日本国際問題研究所，2012年11月）。

田仲 一成

①「南戯『荊釵記』劇本修改為崑曲劇本的過程」（『曩晴絲吹來閑庭院（崑曲与非実物文化伝承国際研討会論文集2007）』，74～101頁，広西大学出版社，2012年9月）。

①「清代会館戯劇考—其組織，功能与変遷」（『中華芸術論叢』，第11輯，262～300頁，復旦大学出版社，2012年7月）。

①「五營軍将考—閩南族群祭祀の徴表」（『閩南文化国際学術研討会論文集』，1～15頁，国立成功大学閩南文化研究中心，2012年11月）。

②『古典南戯研究—郷村，宗族，市場之中的劇本変異』（〈吳真（校）〉，中国社会科学出版社，2012年，280頁）。

③「中国の族譜と同族結合の実態」（（財）東洋文庫2012年度秋期東洋学

講座—東洋文庫と本の世界Ⅱ，於：(財) 東洋文庫，2012年12月3日，[『東洋学報』，第94巻第4号，68～70頁，(財) 東洋文庫，2013年3月]。

田中 仁

- ①「關於三大報紙的《抗戰建国紀念日》社論的話語分析」(李愛華訳・田中仁・江沛・許育銘主編『現代中国變動与東亜新格局 (第一輯)』，233～246頁，社会科学文献出版社，2012年8月)。
- ①「日中關係の転機と歴史叙述：革命の語り，戦争の記憶」(大阪大学中国文化フォーラム編『現代中国に関する13の問い：中国地域研究講義 (OUFCブックレット・第1巻)』，64～84頁，大阪大学中国文化フォーラム，2013年3月)。
- ①「20世紀中国政治と“革命”」(浅野亮・川井悟編著『概説・近現代中国政治史』，297～325頁，ミネルヴァ書房，2012年7月)。
- ②『現代中国に関する13の問い：中国地域研究講義 (OUFCブックレット・第1巻)』(〈大阪大学中国文化フォーラム〉，大阪大学中国文化フォーラム，2013年，306頁)。
- ②『現代中国變動与東亜新格局 (第一輯)』(〈江沛・許育銘〉，社会科学文献出版社，2012年，575頁)。

田中 比呂志

- ①「華北農村訪問調査報告(3)—2011年8月、山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要 (人文社会科学Ⅱ)』，64集，53～60頁，東京学芸大学，2013年1月)。
- ①「華北農村訪問調査報告(4)—2012年8月、山西省P県D村」(〈福士由紀〉，『東京学芸大学紀要 (人文社会科学Ⅱ)』，64集，61～70頁，東京学芸大学，2013年1月)。
- ①「「辛亥百」現象を考える」(『歴史学研究』，892号，26～31頁，歴史学研究会，2012年4月)。
- ③「清末民初の中国における「民族」概念の消長—自国史教科書の言説を中心に」(国際日本文化研究センター第44回国際研究集会「東アジアにおける知的交流—キイ・コンセプトの再検討」，2012年11月15日)。

C. A. ダニエルズ

- ① “Script Without Buddhism: Burmese Influence on the Tày (Shan) Script

of Mäng2 Maaw2 as seen in a Chinese Scroll Painting of 1407”, *International Journal of Asian Studies*, Vol. 9, Part 2, pp. 147-176, Cambridge University Press, July 2012.

田村 晃一

- ①「考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格」（平成22年度～24年度科学研究費補助金 基盤研究（B）研究助成成果報告書〔研究代表者・清水信行〕『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』, 15～24頁, 2013年3月）.
- ①「近時における渤海都城研究の動向と課題」（『青山考古』, 第29号, 107～132頁, 青山考古学会, 2013年3月）.

辻本 裕成

- ①「医家としての惟宗具俊と『医談抄』」（『南山大学日本文化学科論集』, 13号, 1～12頁, 南山大学日本文化学科, 2013年3月）.
- ②『「腹の虫」の研究—日本の心身観をさぐる』（〈長谷川雅雄, ペトロ・クネヒト, 美濃部重克〉, 三弥井書店, 2012年, 479頁+50頁（索引等））.
- ②『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』（〈東洋文庫日本研究班（今西祐一郎, 栃尾武, 柳田征司, 石塚晴通, 上野英二, 大谷俊太, 斎藤真麻理, 深沢真二, 宮崎修多, 和田恭幸）編〉, （財）東洋文庫, 2013年, 259頁）.

土田 哲夫

- ①翻訳「王曉秋『辛亥革命の世界的意義』、郭世佑『辛亥革命と近代民権政治』」（『中央評論』, 279号, 119～130頁, 中央大学出版部, 2012年5月）.
- ①「近代日本の領域形成の歴史からみた尖閣問題」（『人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究コロキウム・愛知大学拠点ワークショップ「日中関係の危険な現状—打開策をどう見出すか？」報告書』, 20～24頁, 81頁, 名古屋：愛知大学国際中国学研究センター, 2012年12月）.
- ③「宋美齡訪美外交成功之背後—心身疾病与蔣家政治」（第4届“近代中外關係史”國際學術討論會, 於：杭州（中国）, 2012年11月9～11日）.

坪井 祐司

- ②『カラムの時代Ⅳ：マレー・ムスリムによる言論空間の形成（CIAS Discussion Paper No. 32）』（〈山本博之〉, 京都大学地域研究統合情報セン



ター, 2013年, 41頁).

③ “Jawi Publications as a Political Arena: Malayan De-colonisation from the Perspective of Islamic Intellectuals”, in International Conference on Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science and Technology, 5-6 Jan. 2013.

寺田 浩明

① 「裁判制度における「基礎付け」と「事例参照」—伝統中国法を手掛かりとして」(『法学論叢』, 第172巻第4・5・6号, 46～79頁, 京都大学法学会, 2013年3月).

② 『権利与冤抑: 寺田浩明中国法史論集』(北京: 清華大学出版社, 2012年, 449頁, [王亜新等訳]).

戸倉 英美

① 「“撥頭”考」(〈葛暁音〉, 『中華文史論叢』, 総第一〇九期, 330～350頁, 上海古籍出版社, 2013年1月).

③ 「『蘭陵王』新考」(東方学会秋季学術大会, 於: 京都, 2012年10日).

③ 「長安の美女は箒に乗って飛ぶ(長安美女騎箒翔)—唐代小説の楽しみ」(東京大学大学院文社会系研究科文化交流会, 於: 東京大学, 2012年12月13日).

③ 「適(たの)しみを書す—中国文学から学んだこと」(東京大学退職教員最終講義, 於: 東京大学, 2013年3月9日).

朽尾 武

③ 「『和漢朗詠集』と『源氏物語』を読み較べる」(成城大学生涯学習支援事業「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ, 於: 成城大学, [(1) 2012年10月13日: 濤標, 蓬生, (2) 2012年10月27日: 松風, (3) 2012年11月10日: 朝顔, 少女, (4) 2012年11月17日: 玉鬘, 初音, (5) 2012年12月1日: 胡蝶, 螢, (6) 2012年12月8日: 篝火, 行幸, 梅枝, 藤裏葉]).

③ 「『和漢朗詠集』を読む—朗詠と『源氏物語』」(成城大学生涯学習支援事業「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ, 於: 成城大学, [(1) 2012年5月26日: 概論, (2) 2012年6月2日: 和漢朗詠集と源氏物語(桐壺, 帚木, 夕顔, 若紫), (3) 2012年6月16日: 和漢朗詠集と源氏物語(賢木, 須磨, 明石), (4) 2012年6月23日: 和漢朗詠集と源氏物語(朝顔,

少女, 藤裏葉), (5) 2012年7月7日:音楽と朗詠, (6) 2012年7月14日:  
竹林の七賢]).

#### 富澤 芳亜

- ①「紡織業史」(久保亨編『中国経済史入門』, 47～60頁, 東京大学出版会, 2012年9月).
- ①書評「城山智子著『大恐慌下の中国—市場・国家・世界経済』」(『史学雑誌』, 第122編第2号, 94～101頁, 2013年2月).
- ①「清末民初における鉱業関連法の整備」(辛亥革命百周年記念論集編集委員会編『総合研究 辛亥革命』, 373～395頁, 岩波書店, 2012年9月).
- ①「戦時期の在華日本紡績同業会理事の回顧—堤孝氏(鐘紡、在華日本紡績同業会)インタビュー」(〈桑原哲也〉, 『近代中国研究彙報』, 第35号, 1～43頁, 2013年3月).

#### 鳥海 靖

- ②『現代の日本史(改訂版)』(〈三谷博, 渡辺昭夫〉, 山川出版社, 2013年, 207頁, [34～137頁]).
- ③「外国人の見た明治初年の日本」(於:朝日カルチャーセンター横浜, 2012年4月～9月).
- ③「東アジアと近代日本」(於:NHK文化センター青山, 2012年9月～10月).
- ③「日露戦争と世界情勢」(於:朝日カルチャーセンター新宿, 2012年4月～2013年3月).
- ③「第二次世界大戦と日本」(於:東急BE, 2012年4～9月).

#### 長沢 栄治

- ①“Historical Dynamism of the Arab Revolution”, Hitoshi Suzuki ed., *The Middle East Turmoil and Japanese Response: For a Sustainable Regional Peacekeeping System*, pp. 104-122, Institute of Developing Economies, Mar. 2013.
- ①「アラブ革命の構想力—グローバル化と社会運動」(『歴史学研究』, No. 898(増刊号), 12～20頁, 歴史学研究会, 2012年10月).
- ①「門戸開放期エジプトの国家と社会」(柳沢悠・栗田禎子編著『持続可能な福祉社会へ:公共性の視座から(第4巻 アジア・中東)』, 239～268頁, 勁草書房, 2012年7月).
- ①“Comparing Two Egyptian Revolutions: 1952 vs. 2011”, *Mediterranean World*,

XXI, pp. 267-281, The Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University, May 2012.

②『エジプトの自画像 ナイルの思想と地域研究（東洋文化研究所叢刊第27輯）』（平凡社，2013年，349頁）。

永田 雄三

①「知の先達に聞く（6）永田雄三先生をお迎えして—わたしのトルコ研究を振り返って」（『イスラーム世界研究』，6，195～230頁，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター，2013年3月）。

① “Local Gentry in Mid-19th Century Turkey: The Case of the Karaosmanoğlu Family of Manisa”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, Vol. 70, pp. 47-77, The Toyo Bunko, 2012.

②『トルコを知るための53章』（大村幸弘，内藤正典，明石書店，2012年，364頁）。

中谷 英明

①「新しい人文知のあり方をめぐって— Maison des sciences de l’homme との「総合人間学」共同研究（2005-2011）」（『日仏東洋学会通信』，34-36，24～28頁，日仏東洋学会，2013年3月）。

長縄 宣博

①「総力戦のなかのムスリム社会と公共圏：20世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域を中心に」（塩川仲明・小松久男・沼野充義・松井康浩編『ユーラシア世界4 公共圏と親密圏』，71～96頁，東京大学出版会，2012年9月）。

③ “Drawing Russia as a Muslim Power? The Hajj from Tatarstan and Daghestan in the Post-Soviet Era”, in 2012 Summer International Symposium of the Slavic Research Center, Hokkaido University, 5 July 2012.

③ “Toward a Seaborne Empire? Bolsheviks in the Arabian Peninsula, 1924-1938”, in the 44th Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, New Orleans Marriott, 16 Nov. 2012.

中見 立夫

①「バボージャブの軌跡—“モンゴル独立”をめざし挫折した、ある内

モンゴル人の実像」(『東洋史研究』, 71-2, 92 ~ 125 頁, 東洋史研究会, 2012 年 9 月).

① “Үндэстэн улсаа байгуулахыг зорьсон нь: Монголын тусгаар тогтнолын 1911 оны тунхаглал”, *С. Чулуун эмхэтгэсэн Монголын тусгаар тогтнол ба Монголчууд/ Mongolian Sovereignty and the Mongols*, 11-24-р тал., Улаанбаатар: Монгол Улсын Шинжлэх Ухааны Академийн Түүхийн хүрээлэн, 2012.

② 『内国史院檔 天聰五年 II』(〈(財)東洋文庫東北アジア研究班編:松村潤, 柳澤明ほか〉), 153 ~ 614 頁, (財)東洋文庫, 2013 年, [訳註]).

③ 『「満蒙問題」の歴史的構図』(東京大学出版会, 2013 年, xv + 279 + 9 頁).

③ “Бабуджап и его блуждающая армия: Декларация независимости, Первая мировая война и советская гражданская война во Внутренней Монголии, 1911-1921.”, Международной научной конференции «Мир Центральной Азии», Улан-удэ: Институт Монголоведения, Буддологии и Тибетологии СО РАН, 19 Sept. 2012.

#### 中村 元哉

① 「直接保障主義与中華民国憲法—以張知本的憲法論為中心」(『憲政与行政法治評論』, 第 6 号, 375 ~ 392 頁, 中国人民大学, 2012 年 4 月).

③ “Reconsidering the Political System of the People’s Republic of China by Studying the Structure of the Constitution of the Republic of China (1947)”, in *The EACS (European Association for Chinese Studies) XIXth Conference*, University Paris Diderot, 7 Sept. 2012.

#### 新村 容子

① 書評「山本英史編『近世の海域世界と地方統治』」(『社会経済史学』, 78 卷 3 号, 145 ~ 146 頁, 社会経済史学会, 2012 年 12 月).

① “Nora, Seitō, XīnQīngnián”, *EBISU: Études japonaise*, 48, pp. 59-82, MAISON FRANCO-JAPONAISE, 2012.

① “Introduction”, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 4, pp. 1-14, The Toyo Bunko, 2013.

① 「アヘン戦争前夜における清朝中央の政策決定過程」(『岡山大学文学部紀要』, 57 号, 39 ~ 60 頁, 岡山大学文学部, 2012 年 7 月).

延廣 眞治

- ① 『塩原太助伝』から『塩原多助一代記へ』（『文学』、2月14日、97～109頁、岩波書店、2013年3月）。

林 俊雄

- ① “Transition of the Stone Statues among the Turks from Early to Modern Times”, *Srednevekoaya gorodskaya kul'tura i kochevaya tsivilizatsiya basseina Reki Ural*, pp. 341-369, Zapadno-Kazakhstanskii oblastnoi tsentr istorii i arkheologii, Ural'sk, Sept. 2012.
- ③ “Xiongnu (Hun) Style Ornaments Found Near Turfan”, in First International Congress of Eurasian Turkish Arts, 於：ミーマール・シナン美術大学（イスタンブール）、21 Nov. 2012.
- ③ “Newly Found Horse Ornaments of the Great Migration Period in the Altai Republic”, (2012 Prairie Silk Road and Prospects of the Trans-Altay Region's International Economic Cooperation in Urumqi, Xinjiang Uyghur Region (阿勒泰地区行署・新疆師範大学と新疆財經大学との共催)、於：ウルムチとアルタイ市、2012年8月5日）。
- ③ 「匈奴～突厥における集落・城塞の研究」（科研「最新の考古調査および礼制研究の成果を用いた中国古代都城史の新研究」講演会、於：東京大学（本郷）、2012年6月23日）。
- ③ “Western Griffin and Eastern Dragon Found in Central Asia”, (中国社会科学院考古研究所・新疆ウイグル自治区文物局主催、於：ウルムチ、2012年10月15日）。

原山 隆広

- ① 「喫茶店アフワ」（鈴木恵美編著『現代エジプトを知るための60章』、288～289頁、明石書店、2012年8月）。

平勢 隆郎

- ① 「関野貞の「支那歴代帝陵の研究」を支えた人々」（〈塩沢裕仁〉、『法政史学』、79、2013年3月）。
- ① 「春秋戦国時代—「原中国」の時代」（『NHK スペシャル中国文明の謎』、NHK出版、2012年10月）。
- ① 「中華思想の出現」（『中華文明の誕生』、講談社、2012年12月）。

②『関野貞大陸調査と現在』（塩沢裕仁），東京大学東洋文化研究所，2012年）。

③“Form of the Hanshu and Its Editor Banggu”, in International Workshop “Ban Gu and his Han shu”, Center for Advanced Studies, Ludwig-Maximilians-University, Munich 13, 15 July 2012.

深沢 眞二

①「和漢聯句の版本二件」（『江戸の漢文脈文化』，263～284頁，竹林舎，2012年4月）。

②『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』（（財）東洋文庫日本研究班），（財）東洋文庫，2013年，259頁）。

藤井 昇三

①「辛亥革命期の孫文と日本—『東北租借』問題を中心に」（大里浩秋・李廷江編『辛亥革命とアジア—神奈川大学での辛亥100年シンポ報告集』，466～480頁，お茶の水書房，2013年3月）。

藤田 忠

③「東洋史史学について」（国士舘大学東洋史講演会，2012年11月30日）。

古田 和子

①「市場秩序と広域の経済秩序」（久保亨編『中国经济史入門』，37～46頁，東京大学出版会，2012年9月）。

② *Governing the Quality of Goods in Modern Asia: Information, Trust-building and the Self-enforcement Mechanism of the Market*, 2013, 136p.

②『中国の市場秩序—17世紀から20世紀前半を中心に』（慶應義塾大学出版会，2013年，276頁）。

③“Asymmetry of Information, Trust-building and Market Quality: Governing the Quality of Goods in Modern Asia”, in The XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University, South Africa, July 2012.

弁納 才一

①「民国期中国における農産物生産の概要」（『金沢大学経済論集』，第33巻第2号，75～101頁，2013年）。

- ①「近現代中国農村経済史分析の新たな枠組みと発展モデルの提示」(『金沢大学経済論集』, 第33巻第2号, 103～120頁, 2013年).
- ①「農村経済史」(久保亨編『中国経済史入門』, 97～111頁, 東京大学出版会, 2012年).
- ①「華北農村訪問調査報告(7): 2012年8月、山西省の農村」(『金沢大学経済論集』, 第33巻第1号, 289～307頁, 2012年).

寶劍 久俊

- ①「原料用ブドウの調達と契約に関する一考察—中国山西省を事例に」(〈仙田徹志, 郭晋萍〉, 『日本ブドウ・ワイン学会誌』, 第23巻第1号, 25～33頁, 日本ブドウ・ワイン学会, 2012年).
- ①「農地流動化と農業経営の変容—浙江省奉化市の事例を中心に」(〈蘇群〉, 南亮進・牧野文夫・郝仁平編『中国経済の転換点』, 136～158頁, 東洋経済新報社, 2013年).
- ③「天候不順による農業生産ショックと農家の対処メカニズム」(アジア政経学会2012年度全国大会, 於: 関西学院大学, 2012年10月14日, [『アジア政経学会2012年度全国大会要旨集』, 54頁, アジア政経学会, 2012年]).
- ③「農民専業合作社による農業経営の変容—農家調査に基づく実証」(中国経済学会第11回全国大会, 於: 創価大学, 2012年6月24日, [『中国経済学会第11回全国大会報告要旨』, 62～66頁, 中国経済学会, 2012年]).

星 泉

- ①「中世チベット文語の文のタイプ」(『チベット=ビルマ系言語の文法現象2 述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類』, 321～345頁, アジア・アフリカ言語文化研究所, 2013年3月).
- ①「チベット語ラサ方言の文のタイプ」(『チベット=ビルマ系言語の文法現象2 述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類』, 455～476頁, アジア・アフリカ言語文化研究所, 2013年3月).
- ①“The Flow of Eastern Tibetan Colloquial into Middle Tibetan”, *Historical Development of the Tibetan Languages (Proceedings of the Workshop B of the 17th Himalayan Languages Symposium)*, Vol. 49, pp. 71-83, Kobe City University of Foreign Studies, Mar. 2013.
- ②翻訳『チベット現代文学の曙 ここにも激しく躍動する生きた心臓がある』(勉強出版, 2012年, 480頁, [原書: トンドゥブジャ著, チベット文

学研究会編訳]).

③ “Old Tibetan Documents Online: A Collaborative Editing Project”, (Kuninori Matsuda), in JADH 2012 Conference, Sept. 2012.

細谷 良夫

① 「満漢合璧『雅州印』について」(『満族史研究』, 11号, 1～4頁, 満族史研究会, 2012年12月).

① 「長江上流・大渡河流域の旅—瀘定橋・打箭爐・雅州」(『アジア流域文化研究』, 56～76頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2013年3月).

① 「新疆ウイグル自治区に残る身代遺跡の探訪」(『アジア流域文化研究』, VIII, 41～70頁, 東北学院大学アジア流域研究所, 2012年3月).

堀川 徹

① 「イスラームの展開(中央アジア)」(『世界宗教百科事典』, 638～639頁, 丸善出版, 2012年12月).

③ 「中央アジア史研究のパースペクティヴ—イスラーム化と近代化」(第11回中央アジアの法制度研究会, 於: 京都外国語大学, 2012年6月23日).

③ 「モンゴルの襲来とサマルカンドの復興」(京都外国語大学大学院公開講座「異文化圏における“復興”を読み解く」, 於: 京都外国語大学, 2012年11月23日).

本庄 比佐子

② 『現代日中関係史年表: 1950-1978』(〈現代日中関係史年表編集委員会〉, 岩波書店, 2013年, 862頁).

松井 太

① “A Sogdian-Uigur Bilingual Fragment from the Arat Collection” (〈新疆吐魯番学研究院〉, 『語言背後の歴史: 西域古典語言語学高踏論壇論文集』, 115～127頁, 上海古籍出版社, 2012年9月).

① 「契丹とウイグルの関係」(〈荒川慎太郎, 澤本光弘, 高井康典行, 渡辺健哉〉, 『契丹[遼]と10～12世紀の東部ユーラシア(アジア遊学160)』, 56～69頁, 勉誠出版, 2013年1月).

① “Uighur Scribble Attached to a Tangut Buddhist Fragment from Dunhuang”, (Rossiskaja Akademija Nauk Institut Vostochnoykh Rukopisej), *Tanguty v*



*Czentral'noj Azii: Sbornik statej v chest' 80-letija professora E. I. Kychanova*, pp. 238-243, Izdatel'skaja Firma, June 2012.

① “Uighur Almanac Divination Fragments from Dunhuang”, (Irina Popova & Liu Yi), *Dunhuang Studies: Prospects and Problems for the Coming Second Century of Research*, pp. 154-166, Slavia Publishers, Aug. 2012.

③ “Old Uigur Inscriptions in the Mogao and Yulin Caves” (西域・中亜語文学国際学術研討会, 於: 中央民族大学, 2012年11月24日).

松重 充浩

② 『二〇世紀満洲歴史事典』(〈貴志俊彦, 松村史紀〉, 吉川弘文館, 2012年, 722 (+ 17 + 90) 頁).

② 『蔣介石研究: 政治・戦争・日本』(〈山田辰雄〉, 東方書店, 2013年, 564 頁).

松永 泰行

① 「イランにおける抗議運動—政治空間の変容と公的主張」(酒井啓子編著『中東政治学』, 127 ~ 140 頁, 有斐閣, 2012年9月, [第8章]).

松本 弘

① 「イエメンの民主化と部族社会—変化の中の伝統」(酒井啓子編『中東政治学』, 67 ~ 80 頁, 有斐閣, 2012年9月).

丸川 知雄

① 「グローバリズムと地域研究—日本資本主義論争の教訓」(『アジア経済』, Vol. 53, No. 4, 34 ~ 48 頁, アジア経済研究所, 2012年).

① “Bilateral Trade and Trade Frictions between China and Japan, 1972-2012”, *Eurasian Geography and Economics*, Vol. 53, No. 4, pp. 442-456, 2012.

① “The Compressed Development of China’s Photovoltaic Industry and the Rise of Suntech Power”, *RIETI Discussion Paper Series*, 12-E-051, pp. 1-24, Research Institute of Economy, Trade & Industry, 2012.

① 「長江デルタの産地型産業集積と機械産業集積—地図と解題」(加藤弘之編『中国長江デルタの都市化と産業集積』, 196 ~ 211 頁, 勁草書房, 2012年).

② 『日中関係史 1972-2012 II 経済』(〈服部健治〉, 東京大学出版会, 2012年, 346 頁).

三浦 徹

- ① 「サーリヒーヤ物語：ダマスクスのある街区から」(『イスラーム地域研究ジャーナル』, 第5号, 3～18頁, 2013年3月).
- ① “The Middle East in Studying and Teaching World History in Japan”, *Annals of Japan Association for Middle East Studies*, 28-2, pp. 173-197, 2012.
- ③ “Agricultural Properties of Waqf and Milk Ownership in Damascus Province from the Mamluk into the Ottoman Period: Preliminary Survey Using the Waqf Survey Registers and the Land Survey Registers of the Sixteenth Century”, in the 9th International Conference on the History of Bilād al-Shām: Agriculture in Bilād al-Shām from the Late Byzantine Times to the End of the Ottoman Period, University of Jordan, Amman, Jordan, 1-5 Apr. 2002.
- ③ “Waqf Activity of Grass-Roots Level in 16th Century Damascus”, in the 46th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America, Denver, Colorado, USA, 17-20 Nov. 2012.

水野 善文

- ① 「『ハンサ・ドゥータ』 解題」(『東方』, 第28号, 257～268頁, (公財) 中村元東方研究所, 2013年3月).
- ① “How Should We Describe the South Asian History of Literary Culture?: Dialogue with the Essays Collected in *Literary Culture in History: Reconstructions from South Asia*, edited by Sheldon Pollock”, *International Journal of South Asian Studies*, Vol. 5, pp. 43-45, 71-72, The Japanese Association for South Asian Studies, 2013.

三田 昌彦

- ① 「コスモポリタン文化と地域文化—政治=文化史的視角からの世界史」(『歴史評論』, 746, 35～39頁, 2012年).
- ① “Book Review: Noboru Karashima, *South Indian Society in Transition: Ancient to Medieval*”, *International Journal of South Asian Studies*, Vol. 5, pp. 153-158, 2013.
- ① 「南アジア世界の歴史」(〈海津正倫, 立川武蔵, 杉本良男〉, 『朝倉世界地理講座第4巻 南アジア』, 32～49頁, 2012年).
- ① 「中世ユーラシア世界の中の南アジア—地政学的構造から見た帝国と交易ネットワーク」(『現代インド研究』, 3, 27～48頁, 2013年).

③「10-12世紀インドの地域王権とチャクラヴァルティン」(名古屋歴史科学研究会大会, 於:名古屋大学, 2012年6月2日)。

宮脇 淳子

①東洋史エッセイ「コサックはロシア人?」「満洲の語源は「文殊」という俗説」「北京の胡同はモンゴル語」「韓流ドラマ並みの“騎馬民族王朝”説」「ロシア人が珍重した大黃(ルーバーブ)」「フィンランドの初代駐日公使はアルタイ学者」(『歴史通』, 5月号, 136～137頁;7月号, 172～173頁;9月号, 132～133頁;11月号, 148～149頁;1月号, 142～143頁;3月号, 148～149頁, ワック出版, 2012年4月;2012年6月;2012年8月;2012年10月;2012年12月;2013年2月)。

①「[「日・中・米関係」の常識を問う]」(『環』, 52, 62～86頁, 藤原書店, 2013年1月, [倉山満との対談])。

①“The Manchu Empire in World History: A New Approach”, *Man and Nature in the Altaic World, Proceedings of the 49th Permanent International Altaistic Conference, Berlin, July30-August 4, 2006*, pp. 240-248, Berlin: Klaus Schwarzverlag, 2012.

①「モンゴル史上の遊牧民と農耕民の相互関係」(大沼克彦編『ユーラシア乾燥地域の農耕民と牧畜民』, 51～64頁, 六一書房, 2013年3月)。

②『中国美女の正体』(く福島香織), フォレスト出版, 2012年, 244頁)。

村上 衛

①“The Opium Trade and the Transformation of the Maritime Trade System in Pre-Opium War China: A Reexamination”, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 4, pp. 31-57, The Toyo Bunko, 2013.

①““Traitors” and the Qing Government Policies Directed at the Coastal Residents of Fujian and Guangdong at the Time of the Opium War”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, Vol. 70, pp. 23-46, The Toyo Bunko, 2013.

②『海の近代中国—福建人の活動とイギリス・清朝』(名古屋大学出版会, 2013年, 688頁)。

③「晩清時期廈門英籍華人的經濟活動」(第4届国際漢学会議, 於:中央研究院台湾史研究所, 2012年6月21日)。

③“Trade and Concession: Opium Trade in Canton before the Opium War”, in

16th World Economic History Congress, Stellenbosch University, South Africa,  
11 July 2012.

村田 雄二郎

- ① 「從張謇的立憲運動看晚清中国人的日本觀」(吳偉明編『在日本尋找中國：現代性及身份認同的中日互動』, 265 ~ 280 頁, 香港中文大学出版社, 2012 年 12 月).
- ① 「歴史から見る現代中国の問題」(中国研究所編『中国年鑑』2012 年版, 67 ~ 72 頁, 毎日新聞社, 2012 年 5 月).
- ① “The Regional Structure of the 1911 Revolution: The North and the South in Chinese History”, *Journal of Cultural Interaction in East Asia*, Vol. 3, pp. 7-18, Society for Cultural Interaction in East Asia, 2012.
- ① 「グローバルヒストリーの中の辛亥革命」(辛亥革命百周年記念論集編集委員会編『総合研究 辛亥革命』, 1 ~ 18 頁, 岩波書店, 2012 年 9 月, [序章]).
- ① 「中国ナショナリズムにとってのモンゴル」(ボルジギン・フスレ, 今西淳子編『20 世紀におけるモンゴル諸族の歴史と文化—2011 年ウランバートル国際シンポジウム』, 103 ~ 109 頁, 風響社, 2012 年 3 月).

本野 英一

- ① 「中国商標法(一九二三)施行前後の外国企業商標保護体制—中日・中英商標権侵害紛争を中心に」(『東洋史研究』, 第 71 卷第 4 号, 64 ~ 94 頁, 東洋史研究会, 2013 年 3 月).
- ① 「清末民初期の市場システム 1870 ~ 1919 年—在華外国商人の役割を中心とした一考察」(古田和子編『中国の市場秩序: 17 世紀から 20 世紀前半を中心』, 203 ~ 225 頁, 慶應義塾大学出版会, 2013 年 2 月).
- ① “The Nationalist Government’s Failure to Establish a Trademark Protection System, 1927-1931”, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 4, pp. 59-89, The Toyo Bunko, 2013.

初山 明

- ① 「日本居延漢簡研究的回顧与展望—以古文書学的研究為中心」(『甘肅省第二屆簡牘学國際學術研討會論文集』, 67 ~ 73 頁, 上海古籍出版社, 2012 年 12 月).
- ① 「長沙東牌樓出土簡牘と後漢時代の訴訟」(『中国古中世史研究』, 29,

97～121頁，韓国：中国古中世史学会，2013年2月）。

①「宮宅潔著『中国古代刑制史の研究』」（『史学雑誌』，第121編第6号，99～106頁，史学会，2012年6月）。

③「東漢後半期の訴訟と社会—長沙東牌楼出土1001号木牘を中心に」（中国古中世史学会第七回国際學術研討会，於：成均館大学校（ソウル），2012年9月22日）。

③「漢代結俚習俗考」（第四届国際漢学会議，於：中央研究院（台北），2012年6月21日）。

守川 知子

①“Pilgrimage to the Iraqi ‘Atabat from Qajar era Iran”, Pedram Khosronejad ed., *Saints and their Pilgrims in Iran and Neighbouring Countries*, pp. 41-60, Sean Kingston Publishing, June 2012.

①「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥースイー著『被造物の驚異と万物の珍奇(6)』」（〈ペルシア語百科全書研究会訳注〉、『イスラーム世界研究』，第6巻，549～570頁，京都大学イスラーム地域研究センター，2013年3月，〔監訳〕）。

③“Memory Places and Funerals in the Shi’ite Society”, in *Mythes, rites et emotions: les funérailles le long de la route de la soie (Myths, Rites and Funerals: Dead along the Silk Road)*, Université Paris 7 Denis Diderot, Amphithéâtre Buffon, Paris, 8 Mar. 2013.

③「シリア派政権サファヴィー朝と改宗問題—あるアルメニア人シリア派ムスリムの軌跡」（パネル・セッション「サファヴィー朝の200年：変化とダイナミズム」，日本オリエント学会第54回大会，於：東海大学湘南キャンパス，2012年11月25日）。

森平 雅彦

①「朝鮮後期における漢江舟運の運航実例から：「朝鮮半島の水環境とヒトの暮らし」に関する予備的考察（1）」（『史淵』，第150輯，1～53頁，九州大学大学院人文科学研究院，2013年3月）。

②『東アジア海域に漕ぎ出す1 海から見た歴史』（〈羽田正，杉山清彦，中島楽章，藤田明良ほか〉，東京大学出版会，2013年，289頁）。

③「朝鮮人と川魚：朝鮮時代を中心に」（韓国・朝鮮文化研究会第43回研究例会・ミニシンポジウム《漢江を考える：朝鮮半島における「水環境」

史構築をめざして》、於：東京大学、2013年2月2日）。

③「甲戌・辛巳の役後における高麗の対日警戒体制とその拠点」（九州史学会シンポジウム《戦跡からみたモンゴル襲来：東アジアから鷹島へ》、於：九州大学、2012年12月8日）。

③「중근세 한반도의 국제 교통로 탐방기（中近世朝鮮半島の国際交通路探訪記）」（高麗大学校BK21 韓国史学教育研究団2012年海外碩学招聘講演、於：高麗大学校（韓国）、2012年9月19日）。

柳田 征司

②『日本語の歴史3 中世口語資料を読む』（武蔵野書院、2012年、207頁）。

柳谷 あゆみ

①「政権形成におけるヒドゥマの成立・解消・維持—ザンギー朝の事例を中心に」（『史学』、81-4、43～65頁、三田史学会、2013年）。

①「イブン・ハルドゥーン自伝5」（〈茂木明石、中村妙子、阿久津正幸（共訳註）、佐藤健太郎（註）〉、『イスラーム地域研究ジャーナル』、5、77～102頁、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2013年）。

③「史料の補綴—イブン・アルアスィール『アターベク史』再考」（初期史研究会、於：早稲田大学120-1号館201、2013年3月16日）。

矢吹 晋

①「日米安保条約は尖閣諸島を守る安全保障とはなりえない」（21世紀中国総研編『中国情報源』、2013-2014年版、140～160頁、蒼蒼社、2013年3月）。

①「薄熙来スキャンダル—薄熙来事件の真相底流を斬り裂く」（21世紀中国総研編『中国情報ハンドブック』、2012年版、22～63頁、蒼蒼社、2012年7月）。

②『一目でわかる中国経済地図（第二版）』（蒼蒼社、2012年、261頁）。

②『チャイメリカ—米中結託と日本の進路』（花伝社、2012年、293+12頁）。

②『尖閣問題の核心—一日中関係はどうなる』（花伝社、2013年、260+64頁）。

山口 瑞鳳

①「仏説「不存在の存在」を学ぶ」（『紀要』、36、25～56頁、成田山仏教研究所、2013年2月）。

山本 英史

- ①「中国の素顔を見極めた書—内山完造の世界」(アジア遊学編集部『アジアの〈教養〉を考える—学問のためのハンドブックガイド』, 168～172頁, 勉誠出版, 2012年5月).
- ①「健訟的認識と実態—以清初江西吉安府為例」(中国政法大学法律史学研究院編『日本学者中国法論著選訳』下冊, 576～601頁, 中国政法大学出版社, 2012年7月).
- ①書評「中国の風俗と時代観から世界史を語る書: 岸本美緒著『風俗と時代観 明清史論集Ⅰ』」(『東方』, 382号, 22～26頁, 東方通信社, 2012年11月).
- ②『中国歴代王朝と英雄たち』(株式会社綜合図書, 2013年, 120頁, [監修]).

湯浅 剛

- ①「『市民的自由の群島』ロシア: 西側からの価値をめぐる作用と連携を題材に」(『国際政治』, 171, 100～113頁, 日本国際政治学会, 2013年1月).
- ①書評「仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済: 旧ソ連・中東欧の比較』」(『比較経済研究』, 49-2, 55～58頁, 比較経済体制学会, 2012年6月).
- ①「中央アジアにおける国際関係の誕生」(塩川伸明・小松久男・沼野充義編『ユーラシア世界5 国家と国際関係』, 東京大学出版会, 2012年9月, [第5章]).
- ③「中央アジア諸国の統治とリーダーシップ」(ロシア・東欧学会2012年度研究大会共通論題, 於: 同志社大学, 2012年10月7日).

吉澤 誠一郎

- ①「五四運動から読み解く現代中国—ラナ・ミッター『五四運動の残響』を手がかりに」(『思想』, 1061号, 147～159頁, 岩波書店, 2012年9月).
- ①「近代中国におけるアジア主義の諸相」(松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのか—記憶・権力・価値』, 294～314頁, ミネルヴァ書房, 2013年3月).
- ①「ネメシス号の世界史」(『パブリック・ヒストリー』, 10号, 1～13頁, 大阪大学, 2013年3月).
- ②『近代中国研究入門』(〈岡本隆司〉, 東京大学出版会, 2012年, 265+39頁).

②『歴史からみる中国』（放送大学教育振興会，2013年，252頁）。

吉田 豊

①「マニの降誕図について」（『大和文華』，124号，1～10頁，大和文華館，2012年5月）。

① “New Turco-Sogdian Documents and Their Socio-Linguistic Backgrounds”, Academia Turfanica ed., *The History behind the Languages: Essays of Turfan Forum on Old Languages of the Silk Road*, pp. 48-60, Shanghai, 2012.

① Bookreview “N. Sims-Williams, *Bactrian Documents from Northern Afghanistan I: Legal and Economic Documents* (revised edition), London, 2012, 171 pp.; N. Sims-Williams, *Bactrian Documents from Northern Afghanistan III: Plates*, London, 2012, 38 pp. + 230 plates”, *Bulletin of School of Oriental and African Studies*, 76, pp. 156-159, 2013.

① “Heroes of the Shahnama in a Turfan Sogdian Text: A Sogdian Fragment Found in the Lushun Otani Collection”, P. Lurje ed., *Sogdians, Their Precursors, Contemporaries and Heirs*, Volume in the Memory of Boris Il'ich Marshak (1933-2006), Transactions of the State Hermitage Museum LXII, pp. 201-218, St. Petersburg, 2013.

① “When Did Sogdians Begin to Write Vertically?”, *Tokyo University Linguistic Papers: Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto*, 31, pp. 375-394, Tokyo, 2013.

吉水 千鶴子

① “Report: Symposium on “Cross-Cultural Transmission of Buddhist Texts: Theories and Practices of Translation” (July 23-25, 2012, University of Hamburg)”, *Mahāpīṭaka, News Letter New Series*, 18, pp. 6-7, Society for the Promotion of Buddhism, Jan. 2013.

①「チベットの中観思想」（〈斎藤明ほか〉，『シリーズ 大乘仏教6 空と中観』，169～196頁，春秋社，2012年11月）。

② *Zhang Thang sag pa 'Byung gnas ye shes, dBu ma tshig gsal gyi ti ka, Part I*, 〈Nemoto Hiroshi〉, *Studies in Tibetan Religious and Historical Texts*, vol. 1, *Studia Tibetica*, 46, The Toyo Bunko, 2013.

③ “How Did Tibetans Learn a New Text from its Translators and Comment on It? The Case of Zhang Thang sag pa (12th Century)”, in *Symposium on Cross-*



Cultural Transmission of Buddhist Texts: Theories and Practices of Translation,  
University of Hamburg, 24 July 2012.

六反田 豊

- ①書評「李廷喆著『大同法、朝鮮最高の改革：民は食を以て天となす』」（『韓国朝鮮の文化と社会』, 11, 149～163頁, 韓国・朝鮮文化研究会, 2012年10月）.
- ②『寺内正毅ゆかりの図書館 桜圃寺内文庫の研究』（〈伊藤幸司〉, 勉誠出版, 2013年, 556頁）.
- ②『漢江流域「水環境」関連史跡等踏査資料集（稿）』（私家版, 2013年, 220頁）.
- ③「桜圃寺内文庫所在朝鮮古文書の概要と特徴」（平成24年度九州史学会大会朝鮮学部会シンポジウム「日本伝存の朝鮮文化財をめぐる研究の現在位置」, 於：九州大学箱崎文系キャンパス, 2012年12月9日, [『平成24年度九州史学会大会シンポジウム・研究発表要旨』, 30頁, 九州史学会, 2012年12月]）.
- ③「朝鮮前近代史研究と「海」」（朝鮮史研究会第49回大会, 於：早稲田大学戸山キャンパス, 2012年10月20日, [『朝鮮史研究会会報』, 189, 1～2頁, 朝鮮史研究会会報, 2012年9月]）.

## IV. 普及・展示事業

### 1. 展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

#### A. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし（中学生程度の歴史知識を前提）、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

#### B. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

#### C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

#### D. 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

- (1) 常設展は国宝と浮世絵を中心に構成されており、保存と集客の観点から、毎月初めに展示資料の入れ替えを行った。
- (2) 企画展は一年に3回の頻度で行っている。本年度は以下の企画展を実施した。
  - ① 「東インド会社とアジアの海賊」(2012年3月7日～2012年6月24日)
  - ② 「ア!教科書で見たゾ」(2012年7月4日～2012年11月4日)
  - ③ 「もっと北の国からー北方アジア探検史」(2012年11月14日～2013年3月10日)
  - ④ 「マリー・アントワネットと東洋の貴婦人ーキリスト教文化をつうじた東西の出会い」(2013年3月20日～2013年7月28日)
- (3) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なもの・わかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
- (4) 上記企画展会期中に公開講座(企画展示記念講座)を開催した。
  - ① 「東インド会社とアジアの海賊」展記念シンポジウムを日仏会館にて開催(2012年4月14日)。
  - ② 同展記念講演会を講演室にて開催(2012年5月19日)。
  - ③ 「ア!教科書で見たゾ」展記念シンポジウムを講演室にて開催(2012年8月18日)。
  - ④ 同展記念講演会を講演室にて開催(2012年8月26日)。
  - ⑤ 「もっと北の国からー北方アジア探検史」展記念講演会を開催(2013年1月26日・27日、2月10日、2月16日・17日、2月23日・24日)講演者と演題はp.70-73を参照。

## E. 文庫員ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、文庫長・学芸員による館内ガイドツアーを実施し、好評を得た(開館期間は毎日15時に開催している)。

## F. 学校連携

12月5日、東京藝術大学と協力協定を締結した。記念コンサートをミュージアム内にて開催し、多数の来場者を得た。

## G. 熊本県・和歌山県連携

江戸時代の大藩、肥後熊本藩、紀州和歌山藩において藩政改革を実施し、その名を諸国にとどろかせた細川重賢、徳川治貞の二人の名君の足跡をたどるべく、熊本県、和歌山県との共催でリレーフォーラム「紀州の麒麟と肥後の鳳凰」を連続3回開催した。各回の講演者、演題は以下のとおり。

第1回（9月8日）磯田道史（静岡文化芸術大学准教授）「18世紀に『藩の近代啓蒙』はあったか」

第2回（9月29日）磯田道史（静岡文化芸術大学准教授）「熊本藩に生まれた『近代性』とは」

吉村豊雄（熊本大学教授）「藩主細川重賢の名君像をめぐって」

第3回（10月13日）寺西貞弘（和歌山市立博物館館長）「紀州の麒麟—徳川治貞の生涯—」

## H. 美術館連携

永青文庫および静嘉堂文庫との3館連携によるスタンプカード「文庫部（ふみくらぶ）カード」を導入した。3館の間での入場者増の相乗効果および知名度の向上を目的としている。

### 1. 入場者数

2012年4月～2013年3月における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入場者数	2,229人	2,303人	3,083人	1,607人	1,479人	1,874人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2,416人	1,667人	1,130人	804人	1,118人	1,384人	21,094人

### 2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への

普及を目指し、学校連携活動も行った。

### A. 報道実績

ミュージアムに関する報道実績の主なものを以下に挙げる（50音順）。

新聞：全国紙『朝日新聞』、『読売新聞』、『日本経済新聞』など

雑誌：『マンスリー三菱』、『歴史読本』など

テレビ：NHK「日曜美術館」、シアターテレビジョン「出光佐千子の美術館便り」、BSジャパン「一柳良雄が問う日本の未来」

ラジオ：ラジオ日本「ラジオ喫茶八代」

BS-TBS「マークエステルが巡る日本神話の旅」、放送大学「歴史からみる中国（13）」など

### B. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

### C. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信している。

## V 業 務 報 告

### 1. 総務報告

#### A. 会議事項

##### (1) 理事会

第 346 回 開催日 2012 年 6 月 6 日 (水)  
出席者 槇原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、  
濱下武志、平野健一郎、福澤 武、西村敏行、原 實

第 347 回 開催日 2013 年 2 月 14 日 (木)  
出席者 槇原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、  
中根千枝、濱下武志、平野健一郎、西村敏行、原 實

##### (2) 評議員会

第 167 回 開催日 2012 年 6 月 6 日 (水)  
出席者 梅村 坦、岸本美緒、草原克豪、久保正彰、東條和彦、  
瀬谷博道、増田信行  
委任状 荒蒔康一郎、有馬朗人、大崎 仁、後藤 明、長尾真、  
間野英二

第 168 回 開催日 2013 年 2 月 14 日 (木)  
出席者 荒蒔康一郎、梅村 坦、大崎 仁、岸本美緒、草原克豪、  
久保正彰、後藤 明、東條和彦、増田信行  
委任状 有馬朗人、瀬谷博道、長尾真、間野英二

## (3) 東洋学連絡委員会

- 前 期 開催日 2012年5月16日(水)  
 出席者 間野英二、尾崎 康、斯波義信、中根千枝、御牧克己、  
 吉田順一  
 議 題 1. 2011年度財団法人東洋文庫事業報告書について  
 2. その他
- 後 期 開催日 2013年1月30日(水)  
 出席者 榎原 稔、尾崎 康、興膳 宏、間野英二、御牧克己、  
 森元公誠、吉田順一  
 議 題 1. 2012年度財団法人東洋文庫事業中間報告書について  
 2. 2013年度財団法人東洋文庫事業計画書(案)について  
 3. その他

## B. 総務・広報事項

- ・「三菱デジタルライブラリー」(三菱広報委員会)への収蔵品映像展示、「マンスリー三菱」への収蔵品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力等を行い、広報普及活動を図った。
- ・駒込警察署との間に「大規模震災時における施設などの提供に関する協定」を結んだ。
- ・国立大学法人東京藝術大学と財団法人東洋文庫との連携および協力活動に関する協定書を交わした。
- ・本郷消防署より、これまでの水利用地提供について感謝状を授与された。

## C. 設備・営繕事項

建替計画が終了してから1年経過後、1年次検査を実施した。建築・設備面における不具合箇所を施工業者とともに点検し、是正工事を実施した。

## 2. 人事報告

### A. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2012. 4. 1	参事	堀井亮	就職	
〃	研究員	相原佳之	委嘱	
〃	〃	梅原郁	〃	
〃	〃	北村文夫	〃	
〃	〃	窪添慶文	〃	
〃	〃	久保田淳明	〃	
〃	〃	後藤明	〃	
〃	〃	清水宏祐	〃	
〃	〃	曾田三郎	〃	
〃	研究員(兼任)	青木敦	〃	
〃	〃	遠藤光暁	〃	
〃	〃	高野太輔	〃	
〃	〃	清水信行	〃	
〃	〃	武内房司	〃	
〃	〃	水野善文	〃	
2012. 5. 1	研究員	宇都宮美生子	〃	
〃	〃	太田啓子	〃	
2012. 6. 1	〃	尾崎文昭	〃	
〃	研究員(兼任)	楠木賢道	〃	
2012. 6.30	参事	藤村由美子	退職	
2012. 9.26	研究員	西田龍雄	逝去	
2012.10.31	〃	永積洋子	退任	
2012.11.30	〃	酒井憲二	逝去	
2013. 3.31	〃	小名康之	退任	
〃	〃	菊池英夫	〃	
〃	嘱託職員	近藤敦子	退職	



## B. 客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2012. 4. 1	研究員 (客員)	飯島武次	委嘱	
〃	〃	大澤肇	〃	
〃	〃	小名康之	〃	
〃	〃	川崎信定	〃	
〃	〃	C.A. ダニエルス	〃	
〃	〃	古屋昭弘	〃	
2012. 5.31	〃	楠木賢道	退任	
2012. 6. 1	〃	尾形洋一	委嘱	
2012.11. 1	〃	杉山清彦	〃	
2012.12.17	〃	桜井由躬雄	逝去	
2013. 3.31	〃	小名康之	退任	
〃	〃	土田哲夫	〃	
〃	〃	戸倉英美	〃	
〃	〃	長谷川誠夫	〃	

### 3. 会計報告

#### A. 一般会計

#### 一般会計貸借対照表

2013年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,863,867	890,365	973,502
未収収益	3,514,108	5,864,003	△ 2,349,895
未収金	502,093	393,960	108,133
立替金	0	231,754	△ 231,754
商 品	8,462,857	10,072,529	△ 1,609,672
前払費用	3,317,060	4,002,405	△ 685,345
流動資産合計	17,659,985	21,455,016	△ 3,795,031
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	1,041,708,012	1,041,708,012	0
土地	110,494	110,494	0
投資有価証券	2,842,500,275	2,842,501,375	△ 1,100
預金	163,122	163,122	0
基本財産合計	3,884,481,903	3,884,483,003	△ 1,100
(2) 特定資産			
建物	2,575,839,130	2,669,193,702	△ 93,354,572
構築物	159,177,272	170,959,642	△ 11,782,370
什器備品	350,646,333	385,582,230	△ 34,935,897
図書資料	261,749,870	238,265,823	23,484,047
ソフトウェア	7,844,463	9,837,305	△ 1,992,842
退職給付引当資産	56,829,730	52,089,296	4,740,434
建物設備修繕引当資産	180,176,651	161,558,973	18,617,678
P C B引当資産	24,612,381	24,605,000	7,381
長期前払費用	1,635,541	0	1,635,541
特定資産合計	3,618,511,371	3,712,091,971	△ 93,580,600
(3) その他固定資産			
什器備品	4,426,031	5,478,156	△ 1,052,125
ソフトウェア	3,378,541	5,272,418	△ 1,893,877
電話加入権	364,000	364,000	0
長期前払費用	57,322	2,195,506	△ 2,138,184
運営調整積立資産	45,695,734	69,669,703	△ 23,973,969
その他固定資産合計	53,921,628	82,979,783	△ 29,058,155
固定資産合計	7,556,914,902	7,679,554,757	△ 122,639,855
資産合計	7,574,574,887	7,701,009,773	△ 126,434,886

II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,942,253	3,829,602	△ 887,349
前受金	12,350	0	12,350
預り金	1,471,469	2,416,398	△ 944,929
賞与引当金	7,459,017	7,390,861	68,156
流動負債合計	11,885,089	13,636,861	△ 1,751,772
2. 固定負債			
退職給付引当金	56,829,730	52,089,296	4,740,434
P C B引当金	24,605,000	24,605,000	0
固定負債合計	81,434,730	76,694,296	4,740,434
負債合計	93,319,819	90,331,157	2,988,662
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	3,323,174,166	3,493,027,513	△ 169,853,347
補助金	207,828,688	186,679,204	21,149,484
分担金	33,328,305	31,518,974	1,809,331
固定資産受贈額	24,883,146	25,286,418	△ 403,272
指定正味財産合計	3,589,214,305	3,736,512,109	△ 147,297,804
(うち基本財産への充当額)	(202,110,494)	(202,110,494)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	(3,387,103,811)	(3,504,049,904)	(△ 116,946,093)
2. 一般正味財産	3,892,040,763	3,874,166,507	17,874,256
(うち基本財産への充当額)	(3,682,371,409)	(3,682,372,509)	( △ 1,100)
(うち特定資産への充当額)	(149,972,830)	(131,347,771)	( 18,625,059)
正味財産合計	7,481,255,068	7,610,678,616	△ 129,423,548
負債及び正味財産合計	7,574,574,887	7,701,009,773	△ 126,434,886

# 一 般 会 計 正 味 財 産 増 減 計 算 書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	86,194,296	88,000,787	△ 1,806,491
特定資産運用益	90,788	102,548	△ 11,760
受取寄付金	260,303,347	61,703,000	198,600,347
維持会費収入	90,150,000	60,150,000	30,000,000
寄付金収入	170,153,347	1,553,000	168,600,347
受取会費	436,000	634,000	△ 198,000
受取分担金	11,690,669	14,096,274	△ 2,405,605
受託金	7,477,350	8,920,000	△ 1,442,650
事業収益	27,559,586	18,428,112	9,131,474
受取補助金等	88,850,516	77,052,481	11,798,035
雑収益	4,696,685	11,412,439	△ 6,715,754
経常収益計	487,299,237	280,349,641	206,949,596
(2) 経常費用			
事業費	444,686,143	275,503,303	169,182,840
調査研究費	26,664,450	27,278,644	△ 614,194
資料収集・整理費	15,002,011	14,272,206	729,805
研究資料出版費	21,878,685	15,955,042	5,923,643
普及活動費	25,052,243	19,494,880	5,557,363
学術情報提供費	36,191,836	26,660,150	9,531,686
地域研究プログラム費	11,257,202	14,097,920	△ 2,840,718
受託研究費	6,802,011	8,116,021	△ 1,314,010
人件費	113,429,368	106,687,912	6,741,456
役員報酬	6,432,000	6,432,000	0
給料手当	81,694,624	77,821,449	3,873,175
賞与引当金繰入	6,257,024	5,984,965	272,059
退職給付費用	6,546,836	4,758,276	1,788,560
福利厚生費	12,498,884	11,691,222	807,662
事務費	188,408,337	42,940,522	145,467,809
設備保守修繕費	5,859,471	2,335,076	3,524,395
水道光熱費	17,332,880	16,629,979	702,901
賃借料	87,318	209,076	△ 121,758
業務委託費	7,164,975	8,026,571	△ 861,596
減価償却費	145,470,139	6,067,549	139,402,590
諸雑費	12,493,554	9,672,277	2,821,277
管理費	25,346,254	25,097,016	249,238
人件費	19,296,194	20,874,436	△ 1,578,242
役員報酬	4,288,000	4,288,000	0
給料手当	10,086,158	11,089,388	△ 1,003,230
賞与引当金繰入	1,201,993	1,405,896	△ 203,903
退職給付費用	1,457,278	1,641,764	△ 184,486
福利厚生費	2,262,765	2,449,388	△ 186,623
事務費	6,050,060	4,222,580	1,827,480
設備保守修繕費	59,187	23,587	35,600
水道光熱費	175,080	167,980	7,100
謝金	2,789,290	2,905,380	△ 116,090
減価償却費	1,614,416	367,032	1,247,384
諸雑費	1,412,087	758,601	653,486
経常費用計	470,032,397	300,600,319	169,432,078
当期経常増減額	17,266,840	△ 20,250,678	37,517,518

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈額	704,681	0	704,681
過年度受取寄付金	0	74,385,740	△ 74,385,740
経常外収益計	704,681	74,385,740	△ 73,681,059
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	27,265	189,955	△ 162,690
指定正味財産への振替額	0	204,874,067	△ 204,874,067
経常外費用計	27,265	205,064,022	△ 205,036,757
当期経常外増減額	677,416	△ 130,678,282	131,355,698
税引前当期一般正味財産増減額	17,944,256	△ 150,928,960	168,873,216
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	17,874,256	△ 150,998,960	168,873,216
一般正味財産期首残高	3,874,166,507	4,025,165,467	△ 150,998,960
一般正味財産期末残高	3,892,040,763	3,874,166,507	17,874,256
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	110,000,000	110,000,000	0
受取分担金	13,500,000	17,570,000	△ 4,070,000
受託金	7,477,350	8,920,000	△ 1,442,650
固定資産受贈額	301,409	2,189,284	△ 1,887,875
特別会計からの繰入額	0	3,365,302,759	△ 3,365,302,759
一般正味財産からの振替額	0	204,874,067	△ 204,874,067
一般正味財産への振替額	△ 278,576,563	△ 174,454,495	△ 104,122,068
当期指定正味財産増減額	△ 147,297,804	3,534,401,615	△ 3,681,699,419
指定正味財産期首残高	3,736,512,109	202,110,494	3,534,401,615
指定正味財産期末残高	3,589,214,305	3,736,512,109	△ 147,297,804
III 正味財産期末残高	7,481,255,068	7,610,678,616	△ 129,423,548

## 〈一般会計財務諸表に対する注記〉

公益法人会計基準（平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ）を採用しています。なお、財務諸表における前年度の数値は、前年度の一般会計にかかる財務諸表の数値であります。

### (1) 重要な会計方針

#### ①有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

#### ②棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

#### ③固定資産の減価償却方法

・有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30～50年

構築物 15～20年

什器備品 3～15年

・無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年

#### ④引当金の計上基準

・賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

・退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

うち、役員退職給付引当金 17,420,000 円が含まれています。

## ・PCB引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

## ⑤消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

## (2) 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	-	-	1,041,708,012
土地	110,494	-	-	110,494
有価証券	2,842,501,375	500,000,000	500,001,100	2,842,500,275
預金	163,122	500,000,576	500,000,576	163,122
小 計	3,884,483,003	1,000,000,576	1,000,001,676	3,884,481,903
特定資産				
建物	2,669,193,702	-	93,354,572	2,575,839,130
構築物	170,959,642	-	11,782,370	159,177,272
什器備品	385,582,230	296,125	35,232,022	350,646,333
図書資料	238,265,823	23,484,047	-	261,749,870
ソフトウェア	9,837,305	174,562	2,167,404	7,844,463
退職給付引当資産	52,089,296	8,004,114	3,263,680	56,829,730
建物設備修繕引当資産	161,558,973	21,768,725	3,151,047	180,176,651
PCB引当資産	24,605,000	7,381	-	24,612,381
長期前払費用	-	1,635,541	-	1,635,541
小 計	3,712,091,971	55,370,495	148,951,095	3,618,511,371
合 計	7,596,574,974	1,055,371,071	1,148,952,771	7,502,993,274

### (3) 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	－	(1,041,708,012)	－
土地	110,494	(110,494)	－	－
有価証券	2,842,500,275	(202,000,000)	(2,640,500,275)	－
預金	163,122	－	(163,122)	－
小 計	3,884,481,903	(202,110,494)	(3,682,371,409)	－
特定資産				
建物	2,575,839,130	(2,575,839,130)	－	－
構築物	159,177,272	(159,177,272)	－	－
什器備品	350,646,333	(350,646,333)	－	－
図書資料	261,749,870	(261,749,870)	－	－
ソフトウェア	7,844,463	(7,844,463)	－	－
退職給付引当資産	56,829,730	－	－	(56,829,730)
建物設備修繕引当資産	180,176,651	(30,211,202)	(149,965,449)	－
P C B引当資産	24,612,381	－	(7,381)	(24,605,000)
長期前払費用	1,635,541	(1,635,541)	－	－
小 計	3,618,511,371	(3,387,103,811)	(149,972,830)	(81,434,730)
合 計	7,502,993,274	(3,589,214,305)	(3,832,344,239)	(81,434,730)

### (4) 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,793,532,666	△ 217,693,536	2,575,839,130
構築物	179,828,553	△ 20,651,281	159,177,272
什器備品	417,767,618	△ 67,121,285	350,646,333
ソフトウェア	10,924,304	△ 3,079,841	7,844,463
小 計	3,402,053,141	△ 308,545,943	3,093,507,198
その他固定資産			
什器備品	41,861,875	△ 37,435,844	4,426,031
ソフトウェア	12,352,010	△ 8,973,469	3,378,541
小 計	54,213,885	△ 46,409,313	7,804,572
合 計	3,456,267,026	△ 354,955,256	3,101,311,770



## (5) 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
利付国債	2,500,275	2,500,960	685
三菱 UFJ セキュリティーズインターナショナル	300,000,000	313,221,000	13,221,000
三菱 UFJ セキュリティーズインターナショナル	1,000,000,000	1,052,230,000	52,230,000
三菱 UFJ 証券ホールディングスクレジットリンク債	500,000,000	508,785,000	8,785,000
三菱 UFJ 証券クレジットリンク債	500,000,000	494,705,000	△ 5,295,000
三菱 UFJ セキュリティーズインターナショナル	500,000,000	497,235,000	△ 2,765,000
共同発行市場公募地方債	40,000,000	40,934,800	934,800
短期国債	29,997,630	29,998,290	660
合 計	2,872,497,905	2,939,610,050	67,112,145

## (6) 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	186,679,204	110,000,000	88,850,516	207,828,688	指定正味財産 (注)
		186,679,204	110,000,000	88,850,516	207,828,688	-

(注) 当期末残高は、特定資産に計上されている図書及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

## (7) 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	135,429,025
減価償却費計上による指定解除額	142,442,857
経常外収益への振替額	
減価償却費計上による指定解除額	704,681
合 計	278,576,563

## (8) 退職給付関係

### ①採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度をもうけています。

### ②退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	△ 56,829,730 円
退職給付引当金	<u>56,829,730 円</u>

### ③退職給付費用に関する事項

勤務費用	<u>8,004,114 円</u>
退職給付費用	<u>8,004,114 円</u>

### ④退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しています。

## (9) 金融商品関係

### ①金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

### ②金融商品の時価等に関する事項

#### ・現預金及び基本財産の預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### ・退職給付引当資産

#### ・PCB引当資産

#### ・運営調整積立資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### ・建物設備修繕引当資産

これらは預金及び前述(5)の短期国債で構成されております。

預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

短期国債の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述(5)に記載されているため、開示は省略しております。

・投資有価証券

これらの時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述(5)に記載されているため、開示は省略しております。

## B. 財産目録

### 財 産 目 録

2013年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	額
(資産の部)		
I 流動資産		
現金預金		
現金	439,535	
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金	1,415,732	
郵便振替口座	8,600	
未収収益		
有価証券未収利息	3,514,108	
未収金		
複写手数料等	502,093	
商 品		
出版物等	8,462,857	
前払費用		
保険料等	3,317,060	
流動資産合計		17,659,985
II 固定資産		
(1) 基本財産		
図書資料	1,041,708,012	
和 漢 書	515,330 冊	
洋 書	364,722 冊	
複 写 資 料	29,800 点	
土 地		110,494
所 在 地	東京都文京区本駒込2丁目28番21号	
地 番	東京都文京区本駒込2丁目147番1号	
地 目	宅 地	
面 積	3,687.63 平方メートル	
投資有価証券		
満期保有目的の債券	2,842,500,275	
預 金		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金	163,122	
基本財産合計	3,884,481,903	

(2) 特定資産			
建 物			
所 在	東京都文京区本駒込2丁目147、157-2		
建物 (本館)	構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造	2,386,836,886	
	建築面積 1,351.67 平方米		
	延床面積 6,698.12 平方米		
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備		
建物 (付属棟)	構 造 鉄骨造	189,002,244	
	建築面積 216.45 平方米		
	延床面積 408.14 平方米		
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備		
構 築 物		159,177,272	
什 器 備 品		350,646,333	
金 庫 他	153 点		
図 書 資 料		261,749,870	
和 漢 書	22,988 冊		
洋 書	29,464 冊		
マイクロフィルム等	917 冊		
ソフトウェア	16 点	7,844,463	
退職給付引当資産			
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		829,730	
〃 定期預金		56,000,000	
建物設備修繕引当資産			
満期保有目的の債券		29,997,630	
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		779,021	
〃 定期預金		149,400,000	
PCB引当資産			
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		7,381	
〃 定期預金		24,605,000	
長期前払費用		1,635,541	
データベース利用料			
特定資産合計		3,618,511,371	
(3) その他固定資産			
什 器 備 品		4,426,031	
事務用器具等	138 点		
ソフトウェア	11 点	3,378,541	
電話加入権	5 回線	364,000	
長期前払費用		57,322	
保 險 料			
運営調整積立資産			
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		5,695,734	
〃 定期預金		40,000,000	
その他固定資産合計		53,921,628	
固定資産合計			7,556,914,902
資 産 合 計			7,574,574,887
(負 債 の 部)			
I 流 動 負 債			
未 払 金	出版物印刷料等	2,942,253	
前 受 金	受講料等	12,350	
預 り 金	職員に対する給与源泉所得税等	1,471,469	
賞与引当金	役員賞与引当額	7,459,017	
流動負債合計			11,885,089
II 固 定 負 債			
退職給与引当金	役員退職金引当額	56,829,730	
PCB引当金	PCB処理費用	24,605,000	
固定負債合計			81,434,730
負 債 合 計			93,319,819
正 味 財 産			7,481,255,068

## C. 一般会計収支

## 一般会計収支計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	88,000,000	86,195,396	1,804,604	
維持会費収入	90,000,000	90,150,000	△ 150,000	
寄付金収入	500,000	300,000	200,000	
会費収入	500,000	436,000	64,000	
分担金収入	13,500,000	13,500,000	0	
受託金収入	7,477,350	7,477,350	0	
研究活動収入	38,000,000	27,559,586	10,440,414	
補助金等収入	110,000,000	110,000,000	0	
雑収入	3,000,000	4,670,654	△ 1,670,654	
事業活動収入計	350,977,350	340,288,986	10,688,364	
2. 事業活動支出				
事業費	301,977,350	314,036,466	△ 12,059,116	
調査研究費	27,000,000	26,664,450	335,550	
資料収集・整理費	35,500,000	36,410,964	△ 910,964	
研究資料出版費	19,000,000	21,878,685	△ 2,878,685	
普及活動費	28,500,000	25,052,243	3,447,757	
学術情報提供費	30,000,000	34,164,579	△ 4,164,579	
地域研究プログラム費	13,500,000	13,327,012	172,988	
受託研究費	7,477,350	6,802,011	675,339	
人件費	108,000,000	106,882,532	1,117,468	
事務費	33,000,000	42,853,990	△ 9,853,990	
管理費	21,300,000	25,607,390	△ 4,307,390	
人件費	18,000,000	21,102,596	△ 3,102,596	
事務費	3,300,000	4,504,794	△ 1,204,794	
事業活動支出計	323,277,350	339,643,856	△ 16,366,506	
事業活動収支差額	27,700,000	645,130	27,054,870	

II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
退職給付引当資産取崩収入	3,000,000	3,263,680	△ 263,680	
建物設備修繕引当資産取崩収入	3,000,000	3,151,047	△ 151,047	
運営調整積立資産取崩収入	24,000,000	24,000,000	0	
投資活動収入計	30,000,000	30,414,727	△ 414,727	
2. 投資活動支出				
固定資産取得支出	2,000,000	1,804,012	195,988	
退職給付引当資産取得支出	8,000,000	7,989,432	10,568	
建物設備修繕引当資産取得支出	21,700,000	21,700,000	0	
運営調整積立資産取得支出	23,000,000	0	23,000,000	
投資活動支出計	54,700,000	31,493,444	23,206,556	
投資活動収支差額	△ 24,700,000	△ 1,078,717	△ 23,621,283	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	(注1)
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	3,000,000	△ 433,587	3,433,587	
前期繰越収支差額	△ 2,254,374	△ 2,254,374	0	
次期繰越収支差額	745,626	△ 2,687,961	3,433,587	

(注) 1. 借入金限度額 30,000,000 円

## 〈一般会計収支計算書に対する注記〉

## (1) 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収収益、未収金、立替金、前払費用、未払金、前受金、預り金、賞与引当金を含めています。

なお、前期末残高及び当期末残高は、下記2に記載するとおりです。

## (2) 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	890,365	1,863,867
未収収益	5,864,003	3,514,108
未収金	393,960	502,093
立替金	231,754	0
前払費用	4,002,405	3,317,060
合 計	11,382,487	9,197,128
未払金	3,829,602	2,942,253
前受金	0	12,350
預り金	2,416,398	1,471,469
賞与引当金	7,390,861	7,459,017
合 計	13,636,861	11,885,089
次期繰越収支差額	△ 2,254,374	△ 2,687,961

## Ⅵ 役 職 員 名 簿

2013年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専 務 理 事	山 川 尚 義	東洋文庫専務理事
理 事	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫研究部長 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター 研究フェロー
〃	平 野 健一郎	東洋文庫普及展示部長 国立公文書館アジア歴史資料センター長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
〃	福 澤 武	三菱地所株式会社相談役
〃	三 木 繁 光	株式会社三菱東京UFJ銀行相談役
監 事	西 村 敏 行	三菱金曜会事務局長
〃	原 實	日本学士院会員 東京大学名誉教授



## 2. 評 議 員

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	荒 蒔 康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有 馬 朗 人	科学技術館館長 武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	大 崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	草 原 克 豪	前拓殖大学副学長
〃	久 保 正 彰	日本学士院院長 東京大学名誉教授
〃	後 藤 明	東洋大学教授 東京大学名誉教授
〃	瀬 谷 博 道	旭硝子株式会社相談役
〃	東 條 和 彦	三菱商事株式会社顧問
〃	長 尾 真	国立国会図書館館長 京都大学名誉教授
〃	増 田 信 行	三菱重工業株式会社相談役
〃	間 野 英 二	京都大学名誉教授

## 3. 東洋学連絡委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委 員	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学元教授
〃	興 膳 宏	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
〃	間 野 英 二	京都大学名誉教授
〃	御 牧 克 己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森 本 公 誠	東大寺長老
〃	吉 田 順 一	早稲田大学名誉教授

#### 4. 名誉研究員

氏 名	所 属 機 関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California
GERNET, Jacques	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓 永 愚	Seoul 大学校 (Prof. Emeritus)
黄 寬 重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
KYCHANOV, E. I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
李 伯 重	清華大学人文社会科学学院經濟学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kırgızistan-Türkiye Manas Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

## 5. 職員・研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
総 務 部	理 事 長	横 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文 庫 長	斯 波 義 信	研究員を兼務
	専 務 理 事	山 川 尚 義	総務部長を兼務
	課 長	柴 代 淳 子	
普及展示部	参 事	牧 祐 紀子	
	〃	堀 井 亮	
	部 長	平 野 健一郎	研究員を兼務
	主 幹 研 究 員	牧 野 元 紀	
図 書 部	研 究 員	岡 崎 礼 奈	
	参 事	長 谷 川 茂 広	
	〃	藤 代 和 卓	
	部 長	田 仲 一 成	研究員を兼務
	課 長	會 谷 佳 光	研究員を兼務
	研 究 員	櫻 井 徹 子	
	〃	篠 崎 陽 子	
	〃	山 村 義 照	
	参 事	橘 伸 子	
	部 長	濱 下 武 志	研究員を兼務
研 究 部	主 幹 研 究 員	瀧 下 彩 子	
	研 究 員	原 山 隆 広	
	〃	宇 都 宮 美 生	
	〃	太 田 啓 子	
	〃	相 原 佳 之	現代中国研究資料室派遣研究員
	〃	徳 原 靖 浩	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
	〃	池 田 温	東京大学名誉教授 創価大学名誉教授
	〃	池 田 雄 一	中央大学名誉教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学名誉教授
	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	梅 田 博 之	麗澤大学名誉教授 東京外国語大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	尾 崎 文 昭	東京大学名誉教授
〃	〃	小 田 壽 典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	辛 島 昇	東京大学名誉教授 大正大学名誉教授
〃	〃	北 村 文 夫	
〃	〃	菊 池 英 夫	中央大学元教授
〃	〃	草 野 靖	熊本大学元教授
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	久保田 淳	東京大学名誉教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学名誉教授
〃	〃	設 樂 國 廣	立教大学名誉教授
〃	〃	薮 勇 造	東京大学名誉教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学名誉教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	
〃	〃	末 成 道 男	国立民族学博物館特別客員教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学元教授
〃	〃	多 田 狷 介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	〃	千 葉 昶 弘	学校法人桐朋学園元理事長
〃	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	〃	枳 尾 武	成城大学名誉教授
〃	〃	土 肥 義 和	國学院大学名誉教授
〃	〃	鳥 海 靖	東京大学名誉教授
〃	〃	中 兼 和 津 次	東京大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学元教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	延 廣 真 治	東京大学名誉教授
〃	〃	濱 島 敦 俊	暨南国際大学教授
〃	〃	原 實 實	東京大学名誉教授
〃	〃	藤 井 昇 三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学名誉教授
〃	〃	本 庄 比 佐 子	
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学名誉教授
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学名誉教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	初 山 明	埼玉大学元教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良大学元教授
〃	〃	矢 吹 晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 本 毅 雄	情報・システム研究機構国立 情報学研究所名誉教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学名誉教授
研 究 部	研究員(兼任)	青 木 敦	青山学院大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士舘大学教授
〃	〃	今 西 祐 一 郎	人間文化研究機構国文学研究 資料館館長
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	遠 藤 光 暁	青山学院大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学准教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学大学院教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	楠 木 賢 道	筑波大学教授
〃	〃	高 野 太 輔	大東文化大学准教授
〃	〃	小 松 久 男	東京外国語大学特任教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(兼任)	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	関 本 照 夫	国立民族学博物館特任教授 東京大学名誉教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学教授
〃	〃	武 内 房 司	学習院大学教授
〃	〃	長 沢 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学教授
〃	〃	山 本 英 史	慶應義塾大学教授
〃	〃	吉 田 光 男	放送大学教授
〃	〃	吉 水 千鶴子	筑波大学教授
〃	嘱託職員	近 藤 敦 子	

## 6. 客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	青 山 瑠 妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋 葉 淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅 田 進 史	駒沢大学講師
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館館長
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 明 子	天理大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	飯 島 涉	青山学院大学教授
〃	〃	池 田 美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石 川 寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	磯 貝 健 一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井 上 和 人	明治大学特任教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 田 知 行	大東文化大学教授
〃	〃	宇 山 智 彦	北海道大学スラブ研究センター 教授
〃	〃	江 川 ひかり	明治大学教授
〃	〃	大河原 知 樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大 澤 肇	中部大学講師
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学教授
〃	〃	大 谷 俊 太	京都女子大学教授
〃	〃	尾 形 洋 一	早稲田大学講師
〃	〃	岡 野 誠	明治大学教授
〃	〃	丘 山 新	東京大学東洋文化研究所元教授
〃	〃	小 川 裕 充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小 奥 村 哲	首都大学東京教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	梶 谷 懐	神戸学院大学大学院准教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加 藤 弘 之	神戸大学教授
〃	〃	金 子 修 一	國學院大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学教授
〃	〃	川 合 安 定	東北大学大学院教授
〃	〃	川 崎 信 定	筑波大学名誉教授 大正大学客員教授
〃	〃	川 島 真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	京都大学地域研究統合情報セ ンター教授
〃	〃	北 川 香 子	東京大学大学院助教

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	北 本 朝 展	情報・システム研究機構国立情報学研究所准教授
〃	〃	金 鳳 珍	北九州市立大学教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学言語学研究所教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学大学院教授
〃	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	巖 善 平	同志社大学大学院教授
〃	〃	黄 東 蘭	愛知県立大学准教授
〃	〃	興 栢 一 郎	神田外語大学教授
〃	〃	小 嶋 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	小 南 一 郎	泉屋博古館館長 京都大学名誉教授
〃	〃	近 藤 信 彰	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	齋 藤 真麻里	人間文化研究機構国文学研究資料館准教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 健太郎	北海道大学大学院准教授
〃	〃	佐 藤 慎 一	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 宏	一橋大学教授
〃	〃	佐 藤 仁 史	一橋大学大学院准教授
〃	〃	澤 江 史 子	東北大学大学院准教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	東京大学東洋文化研究所特任研究員
〃	〃	庄垣内 正 弘	京都産業大学教授
〃	〃	城 山 智 子	一橋大学大学院教授
〃	〃	真 道 洋 子	青山学院大学非常勤講師
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	須 川 英 徳	横浜国立大学教授
〃	〃	杉 山 清 彦	東京大学大学院准教授
〃	〃	鈴 木 恵 美	早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授



VI 役職員名簿

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	鈴 木 均	日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員
〃	〃	鈴 木 博 之	山形短期大学講師 東北学院大学講師
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学大学院教授
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授
〃	〃	關 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	高 遠 拓 児	中京大学准教授
〃	〃	武 内 紹 人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学教授
〃	〃	田 中 明 彦	独立行政法人国際協力機構理事 専務
〃	〃	田 中 仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田 中 比呂志	東京学芸大学教授
〃	〃	C.A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	坪 井 祐 司	立教大学非常勤講師
〃	〃	寺 田 浩 明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐 成	桃山学院大学教授
〃	〃	唐 亮	早稲田大学政治経済学術院教授
〃	〃	戸 倉 英 美	東京大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	鳥根大学准教授
〃	〃	中 谷 英 明	東京外国語大学教授
〃	〃	長 縄 宣 博	北海道大学スラブ研究センター 准教授
〃	〃	中 村 元 哉	津田塾大学准教授
〃	〃	新 村 容 子	岡山大学大学院教授
〃	〃	西 英 昭	九州大学法学研究院准教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学准教授
〃	〃	長谷川 誠 夫	千葉工業大学講師
〃	〃	濱 田 正 美	龍谷大学教授
〃	〃	濱 本 真 美	東京大学大学院客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平 野 聡	東京大学准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	慶應義塾大学大学院助教
〃	〃	藤 田 忠 夫	国土舘大学教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	麗沢大学客員教授 富山大学名誉教授
〃	〃	古 田 和 子	慶應義塾大学教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	寶 劍 久 俊	日本貿易振興機構アジア経済 研究所研究員
〃	〃	星 泉	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松 井 太	弘前大学教授
〃	〃	松 重 光 浩	日本大学教授
〃	〃	松 永 泰 行	東京外国語大学准教授
〃	〃	松 本 弘	大東文化大学教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学教授
〃	〃	三 田 昌 彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	宮 脇 淳 子	東京外国語大学講師
〃	〃	村 井 章 介	東京大学教授
〃	〃	村 上 衛	京都大学人文科学研究所准教授
〃	〃	村 田 雄 二 郎	東京大学大学院教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学政治経済学術院教授
〃	〃	守 川 知 子	北海道大学大学院准教授
〃	〃	森 平 雅 彦	九州大学大学院准教授
〃	〃	森 安 孝 夫	近畿大学特任教授
〃	〃	矢 島 洋 一	京都外国語大学非常勤講師
〃	〃	柳 谷 あゆみ	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	湯 浅 剛	防衛省防衛研究所主任研究官
〃	〃	吉 澤 誠 一 郎	東京大学大学院准教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	吉 田 伸 之	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学大学院准教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学大学院准教授
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学准教授



公益財団法人 **東洋文庫年報** 2012 年度

---

---

2013 年 11 月 1 日 発行

発行者 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 21 号

公益財団法人 **東洋文庫**  
榎原 稔

印刷所 株式会社 日相印刷

発行所 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 21 号

公益財団法人 **東洋文庫**

---

本書は公益財団法人東洋文庫に対する 2013 年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。

